教　育　要　項

—— 履修の手引き ——

医歯学融合教育・教養教育

2013 年 4 月～2014 年 3 月

東京医科歯科大学医学部医学科　第 2・3 学年
東京医科歯科大学歯学部歯学科　第 2・3 学年

目　　次

医歯学融合教育
医歯学融合カリキュラムについて…… 1
第２学年
医歯学基盤教育　年間スケジュール…… 5
医歯学基盤教育　生命倫理…… 6
医歯学基盤教育　臨床統計…… 8
医歯学基盤教育　グローバル・コミュニケーション…… 10
頭頸部・基礎…… 12
第３学年
医歯学基盤教育　年間スケジュール…… 17
医歯学基盤教育　生命倫理…… 18
医歯学基盤教育　臨床統計…… 20
医歯学基盤教育　グローバル・コミュニケーション…… 22
頭頸部・臨床…… 24
老年医学…… 28
コンピテンシー
科目を履修して得られる能力（医学科コンピテンシーより）…… 32
科目を履修して得られる能力（歯学科コンピテンシーより）…… 36
成績評価判定…… 43
教養教育
教養教育…… 45
生命科学基礎（生物学・化学・物理学）…… 49
主題別教育について…… 97

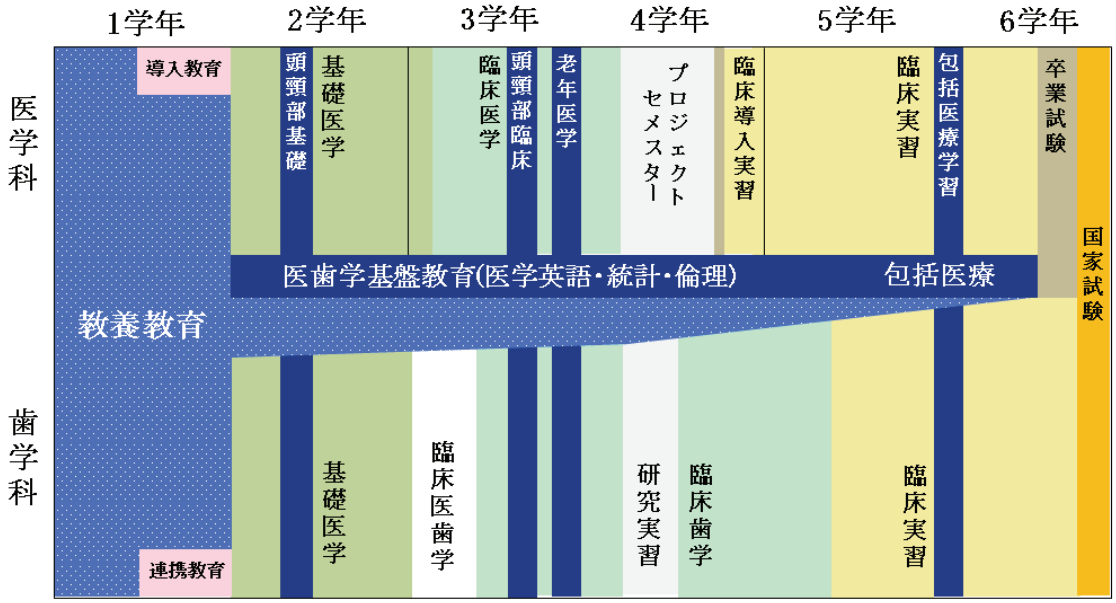
湯島キャンパスマップ……111
講義室平面図……112

※　医歯学融合教育に係る履修規則等は、医学科または歯学科の教育要項を参照。

医歯学融合教育

● 医歯学融合教育（Ｍ２・Ｄ２）

ますます進む高齢化や医療の進歩および複雑化により、これからの医療には多職種間で連携・強調のとれた包括的医療が必要とされます。そこで本学では、医学部と歯学部を併せ持つ医療系総合大学としての特色を活かし、複数学科の学生がともに共通目標に向かって学ぶ融合教育カリキュラムを開発しました。具体的には、複数学科、特に医学科と歯学科の学生が卒業時に獲得しておくべき知識・技能・態度のうち、共通するものであり共同で学ぶことにより学習効果が高まるもの、そして将来の連携・協調のもとの包括的医療提供のための基盤となるものを教育対象とし、以下のように 6 年間を通して様々な学習段階でともに教え合いながら学ぶ機会を創出しました。



● 医歯学基盤教育（2 年次～4 年次まで）

医学歯学を学ぶ上で基盤となる「英語」「臨床統計」「生命倫理」に関し、2 年次から 4 年次にわたってともに学びます。従来「統計」「倫理」は医歯学専門教育の始まる前に行われていましたが、今回それらを関連する内容の専門教育と並行して配置し、そして内容をリンクさせることにより、学習効果を高める工夫を行いました。

● 頭頸部ブロック(2 年次:頭頸部基礎(7 月)　3 年次：頭頸部臨床(1 月))

頭頸部領域は、医師・歯科医師ともに診療にかかわる領域であり、医歯学生の両者に非常に重要な領域です。医科および歯科の教員がそれぞれの得意分野を生かし、両学科の学生に同一の教育を行い、両学科の学生のより充実した学習につなげます。

2 年次に行われる頭頸部基礎ブロックでは、頭頸部(頚から上の脳を除いた領域)に関する正常な構造・機能に関して、両学科の解剖学・生理学の教員が講義を行います。並行して 2 学科合同の実習を行い、知識の定着につなげます。

3 年次に行われる頭頸部臨床ブロックでは、主として眼科・耳鼻咽喉科・頭頸部外科・形成外科・口腔外科の臨床 5 科の教員が臨床講義を行います。講義の携帯として、患者参加型講義や症例基盤型学習機会なども用意される予定です。頭頸部領域の疾患を理解するうえで必要となる歯科・脳神経外科の講義の一部や頭頸部領域の病理実習もこの期間に含まれます。

● 老年医学ブロック(3 年次(2 月))

高齢化が進む我が国の未来社会において、「高齢者」とその生理的変化、および、高齢者によくみられる病態を知ることは、医学科・歯学科両学生共に必須のこととなります。3 年次に 2 週間で行われる老年医学ブロックでは、医学科・歯学科合同の講義・実習を通じて高齢者について学びます。

● 包括医療学習(6 年次)

6 年次の最初に行わる包括医療学習では、専門知識・技能習得が進んだ医学部・歯学部の各学科最終学年の学生が一同に会し、各学科学生の混在する少人数グループ教育を行います。ここでは、症例シナリオをもとに、各学生がそれまでに学んだ知識・技能を振り返りながら統合・応用してグループとして共通の目標にむけて問題解決に取り組み、多職種間で連携・協調のとれた包括的医療を提供できる医療人となるための資質を養います。

第２学年

医歯学基盤教育・教養教育（木曜日午前） 年間スケジュールM2・D2

		1限(9:00-9:50)	2限(10:05-10:55)	3限(11:10-12:00)
4月18日		生命科学基礎 （生物学） （医学科・歯学科2年生対象） （服部・伊藤）	主題別選択Ⅰ（前半） （医学科・歯学科2年生対象） （教養部教員）	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 1
4月25日				臨床統計 1
5月 2日				医学英語予備日
5月 9日				臨床統計 2
5月16日				ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 2
5月23日				臨床統計 3
5月30日				臨床統計 4
6月 6日				臨床統計 5
6月13日			主題別選択Ⅰ（後半） （医学科・歯学科2年生対象） （教養部教員）	臨床統計 6
6月20日				臨床統計 7
6月27日		生命科学基礎（化学） （医学科・歯学科2年生対象） （奈良・澤野）		臨床統計（復習・応用演習）
7月 4日				生命倫理 1
7月11日				生命倫理 2
7月18日				ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 3
7月25日				ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 4
8月 1日	夏期休暇			
8月 8日	夏期休暇			
8月15日	夏期休暇			
8月22日	夏期休暇			
8月29日	夏期休暇			
9月 5日	試験期間			
9月12日	枠なし			
9月19日	枠なし	教養教育試験	教養教育試験	医歯学融合予備
9月26日	枠なし			
10月 3日		生命科学基礎（化学） （医学科・歯学科2年生対象） （奈良・澤野）	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 5	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 6
10月10日			ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 7	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 8
10月17日	解剖体追悼式			
10月24日	試験	生命科学基礎（化学） （医学科・歯学科2年生対象） （奈良・澤野）	医歯学基盤教育予備	医歯学基盤教育予備
10月31日			臨床統計 8	臨床統計 9
11月 7日			臨床統計10	臨床統計11
11月14日		生命科学基礎 （物理学） （医学科・歯学科2年生対象） （千葉・越野）	臨床統計12	臨床統計13
11月21日			臨床統計（復習・応用演習）	臨床統計14
11月28日			ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 9	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ10
12月 5日			ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ11	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ12
12月12日			臨床統計15	臨床統計16
12月19日			臨床統計（復習・応用演習）	臨床統計17
12月26日	冬期休暇			
1月 2日	冬期休暇			
1月 9日	試験期間			
1月16日		生命科学基礎（物理学） （医学科・歯学科2年生対象） （千葉・越野）	臨床統計18	臨床統計19
1月23日			臨床統計20	臨床統計（復習・応用演習）
1月30日			ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ13	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ14
2月 6日			ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ15	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ16
2月13日		教養教育試験	教養教育試験	臨床統計（補講・再試験）
2月20日	試験期間			
2月27日	試験期間			
3月 6日	再試験期間	教養教育再試験	教養教育再試験	教養教育再試験
3月13日	再試験期間			
3月20日	春期休暇			
3月27日	春期休暇			

＊ 4月8日（月）14:20～15:40医歯学融合教育オリエンテーション（M2・D2）があります。

＊ 臨床統計の（復習・応用演習）では試験を行います。

＊ 1限9時開始、時限間の休憩15分のため昼休みが10分短くなります。

授業科目名	生命倫理 （英訳） Bioethics	授業責任者	吉田 雅幸 水口 俊介

○授業回数・試験回数

授業 22 回 試験 2 回 （2年次～4年次）

○科目を履修して得られる能力

コンピテンシー → 別表を参照

○目的・到達目標

医師あるいは歯科医師としての視点と倫理観の養成を図る。教養教育で培った文献型倫理学から発展させ、医療プロフェッショナルとして持つべき視点とそれにふさわしい倫理的思考について学習する。すなわち、将来実際に経験することになる医療や研究の現場の具体的事例について、単に批評するだけでは済まされず、実際に判断し、指示を出し、さらにその責任を取らなければならない立場にある医師および歯科医師の視点と倫理的思考について学習し、自ら考えることでそれを実践する。医師、歯科医師をはじめとした医療者には、医療を担うにふさわしい倫理観を持つことが期待され、それゆえにわが国の医療関連法は性善説で成り立っている。

この講義では、医療倫理、研究倫理の概要を理解した上で、医療や研究の現場で実際に生じている課題を学び、それぞれの場面における医療者の視点と医療者として必要とされる倫理的な思考を身につけることを目標としている。臨床の課題はより現実的に考えることが重要であるため、できる限り当該臨床科目の履修時期にあわせて講義予定を組んでいる。

担当講師は、医療のさまざまな領域で活動する専門医、専門職の講師をはじめとして、医療以外の分野で活動している実務者にもそれぞれの立場からみた医療や研究について、すなわち他職種の倫理観を含めて問題提起あるいは情報提供を得て、医療者・研究者の倫理について実践的な講義を展開する。

学生が実際に考えることが重要であるため、可能な限りグループワーク、討論、発表といった、単なる座学ではなく、参加型の講義形式を予定している。諸君の積極的な参加を期待している。

第2学年においては、医療者としての視点および倫理観について導入と総論的事項について学習する。第3学年および第4学年において、医療および研究における具体的事例とともにその倫理的問題点と対応について学習する。

○学習方法

講義

○教科書 （授業において学生の所持を前提とする書籍）

教科書は使用せず、レジュメ・資料等をそのつど配布する。

○参考書 （学習の参考になる書籍）

参考文献は講義のなかで随時紹介する。ただし、以下に挙げる文献については各自で読んでおくこと。
①吉田雅幸・小笹由香編『遺伝診療をとりまく社会―その科学的・倫理的アプローチ』（ブレーン出版、2007年）
②バーバード・ロウ『医療の倫理ジレンマ―解決への手引き 患者の心を理解するために』（西村書店、2003年）

○参考URL （学習の参考になるサイト）

各講義時に適宜指示

○成績評価方法

講義への出席を単位取得の必要条件とし、第3学年前期と第4学年前期の2回実施する定期試験、プレゼンテーションおよびディスカッションへの参加、適宜実施する小テストおよび小レポート等をもとに総合的に評価する。

○試験の受験資格

講義への出席が、講義時間数の3分の2以上であること。（第3学年前期の試験については、第2学年から第3学年前期の試験前までの全9回の講義のうち、6回以上の出席であること。第4学年前期の試験については、第3学年前期の試験後から第4学年前期の試験までの全13回（同一日の連続する時限についてはそれぞれ1時限で1回とみなす）のうち、9回以上の出席であること。各回の講義についての出席の要件は、下記の受講上の注意を参照のこと）

○受講上の注意

医師、歯科医師といった医療者に期待される倫理観を培うために、それぞれの講義時に自ら系統的に考えることが最も重要である。各回の講義について遅刻、早退は系統的に問題に対処する趣旨に反するため、原則的に認めない。また、出席等の手続きについての不正に対しては、医療者に期待される倫理観から著しく外れることから、厳正に対処する。

○問い合わせ先(担当教員)

(教員名)	(診療科・分野)	(Eメールアドレス)
吉田　雅幸	生命倫理研究センター　教授	masa.vasc@tmd.ac.jp
藍　真澄	生命倫理研究センター　講師	ai.vasc@tmd.ac.jp
小笹　由香	生命倫理研究センター　講師	yuka.bec@tmd.ac.jp

○時間割

第2学年				
平成25年				
日付	曜日	時限	担当教員	講義内容
7月4日	木	3限(11:00～11:50)	吉田雅幸	生命倫理総論(導入)
7月11日	木	3限(11:00～11:50)	藍　真澄	医療者の視点と倫理観

授業科目名	臨床統計Ⅰ (英訳) Clinical Statisti	授業責任者	能登 洋　水口俊介

○授業回数・試験回数

授業 20 回 ・ 応用演習(試験) 4 回

○科目を履修して得られる能力

コンピテンシー　→　別表を参照

○目的・到達目標

医療・研究において必要とされる統計学の基礎と臨床的意義を学ぶ。基本的な概念や手法や臨床での活用を習得するほか、統計学の思想や数学的原理の理解にも触れる。

○学習方法

講義・演習による

○教科書 (授業において学生の所持を前提とする書籍)

能登担当分: 臨床統計はじめの一歩Q&A　能登 洋(著)・羊土社 2008年
徳永担当分: 未定

○参考書 (学習の参考になる書籍)

・EBMの正しい理解と実践Q&A　能登 洋(著)・羊土社 2003年
・日常診療にすぐに使える臨床統計学 第2版　能登 洋(著)・羊土社 2011年
・臨床検査学講座「数学／統計学」(医歯薬出版)
・佐藤敏雄・村松宰 著「やさしい医療系の統計学 第2版」(医歯薬出版)
・松原望 著「入門統計解析[医学・自然科学編]」(東京図書)

○参考URL (学習の参考になるサイト)

○成績評価方法

科目責任者が、応用演習(試験)を主として判定する. 追試・再試については原則として東京医科歯科大学試験規則に従う.

○試験の受験資格

授業を3分の2以上出席

○受講上の注意

予習課題や試験について事前連絡することがあるため, Blackboardを受講前に確認すること

○問い合わせ先(担当教員)

(教員名)	(診療科・分野)	(Eメールアドレス)
能登 洋	医学部	noto-tky@umin.net

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
4月25日	木	3	能登　洋	統計学と医療(1)　EBM, EBD	3号館2階講義室
5月9日	木	3	能登　洋	統計学と医療(2)　不確実、誤差	3号館2階講義室
5月23日	木	3	能登　洋	統計学と医療(3)　統計と研究の種類	3号館2階講義室
5月30日	木	3	能登　洋	統計学と医療(4)　検査の特性	3号館2階講義室
6月6日	木	3	能登　洋	統計学と医療(5)　検査の特性	3号館2階講義室
6月13日	木	3	能登　洋	統計学と医療(6)　相関	3号館2階講義室
6月20日	木	3	能登　洋	統計学と医療(7)　相関	3号館2階講義室
6月27日	木	3	能登　洋	応用演習(試験)	3号館2階講義室
10月31日	木	2	徳永　伸一	統計学と医療(8)　確率	3号館2階講義室
10月31日	木	3	徳永　伸一	統計学と医療(9)　確率変数と確率分布(1)	3号館2階講義室
11月7日	木	2	徳永　伸一	統計学と医療(10) 確率変数と確率分布(2)	3号館2階講義室
11月7日	木	3	徳永　伸一	統計学と医療(11) 統計量と推定	3号館2階講義室
11月14日	木	2	徳永　伸一	統計学と医療(12) 検定(1)	3号館2階講義室
11月14日	木	3	徳永　伸一	統計学と医療(13) 検定(2)	3号館2階講義室
11月21日	木	2	徳永　伸一	応用演習(試験)	3号館2階講義室
11月21日	木	3	能登　洋	統計学と医療(14)　治療と予防	3号館2階講義室
12月12日	木	2	徳永　伸一	統計学と医療(15)　検定(3)	3号館2階講義室
12月12日	木	3	徳永　伸一	統計学と医療(16)　検定(4)	3号館2階講義室
12月19日	木	2	徳永　伸一	応用演習(試験)	3号館2階講義室
12月19日	木	3	能登　洋	統計学と医療(17)　治療と予防	3号館2階講義室
1月16日	木	2	能登　洋	統計学と医療(18)　治療と予防	3号館2階講義室
1月16日	木	3	能登　洋	統計学と医療(19)　治療と予防	3号館2階講義室
1月23日	木	2	能登　洋	統計学と医療(20)　治療と予防	3号館2階講義室
1月23日	木	3	能登　洋	応用演習(試験)	3号館2階講義室
2月13日	木	3	能登　洋・徳永　伸一	補講・再試験	3号館2階講義室

授業科目名	グローバル・コミュニケーション （英訳） Global Communication for Healthcare Professionals	授業責任者	高田　和生　森尾　郁子

○授業回数・試験回数

授業16回　試験　0回

○科目を履修して得られる能力

コンピテンシー　→ 別表を参照

○目的・到達目標

本学は、教育理念の一つに、「国際感覚と国際競争力に優れる人材を養成する」と掲げている。グローバル化が進む昨今、世界の共通言語である英語の運用能力は、医学・歯学研究の最先端におけるコミュニケーションおよび情報発信ツールにとどまらず、国家・地域レベルでの健康向上のために医療をリードし、そして世界標準に沿った質の高い医療・歯科医療を提供するにおいての情報収集・意見交換ツールとして、必要不可欠である。そして、本学の教育理念達成には、単なる言語としての英語力だけではなく、それ以上に、世界規模で注目されている医療・健康問題に精通し、論理的な思考のもとに意見を持ち、国際舞台で議論を行うに必要な「適切な基準や根拠に基づく、論理的で、偏りのない思考」、いわゆる「クリティカルシンキング」ができなくてはならない。そこで、本科目においては、目標を以下のように設定する。

1）英語により医学情報（論文やデータベース）を読む能力、口頭または文書で情報発信を行い、議論する能力を持つ
2）適切な基準や根拠に基づく、論理的で、偏りのない思考（クリティカルシンキング）ができる
3）世界共通言語による世界の医療・健康事情の把握とそれによる広い視野を持つ

そしてさらに、並行して進む医歯学専門教育、生命倫理教育、臨床統計教育と本科目での学習内容をリンクさせることにより、双方に対しての更なる学習動機づけおよび学習効果向上を図り、21世紀の医療を担い、リードする医師、歯科医師に共通して必要とされる基盤資質の修得のための学習機会を提供する。

○学習方法

1. 医学関連英語語彙・フレーズの習得
医歯学専門知識習得ステージに合わせたスケジュールを組み、発音も重視した学習を行う。毎回あらかじめ学習内容を指定し、授業の最初に Vocabulary quizという形で学習度の確認を行う。

2. Small group discussion
医歯学専門知識修得ステージ／生命倫理および臨床統計学習内容に合わせたトピック・論点を選定し、2から4人ずつの小グループにて議論を行う。毎回Native speaker(s)を講師兼Moderator/facilitatorとして配備する。議論のプロダクトを、文書または口頭にて発表する機会も用意する。クリティカルシンキングのための導入および振返り機会を適宜用意する。

○教科書 （授業において学生の所持を前提とする書籍）

岡田 聚、名木田恵理子　著「最新医学用語演習」（南雲堂　1993年）

○参考書 （学習の参考になる書籍）

道田泰司　著「最強のクリティカルシンキング・マップ」（日本経済新聞出版社　2012年）
E.B. ゼックミスタ、J.E. ジョンソン　著「クリティカルシンキング（入門篇）」（北大路書房　1996年）
E.B. ゼックミスタ、J.E. ジョンソン　著「クリティカルシンキング（実践篇）」（北大路書房　1997年）

○参考URL （学習の参考になるサイト）

〇成績評価方法

最終成績は以下にもとづき判定される。
・Vocabulary quiz performance（30%）
・Class participation (discussion/presentation/comments) and write-ups（70%）

〇試験の受験資格

本科目においては最終試験は行わないが、進級のためには、全セッションの3分の2以上の出席（本学規定の出欠確認方法による）を必要条件とする。

〇受講上の注意

遅刻は本人の学習の妨げになるほか、同じグループのメンバーの学習にも大きな迷惑となることから、厳しく取扱う。Small group discussionに際しては、あらかじめ配布された資料に記される指示に従い、十分準備しておくこと。

〇問い合わせ先（担当教員）

（教員名）	（診療科・分野）	（Eメールアドレス）
高田和生	国際交流センター グローバルキャリア支援室	takeda.rheu@tmd.ac.jp
森尾郁子	歯学教育開発学分野	imorio.edev@tmd.ac.jp

〇時間割

別途提示する。

授業科目名	頭頸部・基礎 (英訳) Head and Neck	授業責任者	秋田恵一　井関祥子

○授業回数・試験回数

授業　30 回　試験　3 回

○科目を履修して得られる能力

コンピテンシー　→ 別表を参照

○目的・到達目標

高齢化社会となり、疾病の多様性が認められる日本の医療現場では、口腔内疾患、身体的疾患を総合的に治療する必要がある。そのため、歯学を理解した医師、医学を理解した歯科医師の養成は、社会が求めるものである。医療系総合大学である本学が先進的な医歯学融合教育を実践することで、医科・歯科両学科の学生が将来の基盤となる頭頸部に関する基礎的な知識をともに学び、共有することは肝要である。

2 年次に行われる本ブロックにおいては、頭頸部領域に関する組織学、解剖学、生理学、発生学の講義・実習の多くを医歯共通授業として行う。本ブロックが基礎・専門科目領域における医歯相互の関連を確認する機会となることで、3 年次以降の医歯学融合教育の礎となることを目標とする。

○学習方法

講義・実習

○教科書 (授業において学生の所持を前提とする書籍)

＜組織学＞
口腔組織・発生学 脇田稔ら編 医歯薬出版
カラーエッセンシャル口腔組織・発生学 J.Avery 著、高野吉郎 監訳 西村書店
Ten Cate's Oral Histology 6th Ed., Antonio Nanci, Mosby
Oral Anatomy, Embryology and Histology B.K.B.Berkovitz, G.R.Holland, B.J.Moxham,Mosby
＜解剖学書＞
口腔解剖学 1-5 上條雍彦
歯の解剖学 第22 版 藤田恒太郎著 桐野忠大、山下靖雄 改訂
口腔解剖学 医歯薬出版 脇田稔、山下靖雄監修
＜生理学＞
小澤瀞司 他、標準生理学 第7 版 医学書院2009
「基礎歯科生理学」 医歯薬出版　森本俊文　山田好秋
Purves, Neuroscience 4th ed., Sinauer, 2007
Siegel and Sapru, Essential Neuroscience 2nd ed., Lippincott, 2010
＜発生学＞
Developmental Biology Scott F. Gilbert Sinauer Associates Inc.,U.S.

組織学・解剖学・生理学・発生学の教科書については、それぞれの学科のシラバスを参照のこと

○参考書 (学習の参考になる書籍)

「カールソン神経科学テキスト　脳と行動」 丸善
「ベアー コノーズ パラディーソ 神経科学」 西村書店
「Principles of Neural Science」 4th.ed McGraw-Hill.

組織学・解剖学・生理学・発生学の参考書については、それぞれの学科のシラバスを参照のこと

○参考URL (学習の参考になるサイト)

○成績評価方法

実習中の個人課題、グループ課題、および、最終日に行われる個人およびグループに対する筆記試験で評価を行う。

○試験の受験資格

講義開始時の学生証による出席確認で2/3以上出席していること、実習開始時の黙祷に3/4以上出席していること
下記「受講上の注意」に記される理由により実習の遅刻は欠席とみなす。

○受講上の注意

遅刻は本人の学習の妨げになるほか、同じグループのメンバーの学習にも大きな迷惑となることから、厳しく取扱う。実習に際しては、あらかじめ配布された手順を十分に予習して臨むこと。

○問い合わせ先(講義担当教員、*ブロックコーディネーター)

(教員名)	(診療科・分野)	(Eメールアドレス@tmd.ac.jpの前)
秋田恵一	臨床解剖学分野	akita.fana
井関祥子	分子発生学分野	s.iseki.emb
大野京子	眼科学分野	k.ohno.oph
柴田俊一	顎顔面解剖学分野	sshibata.mfa
杉内友理子	システム神経生理学分野	ysugiuchi.phy1
杉原泉	システム神経生理学分野	isugihara.phy1
泰羅雅登	認知神経生物学分野	masato.cnb
高野吉郎	硬組織構造生物学分野	takanoy.bss
寺島達夫	顎顔面解剖学分野	t.terashima.mfa
中田隆夫	細胞生物学分野	nakata.cbio
山口久美子*	医歯学融合教育支援センター	yamaguchi.fana

○実習担当教員

解剖学実習:阿部達彦、鹿野俊一、二村昭元、原田理代

頭頸部基礎　　(ブロック番号 0　　3 週間ブロック

第1週

6月24日	6月25日	6月26日	6月27日	6月28日
月	火	水	木	金
9:00-10:20 担当教員:秋田恵一 脳神経概論1	9:00-10:20　医学科のみ 担当教員:　二村 手掌(皮下・浅層)・前腕屈側(深層)・手掌(深層)・下腿伸側(浅層)・足背(浅層)	9:00-10:20 担当教員:泰羅雅登 感覚器の生理1 体性感覚・嗅覚・味覚	教養／ 医歯学融合教育	9:00-10:20 担当教員:柴田俊一 歯の総論1
10:30-11:50 担当教員:秋田恵一 脳神経概論2		10:30-11:50 担当教員:泰羅雅登 運動器の生理		10:30-11:50 担当教員:柴田俊一 歯の総論2
昼休み				
12:50-14:10 担当教員:秋田恵一 人体解剖学 (顔面皮下・浅層)	12:50-14:10 担当教員:秋田恵一 人体解剖学 咀嚼筋(浅層)	12:50-14:10 担当教員:柴田俊一 人体解剖学 下顎骨・顔面(中層)	12:50-14:10 担当教員:柴田俊一 人体解剖学 側頭下窩	12:50-14:10 担当教員:高野吉郎 組織学(口腔)
14:20-17:10 担当教員:　解剖学教員 人体解剖学 (顔面皮下・浅層)	14:20-17:10 担当教員:　解剖学教員 人体解剖学 咀嚼筋(浅層)	14:20-17:10 担当教員:　解剖学教員 人体解剖学 下顎骨・顔面(中層)	14:20-17:10 担当教員:　解剖学教員 人体解剖学 側頭下窩	14:20-17:10 担当教員:　組織学教員 組織(口腔)

第2週

7月1日	7月2日	7月3日	7月4日	7月5日
月	火	水	木	金
9:00–10:20 担当教員：杉内友理子 感覚器の生理2 平衡覚	9:00–10:20　医学科のみ 担当教員：　二村 前腕伸側（浅層・深層）・下腿屈側（浅層）・足底（浅層）	9:00–10:20 担当教員：泰羅雅登 感覚器の生理3 視覚	教養／ 医歯学融合教育	9:00–10:20 担当教員：杉原　泉 感覚器の生理4 聴覚
10:30–11:50 担当教員：　岸本誠司 頭頸部の臨床1 基礎医学に基づく 頭蓋底外科の臨床		10:30–11:50 担当教員：　大野京子 頭頸部の臨床2 基礎医学に基づく 眼科学の臨床		10:30–11:50 担当教員：　杉本太郎 頭頸部の臨床3 基礎医学に基づく 頭頚部外科の臨床
昼休み				
12:50–14:10 担当教員：柴田俊一 人体解剖学 顔面（深層）・舌	12:50–14:10 担当教員：秋田恵一 人体解剖学 眼窩・眼球	12:50–14:10 担当教員：秋田恵一 人体解剖学 外耳・中耳・内耳	12:50–14:10 担当教員：秋田恵一 人体解剖学 口蓋	12:50–14:10 担当教員：　高野・中田 組織学（眼）
14:20–17:10 担当教員：　解剖学教員 人体解剖学 顔面（深層）・舌	14:20–17:10 担当教員：　解剖学教員 人体解剖学 眼窩・眼球	14:20–17:10 担当教員：　解剖学教員 人体解剖学 外耳・中耳・内耳	14:20–17:10 担当教員：　解剖学教員 人体解剖学 口蓋	14:20–17:10 担当教員：　組織学教員 組織学（眼）

第3週

7月8日	7月9日	7月10日	7月11日	7月12日
月	火	水	木	金
9:00–10:20 担当教員：井関祥子 分子発生生物学	9:00–10:20　医学科のみ 担当教員：　二村 前腕伸側（浅層・深層）・下腿屈側（浅層）・足底（浅層）	9:00–10:20 担当教員：井関祥子 分子発生生物学	教養／ 医歯学融合教育	9:00–11:50 担当教員：山口久美子 TBL（試験）
10:30–11:50 担当教員：井関祥子 分子発生生物学		10:30–11:50 担当教員：　喜多村健 頭頸部の臨床4 基礎医学に基づく 耳科学の臨床		
昼休み				
12:50–14:10 担当教員：　高野・中田 組織学（耳）	12:50–14:10 担当教員：秋田恵一 人体解剖学 鼻腔・副鼻腔・翼口蓋窩	12:50–14:10 担当教員：柴田俊一 人体解剖学 咽頭（外側）	12:50–14:10 担当教員：柴田俊一 人体解剖学 咽頭・喉頭	12:50–14:10 担当教員：秋田・柴田 試験
14:20–17:10 担当教員：　組織学教員 組織学実習（耳）	14:20–17:10 担当教員：　解剖学教員 人体解剖学 鼻腔・副鼻腔・翼口蓋窩	14:20–17:10 担当教員：　解剖学教員 人体解剖学 咽頭（外側）	14:20–17:10 担当教員：　解剖学教員 人体解剖学 咽頭・喉頭	14:20–17:10 担当教員：　解剖学教員 解剖（まとめと納棺）

第３学年

医歯学基盤教育・教養教育（木曜日午前） 年間スケジュールM3・D3

		1限(9:00-9:50)	2限(10:05-10:55)	3限(11:10-12:00)
4月11日		臨床統計1	臨床統計2	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ1
4月18日		生命倫理1	主題別選択Ⅱ（前半） （医学科・歯学科3年生対象） （教養部教員） （講義室：別ページ）	主題別人文社会科学ｾﾐﾅｰ （前期：前半） （医学科・歯学科3年生対象） （教養部教員） （講義室：別ページ）
4月25日		生命倫理2		
5月 2日		生命倫理3		
5月 9日		生命倫理4		
5月16日		生命倫理5		
5月23日		ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ2		
5月30日		生命倫理6		
6月 6日		生命倫理7		
6月13日		生命倫理8	主題別選択Ⅱ（後半） （医学科・歯学科3年生対象） （教養部教員） （講義室：別ページ）	主題別人文社会科学ｾﾐﾅｰ （前期：後半） （医学科・歯学科3年生対象） （教養部教員） （講義室：別ページ）
6月20日		ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ3		
6月27日		ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ4		
7月 4日		ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ5		
7月11日		ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ6		
7月18日		ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ7		
7月25日		ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ8		
8月 1日	夏期休暇			
8月 8日	夏期休暇			
8月15日	夏期休暇			
8月22日	夏期休暇			
8月29日	夏期休暇			
9月 5日	試験期間			
9月12日	枠なし			
9月19日	医歯学共通	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 9	生命倫理 9	
9月26日	医歯学共通	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ10	臨床統計 3	臨床統計 4
10月 3日		ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ11	臨床統計 5	主題別人文社会科学ｾﾐﾅｰ(後期：前半) （医学科・歯学科3年生対象） （教養部教員）（講義室：別ページ）
10月10日		ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ12	臨床統計 6	
10月17日		ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ13	臨床統計(復習・応用演習)	臨床統計 7
10月24日		ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ14	臨床統計 8	主題別人文社会科学ｾﾐﾅｰ （後期：前半） （医学科・歯学科3年生対象） （教養部教員） （講義室：別ページ）
10月31日		ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ15	臨床統計 9	
11月 7日		ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ16	臨床統計10	
11月14日		ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ17	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ18	
11月21日		ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ19	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ20	
11月28日		ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ21	臨床統計11	主題別人文社会科学ｾﾐﾅｰ （後期：後半） （医学科・歯学科3年生対象） （教養部教員） （講義室：別ページ）
12月 5日		ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ22	臨床統計(補講・再試験)	
12月12日		ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ23	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ24	
12月19日		ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ25	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ26	
12月26日	冬期休暇			
1月 2日	冬期休暇			
1月 9日		ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ27	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ28	医歯学基盤教育予備日
1月16日		ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ29	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ30	主題別人文社会科学ｾﾐﾅｰ （後期：後半） （医学科・歯学科3年生対象） （教養部教員） （講義室：別ページ）
1月23日		ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ31	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ32	
1月30日		ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ33	生命倫理10	
2月 6日		ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ34	生命倫理11	
2月13日		ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ35	生命倫理12	生命倫理13
2月20日		ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ36	生命倫理14	生命倫理15
2月27日				
3月 6日	再試験期間			
3月13日	春期休暇			
3月20日	春期休暇			
3月27日	春期休暇			

＊ 臨床統計の（復習・応用演習）では試験を行います。

＊ 1限9時開始、時限間の休憩15分のため昼休みが10分短くなります。

授業科目名	生命倫理 （英訳） Bioethics	授業責任者	吉田 雅幸 水口 俊介

○授業回数・試験回数

授業 22 回 試験 2 回 （2年次～4年次）

○科目を履修して得られる能力

コンピテンシー → 別表を参照

○目的・到達目標

医師あるいは歯科医師としての視点と倫理観の養成を図る。教養教育で培った文献型倫理学から発展させ、医療プロフェッショナルとして持つべき視点とそれにふさわしい倫理的思考について学習する。すなわち、将来実際に経験することになる医療や研究の現場の具体的事例について、単に批評するだけでは済まされず、実際に判断し、指示を出し、さらにその責任を取らなければならない立場にある医師および歯科医師の視点と倫理的思考について学習し、自ら考えることでそれを実践する。医師、歯科医師をはじめとした医療者には、医療を担うにふさわしい倫理観を持つことが期待され、それゆえにわが国の医療関連法は性善説で成り立っている。

この講義では、医療倫理、研究倫理の概要を理解した上で、医療や研究の現場で実際に生じている課題を学び、それぞれの場面における医療者の視点と医療者として必要とされる倫理的な思考を身につけることを目標としている。臨床の課題はより現実的に考えることが重要であるため、できる限り当該臨床科目の履修時期にあわせて講義予定を組んでいる。

担当講師は、医療のさまざまな領域で活動する専門医、専門職の講師をはじめとして、医療以外の分野で活動している実務者にもそれぞれの立場からみた医療や研究について、すなわち他職種の倫理観を含めて問題提起あるいは情報提供を得て、医療者・研究者の倫理について実践的な講義を展開する。

学生が実際に考えることが重要であるため、可能な限りグループワーク、討論、発表といった、単なる座学ではなく、参加型の講義形式を予定している。諸君の積極的な参加を期待している。

第2学年においては、医療者としての視点および倫理観について導入と総論的事項について学習する。第3学年および第4学年において、医療および研究における具体的事例とともにその倫理的問題点と対応について学習する。

○学習方法

講義

○教科書 （授業において学生の所持を前提とする書籍）

教科書は使用せず、レジュメ・資料等をそのつど配布する。

○参考書 （学習の参考になる書籍）

参考文献は講義のなかで随時紹介する。ただし、以下に挙げる文献については各自で読んでおくこと。
①吉田雅幸・小笹由香編『遺伝診療をとりまく社会―その科学的・倫理的アプローチ』（ブレーン出版、2007年）
②バーバード・ロウ『医療の倫理ジレンマ―解決への手引き 患者の心を理解するために』（西村書店、2003年）

○参考URL （学習の参考になるサイト）

各講義時に適宜指示

○成績評価方法

講義への出席を単位取得の必要条件とし、第3学年前期と第4学年前期の2回実施する定期試験、プレゼンテーションおよびディスカッションへの参加、適宜実施する小テストおよび小レポート等をもとに総合的に評価する。

○試験の受験資格

講義への出席が、講義時間数の3分の2以上であること。（第3学年前期の試験については、第2学年から第3学年前期の試験前までの全9回の講義のうち、6回以上の出席であること。第4学年前期の試験については、第3学年前期の試験後から第4学年前期の試験までの全13回（同一日の連続する時限についてはそれぞれ1時限で1回とみなす）のうち、9回以上の出席であること。各回の講義についての出席の要件は、下記の受講上の注意を参照のこと）

○受講上の注意

医師、歯科医師といった医療者に期待される倫理観を培うために、それぞれの講義時に自ら系統的に考えることが最も重要である。各回の講義について遅刻、早退は系統的に問題に対処する趣旨に反するため、原則的に認めない。また、出席等の手続きについての不正に対しては、医療者に期待される倫理観から著しく外れることから、厳正に対処する。

○問い合わせ先(担当教員)

(教員名)	(診療科・分野)	(Eメールアドレス)
吉田　雅幸	生命倫理研究センター　教授	masa.vasc@tmd.ac.jp
藍　真澄	生命倫理研究センター　講師	ai.vasc@tmd.ac.jp
小笹　由香	生命倫理研究センター　講師	yuka.bec@tmd.ac.jp

○時間割

第3学年				
平成25年				
4月18日	木	1限	井伊雅子	医療経済を考える
4月25日	木	1限	高瀬耕造	医療事故と法的問題
5月2日	木	1限	藍真澄	保険診療と倫理的問題
5月9日	木	1限	吉田雅幸	研究倫理総論
5月16日	木	1限	神田英一郎	疫学研究デザイン・実際
5月30日	木	1限	石井秀人	通常診療に潜む倫理的問題
6月6日	木	1限	石井秀人	臨床治験と倫理的問題
6月13日	木	1限	吉田雅幸／藍　真澄	試験
9月19日	木	2限	梶原道子	輸血に関連した倫理的問題
平成26年				
1月30日	木	2限	三宅	終末期医療と倫理(Living will/成年後見人制度/抑制・拘束など)
2月6日	木	2限	吉田雅幸／藍　真澄	終末期医療と倫理(Living will/成年後見人制度/抑制・拘束など)
2月13日	木	2～3限	佐原まち子	終末期医療と倫理
2月20日	木	2～3限	小川有閑	宗教と倫理

授業科目名	臨床統計 II (英訳) Clinical Statistics II	授業責任者	能登 洋　水口俊介

○授業回数・試験回数

授業 10回 ・ 応用演習(試験) 2回

○科目を履修して得られる能力

コンピテンシー　→ 別表を参照

○目的・到達目標

医療・研究において必要とされる統計学の臨床的意義と応用法を学ぶ。問題解決において必須となる情報収集を適切に効果的に行う能力を習得するほか、著作権や情報の扱いにも触れる。

○学習方法

講義・演習による

○教科書 (授業において学生の所持を前提とする書籍)

能登担当分: 臨床統計はじめの一歩Q&A　能登 洋(著)・羊土社 2008年

○参考書 (学習の参考になる書籍)

・EBMの正しい理解と実践Q&A　能登 洋(著)・羊土社 2003年
・日常診療にすぐに使える臨床統計学 第2版　能登 洋(著)・羊土社 2011年

○参考URL (学習の参考になるサイト)

文化庁の著作権サイト http://www.bunka.go.jp/chosakuken/index.html

○成績評価方法

科目責任者が、応用演習(試験)を主として判定する. 追試・再試については原則として東京医科歯科大学試験規則に従う.

○試験の受験資格

授業を3分の2以上出席

○受講上の注意

予習課題や試験について事前連絡することがあるため, Blackboardを受講前に確認すること

○問い合わせ先(担当教員)

(教員名)	(診療科・分野)	(Eメールアドレス)
能登 洋	医学部	noto-tky@umin.net

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
4月11日	木	1	木下　淳博	教育・研究と著作権・肖像権、臨床実習と個人情報の保護	3号館3階講義室
4月11日	木	2	後藤　明久	様々なネットワークサービスとセキュリティー	3号館3階講義室
9月26日	木	2	徳永　伸一	統計学と医療　　ノンパラメトリック検定	3号館3階講義室
9月26日	木	3	徳永　伸一	統計学と医療　　分散分析と多重比較	3号館3階講義室
10月3日	木	2	能登　洋	EBM/EBD実践　　相関（1）	3号館3階講義室
10月10日	木	2	能登　洋	EBM/EBD実践　　相関（2）	3号館3階講義室
10月17日	木	2	木下/後藤 / 能登・徳永	応用演習（試験）	3号館3階講義室
10月17日	木	3	能登　洋	EBM/EBD実践　　診断（1）	3号館3階講義室
10月24日	木	2	能登　洋	EBM/EBD実践　　診断（2）	3号館3階講義室
10月31日	木	2	能登　洋	EBM/EBD実践　　治療・予防（1）	3号館3階講義室
11月7日	木	2	能登　洋	EBM/EBD実践　　治療・予防（2）	3号館3階講義室
11月28日	木	2	能登　洋	応用演習（試験）	3号館3階講義室
12月5日	木	2	木下/後藤 / 能登・徳永	補講・再試験	3号館3階講義室

授業科目名	グローバル・コミュニケーション （英訳） Global Communication for Healthcare Professionals	授業責任者	高田　和生　森尾　郁子

○授業回数・試験回数

授業36回　試験　0回

○科目を履修して得られる能力

コンピテンシー　→ 別表を参照

○目的・到達目標

本学は、教育理念の一つに、「国際感覚と国際競争力に優れる人材を養成する」と掲げている。グローバル化が進む昨今、世界の共通言語である英語の運用能力は、医学・歯学研究の最先端におけるコミュニケーションおよび情報発信ツールにとどまらず、国家・地域レベルでの健康向上のために医療をリードし、そして世界標準に沿った質の高い医療・歯科医療を提供するにおいての情報収集・意見交換ツールとして、必要不可欠である。そして、本学の教育理念達成には、単なる言語としての英語力だけではなく、それ以上に、世界規模で注目されている医療・健康問題に精通し、論理的な思考のもとに意見を持ち、国際舞台で議論を行うに必要な「適切な基準や根拠に基づく、論理的で、偏りのない思考」、いわゆる「クリティカルシンキング」ができなくてはならない。そこで、本科目においては、目標を以下のように設定する。

1）英語により医学情報（論文やデータベース）を読む能力、口頭または文書で情報発信を行い、議論する能力を持つ
2）適切な基準や根拠に基づく、論理的で、偏りのない思考（クリティカルシンキング）ができる
3）世界共通言語による世界の医療・健康事情の把握とそれによる広い視野を持つ

そしてさらに、並行して進む医歯学専門教育、生命倫理教育、臨床統計教育と本科目での学習内容をリンクさせることにより、双方に対しての更なる学習動機づけおよび学習効果向上を図り、21世紀の医療を担い、リードする医師、歯科医師に共通して必要とされる基盤資質の修得のための学習機会を提供する。

○学習方法

1. 医学関連英語語彙・フレーズの習得
医歯学専門知識習得ステージに合わせたスケジュールを組み、発音も重視した学習を行う。毎回あらかじめ学習内容を指定し、授業の最初に Vocabulary quizという形で学習度の確認を行う。

2. Small group discussion
医歯学専門知識修得ステージ／生命倫理および臨床統計学習内容に合わせたトピック・論点を選定し、2から4人ずつの小グループにて議論を行う。毎回Native speaker(s)を講師兼Moderator/facilitatorとして配備する。議論のプロダクトを、文書または口頭にて発表する機会も用意する。クリティカルシンキングのための導入および振返り機会を適宜用意する。

○教科書 （授業において学生の所持を前提とする書籍）

岡田 聚、名木田恵理子　著「最新医学用語演習」（南雲堂　1993年）

○参考書 （学習の参考になる書籍）

道田泰司　著「最強のクリティカルシンキング・マップ」（日本経済新聞出版社　2012年）
E.B. ゼックミスタ、J.E. ジョンソン　著「クリティカルシンキング（入門篇）」（北大路書房　1996年）
E.B. ゼックミスタ、J.E. ジョンソン　著「クリティカルシンキング（実践篇）」（北大路書房　1997年）

○参考URL （学習の参考になるサイト）

○成績評価方法

最終成績は以下にもとづき判定される。
・Vocabulary quiz performance（30%）
・Class participation (discussion/presentation/comments) and write-ups（70%）

○試験の受験資格

本科目においては最終試験は行わないが、進級のためには、全セッションの3分の2以上の出席（本学規定の出欠確認方法による）を必要条件とする。

○受講上の注意

遅刻は本人の学習の妨げになるほか、同じグループのメンバーの学習にも大きな迷惑となることから、厳しく取扱う。Small group discussionに際しては、あらかじめ配布された資料に記される指示に従い、十分準備しておくこと。

○問い合わせ先（担当教員）

（教員名）	（診療科・分野）	（Eメールアドレス）
高田和生	国際交流センター グローバルキャリア支援室	takeda.rheu@tmd.ac.jp
森尾郁子	歯学教育開発学分野	imorio.edev@tmd.ac.jp

○時間割

別途提示する。

授業科目名	頭頸部・臨床 （英訳） Head and Neck Clinical Medicine	授業責任者	杉本太郎（医） 小村 健（歯）

○授業回数・試験回数

授業66回（実習含む） 試験8回（うちTBL4回） 小テスト3回

○科目を履修して得られる能力

コンピテンシー → 別表を参照
コアカリ → 別表を参照

○目的・到達目標

頭頸部にはいわゆる五感と総称される視覚、嗅覚、聴平衡覚、味覚、触覚や、呼吸、構音、咀嚼、嚥下、発声などの重要な機能を持つ臓器が多数存在している。これらの機能は複雑に絡み合っており、ひとつが障害をきたすとその他の機能も影響を受け、日常生活の質に重大な影響を及ぼす。そういった複雑な頭頸部領域に生ずる疾患について理解するためには、ブロック形式で一括して当該領域について集中的に学ぶ事が非常に効率的で、かつその理解や習得の程度も深まると考えられる。3年次に行われる当ブロックにおいては、医歯学両学部を有する東京医科歯科大学の特徴を生かし、医学部と歯学部の学生が共に学習し、議論し、隣接領域の理解を深める事を目的とする。具体的には、①頭頸部領域の構造と機能の理解 ②頭頸部領域の疾患の基本的な知識の理解 ③頭頸部領域の疾患の診断と治療の理解 ④これらを利用した臨床推論が可能となる事を到達目標とする。

○学習方法

ブロック開始時にこれまで学んできた基礎的事項の理解度を試す、頭頸部領域全般についての基礎医学の復習小テストを領域別に3回に分けて行う。当ブロックの講義を行う主たる診療科は、耳鼻咽喉科（第1週）、頭頸部外科（第2週）、形成外科（第2～3週）、口腔外科（第3週）、眼科（第4週）であるが、適宜関連する他科、即ち、臨床解剖（第1・2週）、放射線科（第2週）、脳外科（第2週）、歯科（第3週）、矯正科（第3週）といった他科の協力も得てこれらの領域の講義も複合的に取り入れ、理解を深める手助けとする。なお、形成外科については、その診療範囲は全身であるため、講義、試験とも、頭頸部領域のみでなく全身を対象としたものになる。また、第2週には医科歯科合同の病理実習を行い、各週の後半には主たる診療科のミニケースや患者参加型講義を行い、臨床推論の基礎と実際を学んで行く。第2～4週の最終日（金曜日）には医歯学融合教育支援センターの協力を得てTBLを行って知識の統合的な理解を深め、更に筆記試験による学習内容の理解の確認を行う。

○教科書 （授業において学生の所持を前提とする書籍）

NEW 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 喜多村健・森山寛 編 改訂第2版 南江堂 2007
標準形成外科学 第6版 平林慎一・鈴木茂彦編 医学書院 2011
標準口腔外科学 第3版 野間弘康・瀬戸皖一編 医学書院 2004
現代の眼科学 第11版 所敬監修 金原出版 2012

○参考書 （学習の参考になる書籍）

新耳鼻咽喉科学 改訂11版 野村恭也監修 南山堂 2013
ENT臨床フロンティア がんを見逃さない一頭頸部癌診療の最前線 岸本誠司編 中山書店 2013
Grabb and Smith'sPlastic Surgery 6th ed. Charles H.M. Little Brown 2007
Operative Oral and Maxillofacial Surgery 2nd ed. John Langdon et al. HODDR ARNOLD 2011
眼科検査法ハンドブック 第4版 小口芳久 他 編 医学書院 2005
Clinical Ophthalmology 7th ed. Jack J Kanski , Saunders 2011

○参考URL （学習の参考になるサイト）

日本耳鼻咽喉科学会ホームページ http://www.jibika.or.jp/
日本頭頸部癌学会ホームページ http://www.jshnc.umin.ne.jp/
日本形成外科学会ホームページ http://www.jsprs.or.jp/
日本口腔外科学会ホームページ http://www.jsoms.or.jp/
日本眼科学会ホームページ http://www.nichigan.or.jp/index.jsp
http://lib.tmd.ac.jp/e-service/e-books.html

○成績評価方法

講義や実習の出席状況及び態度、第2～4週の最終日（金曜日）に行われるTBLと筆記試験による評価を総合して判定する。

○試験の受験資格

講義と実習の合計7割以上の出席を要する。

○受講上の注意

大人数での講義や実習となるので、これらを円滑に進めるため、時間厳守とし、担当教員の業務遂行にも協力していただきたい。特に患者参加型講義においては遅刻、私語、写真撮影や音声の記録は厳禁とする。

○問い合わせ先（担当教員）

（教員名）	（診療科・分野）	（Eメールアドレス）
杉本　太郎 ※	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	sugimoto.oto@tmd.ac.jp
森　弘樹	形成外科	moriplas@tmd.ac.jp
島本　裕彰	口腔外科	hiroaki.osur@tmd.ac.jp
田中　明子	眼科	tanaka.oph@tmd.ac.jp
小林　大輔	人体病理	d-koba.pth1@tmd.ac.jp

※ ブロック責任者

頭頸部・臨床　　（ブロック番号 13）

第1週（平成26年）

1月13日	1月14日	1月15日	1月16日	1月17日
月	火	水	木	金
祝日 （成人の日）	9:00–9:50 基礎医学復習小テスト 耳鼻咽喉科・脳外科 頭頸部外科	9:00–9:50　耳鼻咽喉科 担当教員：　高橋 正時 耳科学3（内耳）	教養／ 医歯学融合教育	9:00–9:50　耳鼻咽喉科 担当教員：喜多村 健 喉頭2（疾患）
	10:00–10:50 基礎医学復習小テスト 形成外科 口腔外科・歯科	10:00–10:50 耳鼻咽喉科 担当教員：　角田 篤信 耳科学4（めまい・平衡障害）		10:00–10:50 耳鼻咽喉科 担当教員：　野口 佳裕 口腔・唾液腺疾患
	11:00–11:50 基礎医学復習小テスト 眼科	11:00–11:50 耳鼻咽喉科 担当教員：　鈴木 康弘 鼻科学1（解剖・生理）		11:00–11:50 耳鼻咽喉科 担当教員：　鈴木 康弘 咽頭・全身疾患
	昼休み			
	12:50–13:40 耳鼻咽喉科 担当教員：　喜多村 健 耳鼻咽喉科学総論	12:50–13:40 耳鼻咽喉科 担当教員：　野口 佳裕 鼻科学2（検査）	12:50–14:10 担当教員：喜多村 健 耳鼻咽喉科ミニケース	12:50–13:40 耳鼻咽喉科 担当教員：　角田 篤信 救急疾患
	13:50–14:40 耳鼻咽喉科 担当教員：　喜多村 健 耳科学1（症候学）	13:50–14:40 耳鼻咽喉科 担当教員：戸叶 尚史 鼻科学3（アレルギー）	14:20–15:40 担当教員：喜多村 健 耳鼻咽喉科 患者参加型講義	13:50–14:40 臨床解剖 担当教員：秋田 恵一 頭頸部領域の臨床解剖1（頸部）
	14:50–15:40 耳鼻咽喉科 担当教員：　野口 佳裕 耳科学2（外耳・中耳）	14:50–15:40 耳鼻咽喉科 担当教員：岩崎 朱見 喉頭1（総論）		14:50–15:40 担当教員： 予備枠

第2週（平成26年）

1月20日	1月21日	1月22日	1月23日	1月24日
月	火	水	木	金
9:00–9:50　頭頸部外科 担当教員：岸本 誠司 頭頸部外科学総論	9:00–9:50　頭頸部外科 担当教員：別府 武 口腔・唾液腺の腫瘍	9:00–9:50　形成外科 担当教員：岡崎 睦 頭頸部・頭蓋底再建の現状と課題	教養／ 医歯学融合教育	耳鼻咽喉科TBL
10:00–10:50 臨床解剖 担当教員：秋田 恵一 頭頸部領域の臨床解剖2（頭蓋底）	10:00–10:50 頭頸部外科 担当教員：杉本 太郎 中下咽頭・喉頭の腫瘍	10:00–10:50 頭頸部外科 担当教員：川端 一嘉 がん専門病院における頭頸部癌治療の現状		評価（耳鼻咽喉科） & フィードバック
11:00–11:50　放射線科 担当教員：渋谷 均 頭頸部癌の放射線治療	11:00–11:50 頭頸部外科 担当教員：角 卓郎 甲状腺・気管食道・頸部の疾患	11:00–11:50 担当教員： 予備枠		
昼休み				
12:50–13:40 頭頸部外科 担当教員：杉本 太郎 頭頸部癌の化学療法	12:50–13:40　形成外科 担当教員：森 弘樹 形成外科総論	12:50–14:10 担当教員：角 卓郎 頭頸部外科ミニケース	12:50–15:40 担当教員： 人体病理　小林 大輔 口腔病理　山口 朗 頭頸部病理実習 （医学部歯学部合同）	頭頸部外科TBL 脳神経外科TBL
13:50–14:40 頭頸部外科 担当教員：岸本 誠司 聴器・鼻副鼻腔・上咽頭・頭蓋底の腫瘍	13:50–14:40　形成外科 担当教員：岡崎 睦 顔面領域の構造と外傷	14:20–15:40 担当教員：杉本 太郎 頭頸部外科 患者参加型講義 or ミニケース		評価（頭頸部外科） 評価（脳神経外科） & フィードバック
14:50–15:40　脳外科 担当教員：前原 健寿 頭蓋底腫瘍・脳神経	14:50–15:40　形成外科 担当教員：岡崎 睦 組織再建の考え方と臨床例			

第3週（平成26年）

1月27日	1月28日	1月29日	1月30日	1月31日
月	火	水	木	金
9:00–9:50　口腔外科 担当教員：小村 健 口腔外科総論	9:00–9:50　形成外科 担当教員：宇佐美 聡 手足・体幹の先天異常と外傷	9:00–9:50　口腔外科 担当教員：儀武 啓幸 顎関節疾患	教養／ 医歯学融合教育	形成外科TBL
10:00–10:50　口腔外科 担当教員：小村 健 顎口腔の悪性腫瘍	10:00–10:50　形成外科 担当教員：田中顕太郎 形成外科褥瘡と難治性潰瘍	10:00–10:50 歯科 担当教員：荒木 孝二 歯・歯周疾患と炎症性疾患		評価（形成外科） & フィードバック
11:00–11:50　口腔外科 担当教員：樺沢 勇司 顎口腔の外傷	11:00–11:50　形成外科 担当教員：森 弘樹 美容外科	11:00–11:50　口腔外科 担当教員：津島 文彦 口腔粘膜疾患		
昼休み				
12:50–13:40　形成外科 担当教員：植村 法子 顔面・頭部領域の先天異常	12:50–13:40　矯正 担当教員：小野 卓史 矯正総論	12:50–14:10 担当教員：島本裕彰 口腔外科ミニケース	12:50–14:10 担当教員：森 弘樹 形成外科ミニケース	口腔外科TBL 歯科TBL
13:50–14:40　形成外科 担当教員：植村 法子 熱傷の局所治療と瘢痕ケロイド	13:50–14:40　口腔外科 担当教員：原田 清 口腔顎顔面の先天性疾患と顎顔面変形症	14:20–15:40 担当教員：島本裕彰 口腔外科 患者参加型講義 or ミニケース	14:20–15:40 担当教員：宇佐美 聡 形成外科 患者参加型講義 or ミニケース	評価（口腔外科） 評価（歯科） & フィードバック
14:50–15:40　形成外科 担当教員：田中顕太郎 皮膚・軟部腫瘍の診断と治療	14:50–15:40　口腔外科 担当教員：山口 聡 顎口腔の良性腫瘍および嚢胞			

第4週（平成26年）

2月3日	2月4日	2月5日	2月6日	2月7日
月	火	水	木	金
9:00–9:50　眼科 担当教員：眼科教授 眼科序論	9:00–9:50　眼科 担当教員：高瀬 博 ぶどう膜炎	9:00–9:50　眼科 担当教員：白土 城照 緑内障	教養／ 医歯学融合教育	眼科TBL
10:00–10:50　眼科 担当教員：鴨居 功樹 眼症候学	10:00–10:50　眼科 担当教員：高瀬 博 白内障	10:00–10:50　眼科 担当教員：清澤 源弘 神経眼科		評価（眼科） & フィードバック
11:00–11:50　眼科 担当教員：宮永 将 眼科検査方法	11:00–11:50　眼科 担当教員：佐々木秀次 角膜	11:00–11:50 担当教員： 予備枠		
昼休み				
12:50–13:40　眼科 担当教員：大野 京子 屈折異常・調節障害	12:50–13:40　眼科 担当教員：大野 京子 網膜血管疾患・色覚	12:50–13:40 担当教員： 予備枠	12:50–14:10 担当教員：小川 学 眼科ミニケース	予備枠
13:50–14:40　眼科 担当教員：田中 明子 斜視・弱視	13:50–14:40　眼科 担当教員：菅本 良治 網膜剥離・糖尿病網膜症	13:50–14:40 担当教員： 予備枠	14:20–15:40 担当教員：堀江真太郎 眼科 患者参加型講義 or ミニケース	
14:50–15:40　眼科 担当教員：東 範行 小児眼科・未熟児眼	14:50–15:40　眼科 担当教員：鴨居 功樹 救急疾患	14:50–15:40 担当教員： 予備枠		

授業科目名	老年医学 (英訳) Geriatrics	授業責任者	下門顕太郎　水口俊介

○授業回数・試験回数

授業25回(講義21回、実習4回)、筆記試験1回、TBL1回

○科目を履修して得られる能力

コンピテンシー　　→ 別表を参照

○目的・到達目標

高齢化社会にある日本の医療現場では、一部の科を除けば高齢患者を診察する機会が必ずあると言っても過言ではない。したがって、いずれの科を専攻するにも加齢に伴う身体・精神諸機能の変化や、高齢者の疾病の特徴を理解しておくことは重要である。東京医科歯科大学の特徴として、医学部と歯学部の学生が、ともに老年医学ブロックで学習することで、今後必要性が増す高齢者への学際的な医療を意識した知識や技能を習得することが望まれる。

① 加齢のメカニズムを理解する
② 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化を理解する
③ 高齢者の疾病の特徴を理解する
④ 高齢者の口腔疾患が身体・精神に及ぼす影響を理解する
⑤ 高齢者の医療・歯科医療の留意点を理解する
⑥ 高齢者の医療および福祉の社会的システムを理解する
⑦ 高齢者医療の倫理を理解する

○学習方法

教科書および参考図書、文献をもとにした自主学習を前提とする。それをふまえて、講義および症例を用いたグループ討論、高齢者体験実習、口腔ケア実習、学外実習に参加し、知識の整理と臨床的な応用能力を身につける。特に、老年医学ブロックは医学部と歯学部の合同ブロックであり、知識の交換や相互理解、協力姿勢を身につけることが求められる。

○教科書 (授業において学生の所持を前提とする書籍)

老年医学　日本老年医学会編(西村書店)、日本老年歯科医学会監修　高齢者歯科診療ガイドブック(財団法人　口腔保健協会)

○参考書 (学習の参考になる書籍)

老年医学テキスト(日本老年医学会編)、健康長寿診療ハンドブック(日本老年医学会編)、高齢者総合的機能評価ガイドライン(鳥羽研二)、認知症地域ケアガイドブック(認知症介護研究・研修東京センター監修)、新老年学　第3版(大内尉義・秋山弘子)、、Brocklehurst's TEXTBOOK OF Geriatric Medicine and Gerontology(7th edition)、The Washington Manual Subspecialty Consult Series Geriatrics Subspecialty Consult

○参考URL (学習の参考になるサイト)

日本老年医学会　http://www.jpn-geriat-soc.or.jp/index.html　厚生労働省　http://www.mhlw.go.jp/
日本老年歯科医学会　http://www.gerodontology.jp/　摂食・嚥下リハビリテーション学会　http://www.jsdr.or.jp/

○成績評価方法

ブロック最終日の筆記試験、TBLでの評価、学外実習のレポート、日々の提出課題、出席

○試験の受験資格

授業→講義を2／3以上出席、実習を3／4以上出席

○受講上の注意

授業中およびTBL等のグループ学習において、パソコンや携帯端末等を用いた電子化資料の使用ならびにインターネットでの検索を禁止いたします。必ず、あらかじめ自己学習をし、認められた図書や資料を使用して下さい。なお、老年医学ブロックに関わる追加情報があれば、事前に教務課を通じてお知らせ致します。

○問い合わせ先（担当教員）

（教員名）	（診療科・分野）	（Eメールアドレス）
下門顕太郎	医学部老年病内科	k.shimoka.vasc@tmd.ac.jp
水口俊介	歯学部高齢者歯科学	s.minakuchi.gerd@tmd.ac.jp
阿部庸子	医学部老年病内科	yk.abe.vasc@tmd.ac.jp

老年医学　（ブロック番号 14）　2 週間ブロック

第1週

2月10日	2月11日	2月12日	2月13日	2月14日
月	火	水	木	金
9:00–9:50 担当教員：下門顕太郎 基礎医学復習	祝日 （建国記念日）	9:00–9:50 担当教員：下門顕太郎 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化①	教養／ 医歯学融合教育	9:00–11:50 担当教員：阿部庸子 ミニケース
10:00–11:50 担当教員：下門顕太郎 ミニケース		10:00–10:50 担当教員：下門顕太郎 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化②		
		11:00–11:50 担当教員：阿部庸子 老年症候群		
昼休み		昼休み		
12:50–15:40 口腔ケア実習	12:50–15:40 高齢者体験実習	12:50–13:40 担当教員：丸山直記 加齢のメカニズム①	12:50–13:40 担当教員：水口俊介 高齢者歯科	12:50–13:40 担当教員：下門顕太郎 多病・非特異的症状
		13:50–14:40 担当教員：下門顕太郎 加齢のメカニズム②	13:50–14:40 担当教員：豊島堅志 高齢者の栄養	13:50–14:40 担当教員：整形外科 骨折（骨粗鬆症）・転倒・歩行機能障害
		14:50–15:40 担当教員：豊島堅志 高齢者の薬物療法	14:50–15:40 担当教員：形成外科 褥瘡	14:50–15:40 担当教員：下門顕太郎 高齢者総合的機能評価（CGA）

第2週

2月17日	2月18日	2月19日	2月20日	2月21日
月	火	水	木	金
9:00–9:50 担当教員：阿部庸子 介護保険制度・チーム医療・地域医療	学外実習	9:00–9:50 担当教員：下門顕太郎 認知症・せん妄	教養／ 医歯学融合教育	自習
10:00–10:50 担当教員：下門顕太郎 ケースカンファレンス		10:00–10:50 担当教員：中根綾子 摂食嚥下機能① 歯科的内容		筆記試験
		11:00–11:50 担当教員：耳鼻咽喉科 摂食嚥下機能② 医科的内容		自習
昼休み				
12:50–15:40 高齢者体験実習	12:50–15:40 口腔ケア実習	12:50–15:40 担当教員：根木真理子 病理実習	12:50–13:40 パラメディカル講義	12:50–15:40 TBL
			自習	
	14:50–15:40 学外実習報告会		自習	

コンピテンシー
（別表）

医学科　32P～35P
歯学科　36P～39P

別表　科目を履修して得られる能力

医学系コンピテンシーより

大領域	小領域	レベル	細目	レベル
国際人としての基盤	国際感覚/国際的視点	B	世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる	
	国際言語（英語）の運用力	B	科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる	
医学/科学の発展への貢献	科学的探求	A	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる	
		C	基礎的および臨床的研究の倫理的事項を説明できる	
		B	臨床的あるいは科学的問題提起ができる	
		B	実習実験を実施して結果を得ることができる	
		B	実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる	
プロフェッショナリズム	品位、礼儀	A	他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる	
		C	専門職にある者としての立場を理解している	
	患者との関係、職務上の優先性	C	患者との関係（情報漏洩、親密性、金品授受など）において適切な距離を維持する必要性を説明できる	
		A	個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる	
		A	自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる	
	勤労習慣	A	時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる	
		A	文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる	
	法規、機関内規、専門職社会内規範	A	本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる	
	倫理	A	常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる	B
		A	他者への良識を逸する振舞い（無礼、短期など）を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる	
		A	患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる	B
		C	インフォームドコンセントの重要性およびその過程を説明できる	
		A	記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる	B
		B	利益相反および回避するための行動を説明できる	
		B	企業との関係における倫理的な側面につき説明できる	
	振返りを通した自己研鑽/生涯学習	A	自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる	
		A	自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる	
		A	他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる	
		A	ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる	

	医歯学基盤教育			頭頸部・基礎	頭頸部・臨床	老年医学
	生命倫理	臨床統計	グローバル・コミュニケーション			
細目						
	B	B	B	B	B	B
	B	B	B	B	B	B
				A	A	A
	C					
	B	B	B	B	B	B
				B		
				B		
	A	A	A	A	A	A
						C
			C			C
	A	A	A	A	A	A
				A		
	A	A	A	A	A	A
	A	A	A	A	A	A
	A	A	A	A	A	A
常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動する必要性を理解している	B			A		A
	A	A	A	A	A	A
守秘義務と患者プライバシーに関して説明できる	B		B			A
	C					
著作権侵害にあたる行動を列挙できる	BA	A	A	A	A	A
	B		B			
	B		B			
	A	A	A	A	A	A
	A	A	A	A	A	A
	A	A	A	A	A	A
	A	A	A	A	A	A

別表　科目を履修して得られる能力

医学系コンピテンシーより

コミュニケーション	医療チーム内/間コミュニケーション	B	書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる	
		B	多学科チームのすべてのメンバーと、敬意を払って効果的な議論ができる	C
	患者および家族とのコミュニケーション	B	患者の様々な背景や文化がどれだけ医者-患者間のコミュニケーションに影響するかを説明できる	
		B	重大で繊細な難しいトピック(sexual history、疾患名告知、退院計画議論、ターミナルケアなど)について患者や患者家族と議論する際に、配慮すべき点や重要な点を説明できる	
		C	患者中心の医療について説明できる	
知識とその応用	医学知識(基礎)	A	基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる	B
	医学知識(臨床)	B	頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる	
		C	症候／問題の原因評価において用いられる評価法についての知識(適応／合併症／限界)を提示できる	
		B	頻度の高い疾患に対する治療法(薬物療法、非薬物療法の双方を含む)に関する知識を提示できる	
	医療と社会	B	世界の健康の向上および増進のため、国際機関等の活動に参加する	
	予防と健康管理・増進	B	頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる	
	歯科医学関連知識	B	診療上必要な歯科医学の知識を提示できる	C
		B	全身疾患と口腔疾患の関連を説明できる	
診療の実践	EBM/臨床推論	B	診療上必要な歯科医学の知識を提示できる	
		A	臨床上の問題を明確化し、解決のために最適な情報源を選定できる	B
		A	臨床研究の吟味において、研究デザインや統計的手法についての知識を応用できる	B
		A	適切な用語を用いて、医学的介入の利点と欠点を説明できる	B
		B	仮想症例の臨床判断に際し、関連するエビデンスの質を判断できる	C
		B	診療ガイドラインにアクセスし、仮想症例の検討に活用できる	
		A	適切な用語を用いて、患者の疾患可能性にもとづく診断的検査の意義を検討できる	B
		C	主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる	
	身体診察	A	高齢者の機能的評価を行える	
		C	臨床実習の学習項目に含まれる異常所見と、その診断的意義を説明できる	
	医療・福祉制度の理解と応用	B	多学科チームでの仮想症例を通したチーム医療学習の場で、多職種よりなるチーム医療を成立させる医療・福祉システムを活用できる。	
		B	仮想症例検討において、病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム・機関を活用できる	
		B	医療体制の主な構成要素(患者、多職種にわたる医療供給者、医療機関、保険者、行政、医療産業(製薬会社等)、診療報酬、薬価)について、役割・意義を説明できる	
		A	医療保険、コスト、医療の質、そして医療アクセスを考慮した診療を、指導/監督のもとで実践できる	B
		S	費用対効果研究、比較効果研究に関するエビデンスの批判的吟味ができ、診療への影響を説明できる	

	医歯学基盤教育			頭頸部・基礎	頭頸部・臨床	老年医学
	生命倫理	臨床統計	グローバル・コミュニケーション			
					B	B
多学科チームでの学習の場で、敬意を払って会話し、チームに貢献し学習できる	C	C	C	C	B	B
	B		B			B
	B		B			
	C		C			
疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる				B	A	A
					B	B
					C	C
					B	B
			B			
					B	B
歯科医学的側面を考慮した診療ができる				C	B	
					B	B
		B				
臨床上の問題を明確化できる		BA				
研究デザインや統計的手法についての知識を提示できる	B	BA				
医学的介入（予防/治療）に関するエビデンス吟味に用いられる用語(NNT, NNHなど）を説明できる		BA				
入手したエビデンスのレベルを正確に説明できる		CB				
		B				
診断に関するエビデンス吟味に用いられる用語(感度、特異度、尤度比など）を説明できる		BA				
					C	C
						A
					C	C
						B
						B
						B
医療アクセス、コスト、資源分配など、医療政策の重要な概念とそれらの関係、そして診療への影響を説明できる			B			A
		(S)				

別表　科目を履修して得られる能力

歯学系コンピテンシーより

大領域	小領域	要点	細目(Level A)	細目(Level B)
国際人としての基盤	国際感覚／国際的視点	国際感覚／国際的視点	世界的に注目されている医学/歯学/健康に関する主たるトピックについて精通するよう情報収集する習慣を有し、議論できる	世界的に注目されている医学/歯学/健康に関する主たるトピックについて議論できる
	国際言語の運用力	国際言語（英語）の運用力	世界中から発信される医学/歯学における最新の情報につき常に自己アップデートする習慣を可能にする国際言語（英語）能力を有する	科学/医学/歯学の専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
科学的探究心とEBD	情報収集・管理	守秘義務	患者情報の守秘義務を果たすことができる	守秘義務の実行方法について理解する
		情報のアップデート	常に新たな情報を探し求めることができる	必要な情報を新たに得る方法を習得する
	科学的探求への姿勢	問題発見・解決能力	臨床的あるいは科学的問題を認識し、その問題点を説明できる。	臨床的あるいは科学的問題を解決するための方法を理解する
		研究活動の実践	指導教員のもとで研究を実践できる。	指導教員のもとで研究計画を立案できる。
		研究発表	研究で明らかにした新知見を明確に説明できる	科学論文を読んで、その内容を理解し、紹介できる
		研究倫理の理解	研究倫理を理解して動物、ヒトもしくはヒト由来の標本を扱うことができる	実験動物、ヒトに関する研究の倫理的事項を概説できる
プロフェッショナリズム	医療人としての姿勢・行動	対人関係	患者・家族に共感、敬意、思いやりをもって接することができる	医療における接遇の重要性を説明できる
		対人関係	歯科医療チーム、他の専門職に対して、敬意、共感、責任感、誠実さを持って協働できる	チーム医療の必要性を理解している
		品位	医療人として適切な服装、言葉遣い、立ち振る舞いを実践できる	医療人として適切な服装、言葉遣い、立ち振る舞いを説明できる
		リーダーシップ	歯科医療チームを管理する立場として行動できる	歯科医療チームを管理する立場を理解できる
		勤労習慣	医療人としての基本的行動規範を順守できる	
	倫理	良識を伴った行動	常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる	物事の健全な考え方・正しい判断とは何かを身につける。
		患者中心医療の実践	患者中心の医療を理解し，行動することができる	模擬患者等に対して患者中心の医療に基いた対応ができる。
		プライバシー尊重	患者のプライバシーを尊重できる	患者のプライバシーの尊重について説明できる。
		患者権利の尊重	患者の権利を理解し、インフォームドコンセントを適切に取得することができる	模擬患者を使ってインフォームドコンセントを取得することができる。
		インシデントへの対応	医療事故やインシデントに関する情報を共有し、再発防止に役立てることができる	:医療事故やインシデントに関する情報を共有、重要性を理解し、再発防止に役立てることができることを理解する
		著作権への対応	臨床記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる	臨床・研究に関する学術発表や論文記述などの際に必要な著作権に関して説明できる。
		不正への対応	職務上の不正を認識し、倫理的に適切な対応を取る必要性を認識している	職務上の不正が社会に及ぼす影響を説明できる.
		自己能力の認識	自分の能力の限界を認識し、行動すること必要性があることを理解している	自己能力を認識した行動ができる。
	法令、機関内規、規範等	法令、機関内規、規範等の遵守	大学の学則等の所属機関の内規、法令、規範等を遵守できる	
	倫理	利益相反	利益相反が生じる可能性を認識し、適切に対処できる	利益相反および回避するための行動を説明できる
		企業との倫理的な関係	企業と倫理的に適切な関係を保つことができる	企業と倫理的に適切な関係を保つ必要性を説明できる
	職業人としての生涯学習	生涯学習の必要性の理解	高度な歯科医療を提供するために、生涯にわたり研鑽を積むことの重要性を理解する	
対人コミュニケーション	医師患者関係	医師患者関係	診療において、患者とのラポール構築のために必要な行動をとることができる	患者とのラポール構築のための知識を持っている
			患者の心理状態や社会的背景に配慮できる	患者の心理状態や社会的背景を理解できる
	患者および家族とのコミュニケーションと情報共有	患者・家族の文化背景への対応	様々な背景や文化を持つ患者や患者家族と、効果的に意思疎通をとることができる	患者や患者家族の様々な背景や文化を認識することができる。
		患者中心の診療	患者の要望や懸念を認識し、診療計画策定を行い、診療することができる	患者の要望や懸念を認識することができる。
		患者との情報共有	患者や患者家族に、口頭および書面にて、臨床所見/情報およびその後の計画を提示することができる	患者や患者家族にしめすための、口頭および書面にて、臨床所見/情報およびその後の計画を作成しまとめることができる。
	医療チームにおける意思疎通	医療チームにおける情報共有	歯科医療チームおよび他医療者に対して、口頭および書面にて、患者に関する全ての臨床情報を、わかりやすく提供することができる	歯科医療チームおよび他医療者に対して提示する患者に関する全ての臨床情報を、わかりやすくまとめることができる。
		多職種連携への基礎	多職種チームのすべてのメンバーと敬意を払いつつ効果的な議論ができる	
		教育現場におけるコミュニケーション	指導教員、上級生、同級生、下級生と、良好な意思疎通を図ることができる	
知識とその応用	基礎歯学（人体の構造・機能と病態科学）	頭頸部臨床	頭頚部領域の基礎医学および臨床医学知識を、頭頚部領域の診療に適用できる	頭頚部領域の基礎医学および臨床医学知識を持っている
		解剖、生理、生化学	歯科医学に関連する解剖、生理、生化学の知識を歯科臨床における現象の理解に適用できる	歯科医学に関連する解剖、生理、生化学の知識を持っている
		病態科学	口腔病変の病因と病理学的発生過程に関する知識を病態の理解に適用できる	口腔病変の病因と病理学的発生過程に関する知識を持っている
		感染と生体防御	感染とその予防・治療に関する基礎的知識を歯科臨床において適用できる	感染とその予防・治療に関する基礎的知識を持っている
		薬理	歯科臨床に関連する薬とその使用方法に関する知識を歯科臨床に適用できる	歯科臨床に関連する薬とその使用方法に関する知識を持っている

		2,3,4年次			2年次	3年次	3年次
		医歯学基盤教育					
細目(Level C)	細目(Level D)	生命倫理	臨床統計	グローバル・コミュニケーション	頭頸部基礎	頭頸部臨床	老年医学
世界的に注目されている医学/歯学/健康に関する主たるトピックについて説明できる		B	B	B	B	B	B
非専門用語/表現の理解/表記/発音ができる		B	B	B	B	B	B
患者情報の守秘義務に必要性を理解する		C			C		
		B	B	B	B	B	B
臨床的あるいは科学的問題を知る		B	B	B	C	C	C
研究の目的や手技を理解できる		B	B				
科学論文を読んで、その内容を理解する				C			
		B					
コミュニケーションの重要性を理解している						A	
						B,A	B,A
医療人としての立場を理解している						A	
							B
		A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B
患者中心の医療に基づいた行動を具体的に説明できる。		C		C		BA	
患者のプライバシーの尊重について学習する。		B				A	
インフォームドコンセントについてを説明できる。		C		C		C	
				B			
		A	A	A	A	A	A
				B			
自己能力を認識する。		B	B	B	A	B	B
		A	A	A	A	A	A
		B		B			
		B		B			
						A	A
						B	B
						B	B
						B	B
						B	B
						B	B
						B	B
						A	A
						A	A
					B	B	
人体の構造と機能および生命現象を司る物質的基盤を理解する					B	A	A
口腔・頭蓋・顎顔面領域の正常構造を理解する					B	B	A
						A	A
							A

別表　科目を履修して得られる能力

歯学系コンピテンシーより

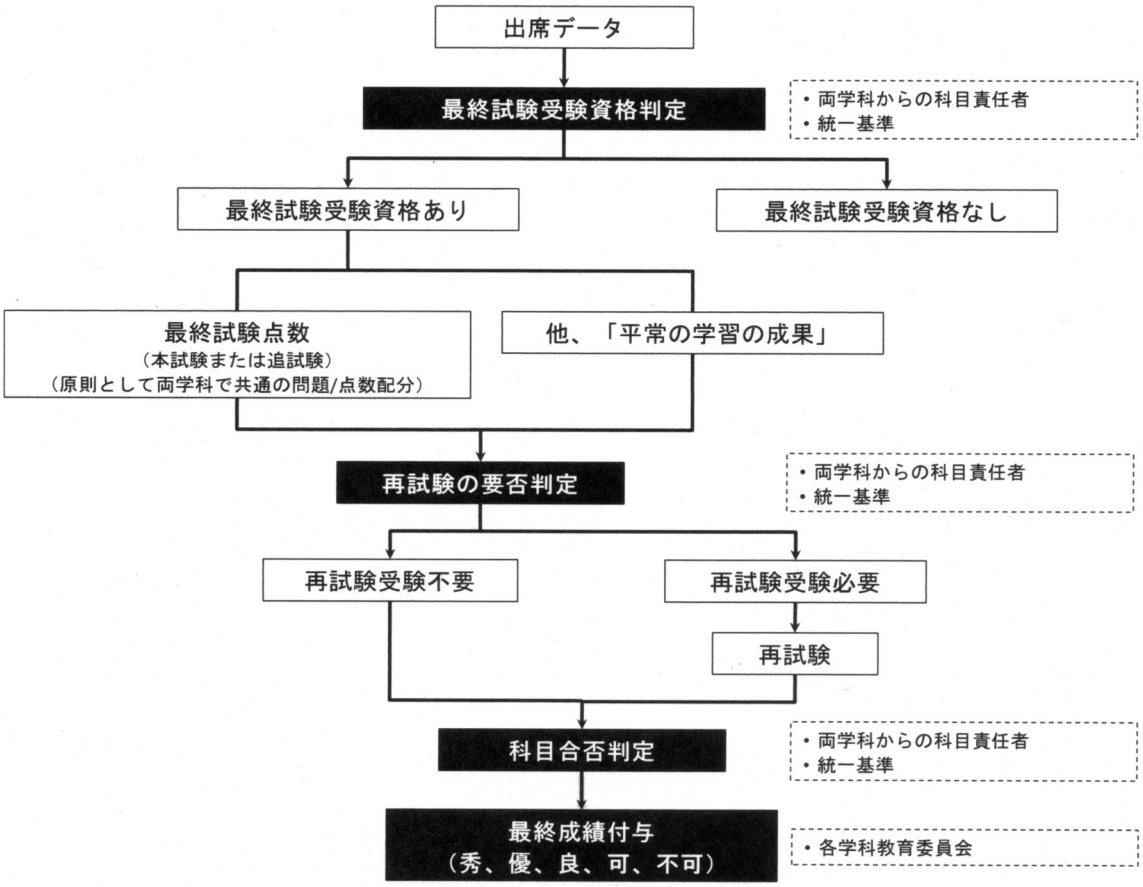
大領域	小領域	要点	細目(Level A)	細目(Level B)
知識とその応用	臨床医学（口腔病態と全身病態）	老年医学:臨床の基礎	老年医学の知識を、高齢者の診療/歯科診療に適用できる	老年医学の知識を持っている
		内科・外科	薬とその使用方法に関する知識を歯科臨床に適用できる	薬とその使用方法に関する知識を持っている
		口腔病態と全身病態の関連	全身/口腔疾患の関連についての知識を、歯科医療に適用できる	全身/口腔疾患の関連についての知識を持っている
	臨床歯学（高度専門知識の応用）	口腔外科・矯正歯科	外科的治療・矯正歯科治療を要する口腔顎顔面領域に生じる疾患に関する専門的知識を、個々の症例に適用し、適切に説明できる	外科的治療・矯正歯科治療を要する口腔顎顔面領域に生じる疾患に関する専門的知識を有する
		放射線治療	人体に対する放射線の影響を基礎としながら、放射線治療による治療効果や正常組織障害を適切に説明できる	人体に対する放射線の影響ならびに放射線治療による治療効果や正常組織障害に関する専門的知識を有する。
診療の実践	科学的根拠に基づいた医療の展開	科学的根拠に基づいた医療の展開	臨床上の疑問を定義し、これらの疑問を解決するために適切な情報源にアクセスし、得られた知見を診療に適用できる	臨床上の疑問を定義し、これらの疑問を解決するために適切な情報源にアクセスし、情報を得ることができる
		科学的根拠に基づいた医療の展開	臨床判断に際し、関連する質の高いエビデンスを、十分吟味した上で適用できる	質の高いエビデンスを、十分吟味できる
		科学的根拠に基づいた医療の展開	患者の疾患可能性にもとづく診断的検査の意義について、適切な疫学用語と疾病パターンの知識を適用し、検討できる	患者の疾患可能性にもとづく診断的検査の意義について、適切な疫学用語と疾病パターンの知識を身につける
		診療ガイドラインの利用	必要な診療ガイドラインを入手し内容を理解できる	診療ガイドラインに関する知識を身につける
	診査診断と治療計画	診査と検査	症例に応じた診査と検査ができる	症例に応じた診査法と検査法を列挙できる
		画像診断	適切な画像検査法を選択し、結果を解釈できる	各種画像検査法の種類と適応を説明できる
	治療とその技能	歯冠修復・欠損補綴	基本的な歯冠修復・欠損補綴処置ができる	基本的な歯冠修復・欠損補綴処置を説明できる
		歯周病	歯周病の基本的な治療ができる	歯周病の予防・診断および治療を説明できる
		歯髄疾患と根尖歯周組織疾患	歯髄疾患と根尖歯周組織疾患の基本的な治療ができる	歯髄疾患と根尖歯周組織疾患の予防・診断および治療を説明できる
		外科処置	基本的な外科処置ができ、粘膜疾患への適切な対応ができる	基本的な外科処置が説明でき，粘膜疾患を理解できる
		放射線	適切な画像検査を実施し、結果を解釈できる。	画像検査について説明できる
		小児歯科	小児の口腔領域の基本的な疾患について、治療計画を説明でき、簡単な治療ができる	小児の口腔領域の基本的な疾患について、治療計画を説明できる
		矯正歯科	基本的な歯科矯正・外科的矯正治療について、治療計画を説明できる	基本的な歯科矯正・外科的矯正治療について理解できる
		顎関節症	顎関節症の基本的な治療計画を説明できる	顎関節症の予防・診断および治療を説明できる
		全身管理と麻酔	歯科治療に必要な全身管理方法の立案ができ、麻酔手技について説明できる	歯科治療に必要な全身管理について説明できる
		スペシャルケア	特別なケアを必要とする患者の全身状態の評価をし、治療計画について説明できる	特別なケアを必要とする患者の全身状態の評価法を説明できる
		インプラント	インプラント治療の基礎的知識を治療計画立案に適用できる	インプラント治療の基礎的知識を身につける
	予防と口腔衛生の維持	予防と健康管理	すべての年齢層での口腔疾患の予防と健康管理を実践できる	すべての年齢層での口腔疾患の予防と健康管理を説明できる
社会における予防と健康増進	地域における個人・家族・集団の口腔保健増進	病院・診療所運営システムの理解と応用	学生、指導教員、多職種医療従事者により構成されるチーム医療に参加する際に、チーム医療を成立させる基盤システムを活用できる	学生、指導教員、多職種医療従事者により構成されるチーム医療に参加する際に、チーム医療を成立させる基盤システムを説明できる
		医療保険・費用等の知識	医療保険、コスト、医療の質、そして医療アクセスに関する知識を、個々の患者の診療に適用できる	医療保険、コスト、医療の質、そして医療アクセスに関する知識を身につける
		医療システムの理解と応用	地域・病院における医療展開およびそれに関わる組織（患者団体、病院、保険団体、行政機関、歯科材料会社等）について理解する	地域・病院における医療展開およびそれに関わる組織（患者団体、病院、保険団体、行政機関、歯科材料会社等）について関する知識を身につける
		医療政策との関わり	医療政策の立案過程、および歯科医師が医療政策立案に関われる機会について、説明できる	医療政策に関する知識を身につける
		社会・文化・環境要因と疾病との関連	健康・疾病に影響を与える社会的、文化的、環境的要因を説明できる	健康・疾病に影響を与える社会的、文化的、環境的要因に関する知識を身につける
		他医療の発展と口腔保健活動の関係の理解	各種医療サービスと口腔保健活動の関わりの重要性を理解し、歯科医療チームの基本的能力を向上する必要性を理解する	各種医療サービスと口腔保健活動の関する知識を身につける

		2,3,4年次			2年次	3年次	3年次
		医歯学基盤教育					
細目(Level C)	細目(Level D)	生命倫理	臨床統計	グローバル・コミュニケーション	頭頸部基礎	頭頸部臨床	老年医学
身体の構造と機能の加齢変化(常態)を理解する)							B
							B
							B
外科的治療・矯正歯科治療を要する口腔顎顔面領域に生じる疾患の概略を知っている	口腔・頭蓋・顎顔面領域の諸構造とそれらの解剖学的相互関係を理解する				D		
						B	
臨床上の疑問を定義できる			C			B	B
エビデンスに関する知識を身につける			C				
						B	B
			B				
診査と検査に関する知識を身につける						B	B
放射線に関する知識を身につける	人体の正常解剖および病態に関する知識を身につける				D		
基本的な歯冠修復・欠損補綴処置に関する知識を身につける	歯の形態と歯列、咬合に関する知識を身につける				D		
歯周病の病因・病態を理解できる	歯周組織の構造と発生の仕組み、加齢変化を理解する	D			D	D	D
歯髄疾患と根尖歯周組織疾患の病因・病態を理解できる	歯髄と歯周組織の構造と相互関係を理解する				D		
口腔・頭蓋・顎顔面領域に関する基礎的な知識を身につける					C	B	
画像検査に関する知識を身につける	人体の正常解剖および病態に関する知識を身につける					D	
小児の口腔領域の基本的な疾患を理解できる	小児の口腔領域に関する知識を身につける	D			D		
顎口腔領域の形態・機能及びそれらの成長変化に関する知識を身につける					C	B	
顎関節症の病因・病態および付随する機能障害を理解できる	顎関節と咀嚼筋に関する知識を身につける				D	B	
歯科治療に必要な全身管理に関する知識を身につける							B
特別なケアを必要とする患者の全身状態に関する知識を身につける							B
口腔・頭蓋・顎顔面領域の諸構造とそれらの解剖学的相互関係を理解する					C	C	
すべての年齢層での口腔疾患の予防と健康管理に関する知識を身につける		C	C			C	B
学生、指導教員、多職種医療従事者により構成されるチーム医療に参加する際に、チーム医療を成立させる基盤システムに関する知識を身につける		B				B	B
						B	B
							A
							B
							B
							B

成績評価判定

医歯学融合教育科目における成績評価判定について

- 医歯学融合教育科目の受験資格判定、採点および合否判定は科目責任者が行う。
- 原則として、試験問題、採点および合否判定は両学科共通とする。
- 医学科・歯学科の各教育委員会で成績の判定をする。



＊履修規則等は、医学科または歯学科の教育要項を参照。

教養教育

平成25年度医歯学融合教育（教養教育）

● 医学科・歯学科（2年生）

月日	曜日	1時限（9:00～9:50）	2時限（10:05～10:55）	3時限（11:10～12:00）
4月18日	木	生命科学基礎（生物学） （医学科・歯学科2年生対象） （服部・伊藤） （医学科講義室1 および大学院講義室4）	主題別選択Ⅰ（前半） （医学科・歯学科2年生対象） （教養部教員） （講義室：別ページ）	
4月25日	木			
5月2日	木			
5月9日	木			
5月16日	木			
5月23日	木			
5月30日	木			
6月6日	木			
6月13日	木		主題別選択Ⅰ（後半） （医学科・歯学科2年生対象） （教養部教員） （講義室：別ページ）	
6月20日	木			
6月27日	木	生命科学基礎（化学） （医学科・歯学科2年生対象） （奈良・澤野） （医学科講義室1 および大学院講義室4）		
7月4日	木			
7月11日	木			
7月18日	木			
7月25日	木			
9月19日	木	試験	試験	
10月3日	木	生命科学基礎（化学） （医学科・歯学科2年生対象） （奈良・澤野） （医学科講義室1および大学院講義室4）		
10月10日	木			
10月17日	木			
10月24日	木	生命科学基礎（化学） （医学科・歯学科2年生対象） （奈良・澤野） （医学科講義室1 および大学院講義室4）		
10月31日	木			
11月7日	木			
11月14日	木	生命科学基礎（物理学） （医学科・歯学科2年生対象） （千葉・越野） （医学科講義室1 および大学院講義室4）		
11月21日	木			
11月28日	木			
12月5日	木			
12月12日	木			
12月19日	木			
1月9日	木	専門科目試験（病理学）		
1月16日	木	生命科学基礎（物理学） （千葉・越野） （医学科講義室1 および大学院講義室4）		
1月23日	木			
1月30日	木			
2月6日	木			
2月13日	木	試験	試験	
3月6日	木	試験	試験	試験

●医学科・歯学科（3年生）

月日	曜日	2時限（10:05～10:55）	3時限（11:10～12:00）
4月18日	木	主題別選択Ⅱ（前半） （医学科・歯学科3年生対象） （教養部教員） （講義室：別ページ）	主題別人文社会科学ｾﾐﾅｰ （前期：前半） （医学科・歯学科3年生対象） （教養部教員） （講義室：別ページ）
4月25日	木		
5月2日	木		
5月9日	木		
5月16日	木		
5月23日	木		
5月30日	木		
6月6日	木		
6月13日	木	主題別選択Ⅱ（後半） （医学科・歯学科3年生対象） （教養部教員） （講義室：別ページ）	主題別人文社会科学ｾﾐﾅｰ （前期：後半） （医学科・歯学科3年生対象） （教養部教員） （講義室：別ページ）
6月20日	木		
6月27日	木		
7月4日	木		
7月11日	木		
7月18日	木		
7月25日	木		
10月3日	木		主題別人文社会科学ｾﾐﾅｰ （後期：前半） （医学科・歯学科3年生対象） （教養部教員）（講義室：別ページ）
10月10日	木		
10月17日	木		
10月24日	木		主題別人文社会科学ｾﾐﾅｰ （後期：前半） （医学科・歯学科3年生対象） （教養部教員） （講義室：別ページ）
10月31日	木		
11月7日	木		
11月14日	木		
11月21日	木		
11月28日	木		主題別人文社会科学ｾﾐﾅｰ （後期：後半） （医学科・歯学科3年生対象） （教養部教員） （講義室：別ページ）
12月5日	木		
12月12日	木		
12月19日	木		
1月9日	木		
1月16日	木		主題別人文社会科学ｾﾐﾅｰ （後期：後半） （医学科・歯学科3年生対象） （教養部教員） （講義室：別ページ）
1月23日	木		
1月30日	木		
2月6日	木		

教 養 教 育

世界に通用する医療人になるためには、専門教育で獲得する知と技に加えて、さまざまな文化や多様な世界を理解できる教養と、他者を理解するための人間としての力が求められています。教養部では、そのためには、教養教育と、専門教育を学ぶための基礎教育を並行して行うことが必要だと考えています。

1年次には国府台キャンパスで、自然科学や人文社会科学の基本的な考え方を学ぶとともに基礎学力の充実を図りました。2年次と3年次には湯島キャンパスで、専門教育と密接にかかわる自然科学の分野を「生命科学基礎」として学びます。さらに、自然科学、人文社会科学、語学について複合的に学ぶことをとおして、自己問題提起・解決型の創造力を身につけることを目的とした、「主題別選択Ⅰ・Ⅱ」と「主題別人文社会科学セミナー」の授業が行われます。

科目概要

1）生命科学基礎（生物学・化学・物理学）

1年次の学習だけでは不十分であった生物学、化学、物理学の内容を補うとともに、生命科学に関係するトピックも取り上げ、医歯学の専門に関わる教育の基礎となる科学を総合的に学ぶことで、基礎学力のさらなる充実を図り、専門教育へ円滑につないでいくことを目的としています。

2）主題別選択Ⅰ・Ⅱ

「人間」という存在について、人間を生物的社会的存在たらしめている要素である「文化」「生命」「言語」「制度」「時間」という5つの視点の中から各自が1つの視点を選択し、その視点から「人間」を考えてみる授業です。3年次に行われる「主題別人文社会科学セミナー」へ向け、視野を広げ、基礎的な知識や考え方を身につけることを目的としています。

3）主題別人文社会科学セミナー

各主題に別れて、担当者の指導のもと、自ら問題を設定し、調査・考察・討論を経て、一定の結論を導きます。自分が選択した主題の観点を中心に、「人間」という存在について、自分の考えを持つことが期待されています。

生命科学基礎

授業科目名	生命科学基礎(生物学A) (英訳) Basic Life Science (Biology A)	授業責任者	服部　淳彦・伊藤　正則

○授業回数・試験回数
　授業　10　回　　試験　1　回

○科目を履修して得られる能力
医歯学専門教育の土台となる基礎科学のトピックスについて理解し、説明できる。

○目的・到達目標
●1年次の学習だけでは不十分な生物学の分野を補うとともに、生命科学に関係するトピックスを取り上げることにより、専門教育の土台となる科学的な基礎体力を養います。
また、医歯学の専門に関わる教育の基礎となる科学を総合的に学習することにより、専門教育へ円滑につないでいくことを目的としています。
●生命科学の土台となる生物学について、必要に応じて自学自習で理解を深めることができることを到達目標とします。

○学習方法
講義形式による

○教科書　(授業において学生の所持を前提とする書籍)
「時間生物学の基礎」富岡憲治、沼田英治、井上慎一共著　(裳華房)

○参考書　(学習の参考になる書籍)

適宜、参考になる本を紹介するとともに、資料を配布する。

○参考URL　(学習の参考になるサイト)

○成績評価方法
●試験による。
●生命科学基礎の評価は、生物学、化学、物理学の総合評価で行う。
前期の定期試験では、生物学と化学(の前半)、後期の定期試験では化学(の後半)と物理学について行う。試験のいずれか1つでも受験を放棄した場合、履修放棄とみなす。

○試験の受験資格
2/3以上出席したもの

○受講上の注意

○問い合わせ先(担当教員)

(教員名)	(診療科・分野)	(Eメールアドレス)
服部　淳彦	教養部　生物	ahattori.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
4月18日	木	1	服部・伊藤	時間治療学・時間薬理学とは	医学科講義室1・大学院講義室4
4月25日	木	1	服部・伊藤	生物が示す自由継続リズム	医学科講義室1・大学院講義室4
5月2日	木	1	服部・伊藤	サーカディアンクロックの性質	医学科講義室1・大学院講義室4
5月9日	木	1	服部・伊藤	サーカディアンクロックの存在部位	医学科講義室1・大学院講義室4
5月16日	木	1	服部・伊藤	時計遺伝子と時計のメカニズム	医学科講義室1・大学院講義室4
5月23日	木	1	服部・伊藤	時計遺伝子の異常と疾患	医学科講義室1・大学院講義室4
5月30日	木	1	服部・伊藤	サーカディアンクロックからの情報伝達物質	医学科講義室1・大学院講義室4
6月6日	木	1	服部・伊藤	フリーラジカルと活性酸素	医学科講義室1・大学院講義室4
6月13日	木	1	服部・伊藤	フリーラジカルが関与する変性と疾患	医学科講義室1・大学院講義室4
6月20日	木	1	服部・伊藤	概日時計の情報伝達物質と抗酸化物質	医学科講義室1・大学院講義室4

授業科目名	生命科学基礎(生物学B) (英訳) Basic Life Science (Biology B)	授業責任者	服部 淳彦・伊藤 正則

○授業回数・試験回数
授業 10 回 試験 1 回

○科目を履修して得られる能力
医歯学専門教育の土台となる基礎科学のトピックスについて理解し、説明できる。

○目的・到達目標
●1年次の学習だけでは不十分な生物学の分野を補うとともに、生命科学に関係するトピックスを取り上げることにより、専門教育の土台となる科学的な基礎体力を養います。
また、医歯学の専門に関わる教育の基礎となる科学を総合的に学習することにより、専門教育へ円滑につないでいくことを目的としています。
●生命科学の土台となる生物学について、必要に応じて自学自習で理解を深めることができることを到達目標とします。

○学習方法
講義形式による

○教科書 (授業において学生の所持を前提とする書籍)
「時間生物学の基礎」富岡憲治、沼田英治、井上慎一共著 (裳華房)

○参考書 (学習の参考になる書籍)
適宜、参考になる本を紹介するとともに、資料を配布する。

○参考URL (学習の参考になるサイト)

○●試験による。
●生命科学基礎の評価は、生物学、化学、物理学の総合評価で行う。
前期の定期試験では、生物学と化学(の前半)、後期の定期試験では化学(の後半)と物理学について行う。試験のいずれか1つでも受験を放棄した場合、履修放棄とみなす。

○試験の受験資格
2/3以上出席したもの

○受講上の注意

○問い合わせ先(担当教員)

(教員名)	(診療科・分野)	(Eメールアドレス)
服部 淳彦	教養部 生物	ahattori.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
4月18日	木	1	服部・伊藤	時間治療学・時間薬理学とは	医学科講義室1・大学院講義室4
4月25日	木	1	服部・伊藤	生物が示す自由継続リズム	医学科講義室1・大学院講義室4
5月2日	木	1	服部・伊藤	サーカディアンクロックの性質	医学科講義室1・大学院講義室4
5月9日	木	1	服部・伊藤	サーカディアンクロックの存在部位	医学科講義室1・大学院講義室4
5月16日	木	1	服部・伊藤	時計遺伝子と時計のメカニズム	医学科講義室1・大学院講義室4
5月23日	木	1	服部・伊藤	時計遺伝子の異常と疾患	医学科講義室1・大学院講義室4
5月30日	木	1	服部・伊藤	サーカディアンクロックからの情報伝達物質	医学科講義室1・大学院講義室4
6月6日	木	1	服部・伊藤	フリーラジカルと活性酸素	医学科講義室1・大学院講義室4
6月13日	木	1	服部・伊藤	フリーラジカルが関与する変性と疾患	医学科講義室1・大学院講義室4
6月20日	木	1	服部・伊藤	概日時計の情報伝達物質と抗酸化物質	医学科講義室1・大学院講義室4

授業科目名	生命科学基礎(化学A) (英訳) Basic Life Science (Chemistry A)	授業責任者	奈良　雅之・澤野　頼子

○授業回数・試験回数
　授業　10　回　　試験　2　回

○科目を履修して得られる能力
医歯学専門教育の土台となる科学基礎のトピックスについて理解し、説明できる。

○目的・到達目標
1年次の学習だけでは不十分な化学の分野を補うとともに、生命科学に関係するトピックを取り上げることにより、専門教育の土台となる科学的な基礎体力を養います。
医歯学の専門に関わる教育の基礎となる科学を総合的に学習することにより、専門教育へ円滑につないでいくことを目的としています。
生命科学の土台となる化学について、必要に応じて自学自習で理解を深めることができることを到達目標とします。

○学習方法
講義形式による。

○教科書　(授業において学生の所持を前提とする書籍)
「生体分子化学　第2版」秋久俊博、長田洋子編(共立出版)
「数学いらずの化学反応論」齋藤勝裕著　(化学同人)

○参考書　(学習の参考になる書籍)
「マクマリー　有機化学(下)第7版」伊東椒ら訳(東京化学同人)
「新版　ライフサイエンス系の高分子化学」宮下徳治 編著(三共出版)
「アトキンス　生命科学のための物理化学」 稲葉章、中川敦史訳(東京化学同人)

○参考URL　(学習の参考になるサイト)

○成績評価方法
試験による。
生命科学基礎の評価は、生物学、化学、物理学の総合評価で行う。
前期の定期試験では、生物学と化学(の前半)、後期の定期試験では化学(の後半)と物理学について行う。試験のいずれか1つでも受験を放棄した場合、履修放棄とみなす。

○試験の受験資格
2/3以上出席したもの。

○受講上の注意

○問い合わせ先(担当教員)

(教員名)	(診療科・分野)	(Eメールアドレス)
澤野　頼子	教養部　化学	sawano.las@tmd.ac.jp
奈良　雅之	教養部　化学	nara.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
6月27日	木	1	澤野頼子	糖質の化学(1)	医学科講義室1
7月4日	木	1	澤野頼子	糖質の化学(2)	医学科講義室1
7月11日	木	1	澤野頼子	アミノ酸の化学	医学科講義室1
7月18日	木	1	澤野頼子	タンパク質の化学	医学科講義室1
7月25日	木	1	澤野頼子	脂質の化学	医学科講義室1
10月3日	木	1	奈良雅之	化学反応速度論(1)	医学科講義室1
10月10日	木	1	奈良雅之	化学反応速度論(2)	医学科講義室1
10月24日	木	1	奈良雅之	化学反応速度論(3)	医学科講義室1
10月31日	木	1	奈良雅之	化学反応速度論(4)	医学科講義室1
11月7日	木	1	奈良雅之	酵素反応速度論	医学科講義室1

授業科目名	生命科学基礎(化学B) (英訳) Basic Life Science (Chemistry B)	授業責任者	奈良　雅之・澤野　頼子

○授業回数・試験回数
授業　10　回　　試験　2　回

○科目を履修して得られる能力
医歯学専門教育の土台となる科学基礎のトピックスについて理解し、説明できる。

○目的・到達目標
1年次の学習だけでは不十分な化学の分野を補うとともに、生命科学に関係するトピックを取り上げることにより、専門教育の土台となる科学的な基礎体力を養います。
医歯学の専門に関わる教育の基礎となる科学を総合的に学習することにより、専門教育へ円滑につないでいくことを目的としています。
生命科学の土台となる化学について、必要に応じて自学自習で理解を深めることができることを到達目標とします。

○学習方法
講義形式による。

○教科書　(授業において学生の所持を前提とする書籍)
「数学いらずの化学反応論」齋藤勝裕著　(化学同人)
「生体分子化学　第2版」秋久俊博、長田洋子編(共立出版)

○参考書　(学習の参考になる書籍)
「アトキンス　生命科学のための物理化学」 稲葉章、中川敦史訳(東京化学同人)
「マクマリー　有機化学(下)第7版」伊東椒ら訳(東京化学同人)
「新版　ライフサイエンス系の高分子化学」宮下徳治 編著(三共出版)

○参考URL　(学習の参考になるサイト)

○成績評価方法
試験による。
生命科学基礎の評価は、生物学、化学、物理学の総合評価で行う。
前期の定期試験では、生物学と化学(の前半)、後期の定期試験では化学(の後半)と物理学について行う。試験のいずれか1つでも受験を放棄した場合、履修放棄とみなす。

○試験の受験資格
2/3以上出席したもの。

○受講上の注意

○問い合わせ先(担当教員)

(教員名)	(診療科・分野)	(Eメールアドレス)
奈良　雅之	教養部　化学	nara@tmd.ac.jp
澤野　頼子	教養部　化学	sawano.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
6月27日	木	1	奈良雅之	化学反応速度論(1)	大学院講義室4
7月4日	木	1	奈良雅之	化学反応速度論(2)	大学院講義室4
7月11日	木	1	奈良雅之	化学反応速度論(3)	大学院講義室4
7月18日	木	1	奈良雅之	化学反応速度論(4)	大学院講義室4
7月25日	木	1	奈良雅之	酵素反応速度論	大学院講義室4
10月3日	木	1	澤野頼子	糖質の化学(1)	大学院講義室4
10月10日	木	1	澤野頼子	糖質の化学(2)	大学院講義室4
10月24日	木	1	澤野頼子	アミノ酸の化学	大学院講義室4
10月31日	木	1	澤野頼子	タンパク質の化学	大学院講義室4
11月7日	木	1	澤野頼子	脂質の化学	大学院講義室4

授業科目名	生命科学基礎（物理A） (英訳) Basic Life Science (Physics A)	授業責任者	越野　和樹

○授業回数・試験回数
　授業　10　回　　試験　1　回

○科目を履修して得られる能力
医歯学専門教育の土台となる基礎科学のトピックスについて理解し、説明できる。

○目的・到達目標
1年次の学習だけでは不十分な物理学の分野を補うとともに、振動・波動に関係するトピックを取り上げることにより、専門教育の土台となる科学的な基礎体力を養います。
医歯学の専門に関わる教育の基礎となる科学を総合的に学習することにより、専門教育へ円滑につないでいくことを目的としています。
生命科学の土台となる物理学について、必要に応じて自学自習で理解を深めることができることを到達目標とします。

○学習方法
講義形式による。

○教科書　（授業において学生の所持を前提とする書籍）
「振動・波動」小形正男著（裳華房）ISBN 978-4-7853-2088-1

○参考書　（学習の参考になる書籍）

○参考URL　（学習の参考になるサイト）

○成績評価方法
試験による。
生命科学基礎の評価は、生物学、化学、物理学の総合評価で行う。
前期の定期試験では、生物学と化学（の前半）、後期の定期試験では化学（の後半）と物理学について行う。試験のいずれか1つでも受験を放棄した場合、履修放棄とみなす。

○試験の受験資格
2/3以上出席したもの。

○受講上の注意

○問い合わせ先（担当教員）

（教員名）	（診療科・分野）	（Eメールアドレス）
越野　和樹	教養部　物理学	ikuzak.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
11月14日	木	1	越野和樹	単振動	医学科講義室1
11月21日	木	1	越野和樹	連成振動（1）	医学科講義室1
11月28日	木	1	越野和樹	連成振動（2）	医学科講義室1
12月5日	木	1	越野和樹	減衰振動	医学科講義室1
12月12日	木	1	越野和樹	強制振動	医学科講義室1
12月19日	木	1	越野和樹	波動方程式	医学科講義室1
1月16日	木	1	越野和樹	波の反射と透過	医学科講義室1
1月23日	木	1	越野和樹	定在波	医学科講義室1
1月30日	木	1	越野和樹	電磁波（1）	医学科講義室1
2月6日	木	1	越野和樹	電磁波（2）	医学科講義室1

授業科目名	生命科学基礎(物理B) (英訳) Basic Life Science (Physics B)	授業責任者	千葉　司

○授業回数・試験回数
　授業　10　回　　試験　1　回

○科目を履修して得られる能力
医歯学専門教育の土台となる基礎科学のトピックスについて理解し、説明できる。

○目的・到達目標
1年次の学習だけでは不十分な物理学の分野を補うとともに、振動・波動に関係するトピックを取り上げることにより、専門教育の土台となる科学的な基礎体力を養います。
医歯学の専門に関わる教育の基礎となる科学を総合的に学習することにより、専門教育へ円滑につないでいくことを目的としています。
生命科学の土台となる物理学について、必要に応じて自学自習で理解を深めることができることを到達目標とします。

○学習方法
講義形式による。

○教科書　(授業において学生の所持を前提とする書籍)
基礎物理学シリーズ「波動」川村　清著(東京教学社)1998年

○参考書　(学習の参考になる書籍)

○参考URL　(学習の参考になるサイト)

○成績評価方法
試験による。
生命科学基礎の評価は、生物学、化学、物理学の総合評価で行う。
前期の定期試験では、生物学と化学(の前半)、後期の定期試験では化学(の後半)と物理学について行う。試験のいずれか1つでも受験を放棄した場合、履修放棄とみなす。

○試験の受験資格
2/3以上出席したもの。

○受講上の注意

○問い合わせ先(担当教員)

(教員名)	(診療科・分野)	(Eメールアドレス)
千葉　司	教養部　物理学	chiba.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
11月14日	木	1	千葉 司	波とは	大学院講義室4
11月21日	木	1	千葉 司	調和振動子	大学院講義室4
11月28日	木	1	千葉 司	連成振動	大学院講義室4
12月5日	木	1	千葉 司	1次元弾性波	大学院講義室4
12月12日	木	1	千葉 司	定在波	大学院講義室4
12月19日	木	1	千葉 司	3次元の波動	大学院講義室4
1月16日	木	1	千葉 司	電磁波	大学院講義室4
1月23日	木	1	千葉 司	回折と干渉	大学院講義室4
1月30日	木	1	千葉 司	反射と屈折	大学院講義室4
2月6日	木	1	千葉 司	まとめ	大学院講義室4

主題別教育（医学科・歯学科）について

【目的】

人間とは何か。これまで、偉大な先人達が、「人間」の解明にあらゆる観点からいどみ、説明を試みてきました。それらは、「知」として蓄積され、私たちをさらなる思索へと導いてくれます。

あらゆる学問は、この人間について思索をめぐらせ、理論化しようとするところから始まったといってもよいでしょう。人間とは甚だ不可思議な、得体の知れない存在です。私たちは、このよく分からない人間として、よく分からない人間が構築する世界で、よく分からない人間と一緒に生きていかねばなりません。人間をめぐる思索は、自分自身の姿、あるいは自分たちが生きる世界の構造を明らかにしようとする営みにほかならず、人間として生きていく上での必然的行為であり、人間の宿命であるともいえます。

主題別教育は、この「人間」という存在について、人間を生物的社会的存在たらしめている要素である「文化」「生命」「言語」「制度」「時間」という５つの視点から考えてみようという取り組みです。

ゴールは、3 年次に行う「主題別人文社会科学セミナー」です。このセミナーでは、各主題に分かれて、担当者の指導のもと、自ら問題を設定し、調査・考察・討論を経て、一定の結論を導出します。1 年次および 2 年次には、その準備として、視野を広げ、基礎的な知識や考え方を身につけます。

セミナー修了時には、みなさんは、自分が選択した主題の観点を中心に、「人間」という存在について、自分なりの考えを持つことになるでしょう。もちろん、それは「絶対的な正解」ではありません。しかし、各自が、3 年間かけてたどりついた一つの「結論」です。

そして、この「結論」は、さらなる「新たな問い」を生みだし、「思索」を促し、「新たな結論」へとみなさんを導くでしょう。この、「問い」から「結論」へ、そして「新たな問い」へという、とどまるところを知らない学問のダイナミズムを体験すること、そして、自ら思索する力強さを身につけること、これが主題別教育の目的です。

ここでの取り組みは、将来、「人間」そのものを対象とすることになる医学・歯学系の皆さんを支える、大きな力となるはずです。

【５つの主題】

文化と人間　　生命と人間　　言語と人間　　制度と人間　　時間と人間

各主題の目的は次の通りです。

文化と人間	文化とは、人間が創造し習得する精神的な価値の総体である。また、文化とは象徴的記号の体系である。そのような文化を理解することによって、人間の本質を捉えようとすることが目的である。
生命と人間	人間を含むあらゆる生物には生命が宿っている。医療はその生命と常に向き合わなければならない。その生命の多様な現象と、それに対する人間の様々な認識のありようを理解することが目的である。
言語と人間	人間と動物とを区別する最大の要素は言語の使用にある。人間は言語によって、自らの世界を構築してきた。その言語に関する様々な事象を理解することによって、人間の本質を捉えようとすることが目的である。
制度と人間	社会的生物である人間は、様々な制度に取り巻かれて生きている。その制度を相対的に理解することと、制度の構造を分析することによって、人間のありようを理解することが目的である。
時間と人間	人間は時間的存在であり、時間的拘束のもとに生きている。時間を相対的に理解し、その構造を明らかにすることによって、人間存在の本質を理解することが目的である。

上の５つの主題の中から、１つ選択します。各主題とも、定員は約３０名です。

３年次の「主題別人文社会科学セミナー」は、この主題に分かれて開講されます。各セミナーは、１年次の人文社会科学科目の「主題に関連の深い科目」の担当者が担当する予定です（この１年次人文社会科学の「主題に関連の深い科目」については、次の【各学年の履修について】で説明します)。

どの主題に進むかを決定する時期は、２年進級時です。１年生の２月に「希望調査」を取り、希望を考慮しながら、各主題とも約３０名になるように振り分けます。

１年生の間に、色々な科目を履修しながら、自分がどの主題を選択するかを考えておいて下さい。

【各学年の履修について】

１年生：基盤の形成

必修科目・必修選択科目・自由選択科目などで、さまざまな分野の科目が開講されています。それらに取り組むことにより、それぞれの学問分野における基礎的な知識や、科学的な思考方法を身につけます。

同時に、人間に関する根源的な問いに対して、これまで人間自身がどのようにアプローチし、どのように理論化してきたのかということを学びます。そして、「問いの継続と発展」という学問のありようを理解します。

１年生は、このように３年生のセミナーに向けて基礎体力を養いながら、自分がどの主題に進むかを考える期間です。

特に、人文社会科学科目には、「主題に関連の深い科目」は設けられています（下表）。自分が進むかもしれないと思う主題については、その「主題に関連の深い科目」の中にある科目を、積極的に履修しておくことをお勧めします。

主題に関連の深い科目は次の通りです。各授業の内容については、それぞれのシラバスを参照して下さい。

主題	関連の深い科目
文化と人間	文化人類学Ⅰ、文化人類学Ⅱ、民俗学Ⅱ、社会学ＡⅠ
生命と人間	哲学Ⅰ、哲学Ⅱ、倫理学Ⅰ、倫理学Ⅱ
言語と人間	文学ＡⅠ、文学ＡⅡ、文学ＢⅠ、文学ＢⅡ
時間と人間	歴史学ＢⅠ、歴史学ＢⅡ、社会思想史Ⅰ、社会思想史Ⅱ
制度と人間	政治学Ⅰ、政治学Ⅱ、法学Ⅰ、法学Ⅱ

２・３年生前期：主題別選択科目―視点の拡充―

２・３年生では、前期の木曜日午前中に、「主題別選択科目」が開講されます。

「主題別選択科目」とは、主題について考察できる、様々な学問分野にまたがった複合的な内容の選択科目です。各科目とも、５０分間の授業が７回行われます。２年生と３年生が合同で受講します。具体的には、各主題において、下表のような科目が開講されます。開講科目は、若干の変更の可能性があります。

自分が選択した主題の「主題別選択科目」の中から、２年前期の前半７回、前期の後半７回、３年前期の前半７回、前期の後半７回にそれぞれ１科目ずつ履修します。前半７回と後半７回、合計２科目を履修して、１単位取得となります。

（例）「言語と人間」を選択した学生

→２年前期の前半７回「語り（ナラティヴ）の構造」履修

〃　　後半７回「文化・言語・狂気」履修

（この２科目で１単位取得）

３年前期の前半７回「ドイツとヨーロッパの社会」履修

〃　後半７回「数理理論と形式言語」履修

（この２科目で１単位取得）

主題	*主題別選択科目（25 年度開講予定）*	
	２・３年の前期前半７回（50 分×7 回）	２・３年の前期後半７回（50 分×７回）
文化と人間	いのちと医療の歴史学（田中） 文化・言語・笑い（板橋） スポーツと健康（林） バルト『エッフェル塔』を読む（中島） ドイツとヨーロッパの社会（シンチ） 現代の日中関係（社会と文化）（家永） 社会の中の数学（清田） 物理数学演習　（越野） 社会の中の科学（奈良） 食品の科学（澤野）	文化・言語・狂気（板橋） いのちと医療の倫理学（田中） スポーツと心（林） バルト『表徴の帝国』を読む（中島） ドイツとヨーロッパの現在（シンチ） 現代の日中関係（政治と経済）（家永） タンパク質科学の光と影（奈良） 民主主義を再考する（藤井）
生命と人間	いのちと医療の歴史学（田中） スポーツと健康（林） ゆらぎの科学（千葉） 物理数学演習（越野） 食品の科学（澤野） 生物の中の糖（勝又） 宇宙と生命（服部） 医療の社会学（藤井） ヒトの脳と言語（産賀）	いのちと医療の倫理学（田中） スポーツと心（林） 物理で視た人体と医療機器（千葉） タンパク質科学の光と影（奈良） 植物の科学（澤野） 老化と寿命（服部） 生物リズム（産賀）
言語と人間	語り（ナラティヴ）の構造（土佐） 文化・言語・笑い（板橋） バルト『エッフェル塔』を読む（中島） ドイツとヨーロッパの社会（シンチ） ヒトの脳と言語（産賀）	語り（ナラティヴ）と時間（土佐） 文化・言語・狂気（板橋） バルト『表徴の帝国』を読む（中島） ドイツとヨーロッパの現在（シンチ） 数理理論と形式言語（清田） 微分方程式演習（越野）
制度と人間	いのちと医療の歴史学（田中） バルト『エッフェル塔』を読む（中島） ドイツとヨーロッパの社会（シンチ） 現代の日中関係（社会と文化）（家永） 社会の中の数学（清田） 社会の中の科学（奈良） 医療の社会学（藤井）	バルト『表徴の帝国』を読む（中島） ドイツとヨーロッパの現在（シンチ） 現代の日中関係（政治と経済）（家永） 数理理論と形式言語（清田） 微分方程式演習（越野） 危険物の科学（勝又） 民主主義を再考する（藤井）
時間と人間	語り（ナラティヴ）の構造（土佐） ドイツとヨーロッパの社会（シンチ） 現代の日中関係（社会と文化）（家永） ゆらぎの科学（千葉） 食品の科学（澤野） 宇宙と生命（服部） 医療の社会学（藤井）	語り（ナラティヴ）と時間（土佐） いのちと医療の倫理学（田中） ドイツとヨーロッパの現在（シンチ） 現代の日中関係（政治と経済）（家永） 数理理論と形式言語（清田） 物理で視た人体と医療機器（千葉） 微分方程式演習（越野） 植物の科学（澤野） 老化と寿命（服部） 民主主義を再考する（藤井） 生物リズム（産賀）

また、３年次に行われる主題別人文社会科学セミナーの担当者から、２年生の間にやっておくべき課題が提示される場合があります。２年生は、「主題別選択科目」を受講し、同時にその課題に取り組みながら、主題に関する視点の拡充をめざします。

３年生：主題別人文社会科学セミナー―思考の深化―

３年生では、主題ごとに、セミナーを受講します。

各主題の学生３０人を、１０人ずつのグループＡ・Ｂ・Ｃに分けます。セミナーは、このグループごとに、７回ずつ行われます。セミナーを担当する教員は、１年次人文社会科学の「主題に関連の深い科目」担当教員の予定です。

セミナーと平行して、「医療と法」および「医療と社会」という二つの講義科目が７回ずつ開講されます。グループごとに「セミナー」「医療と法」「医療と社会」を７回ずつ受講します。そして、学年の最後に開講される「総括セミナー」において、主題に関する自らの取り組みをレポートにまとめます。「総括セミナー」は、主題ごとに３０人全員が参加し、討論を経てレポート執筆に取り組みます。

グループ（各１０人）	前期		後期	
	前半７回	後半７回	前半７回	後半７回
グループＡ	セミナー	医療と社会	医療と法	総括セミナー（レポート執筆）
グループＢ	医療と法	セミナー	医療と社会	
グループＣ	医療と社会	医療と法	セミナー	

１年生において基礎力を身に付け、自ら問いを見出す意識を養い、２年生「主題別選択科目」において視野を広げてきました。３年生「主題別人文社会科学セミナー」では、それらを前提にして、問題を設定し結論の導出を目指します。

問題設定は、自らの興味や関心にもとづいて、担当教員のアドバイスを受けながら、学生それぞれが設定します。その問題について、調査や考察を行い、またその結果を他の受講生と共有して、問題点を指摘しあいながら結論を導き出すのが「セミナー」です。そして、これらを集大成するのが、「総括セミナー（レポート執筆）」です。

「総括セミナー（レポート執筆）」、ここがこの主題別教育のゴール地点となります。

「総括セミナー（レポート執筆）」までの予定

4 月 18 日（木）：各主題でオリエンテーション。
担当者より、セミナー計画・日程・ミニ論文の問題設定の仕方などについて説明。

4 月 25 日（木）～11 月 21 日（木）：セミナーと講義

12 月 5 日（木）～平成 26 年 2 月 6 日（木）：総括セミナー

2 月 21 日（金）：提出締切（予定）

【今後の予定】

2年生　4月～9月　「主題別選択Ⅰ」受講

3月　「主題別人文社会科学セミナー」履修の説明

3年生　4月～9月　「主題別選択Ⅱ」受講

4月～3月　「主題別人文社会科学セミナー」受講

【成績・評価について】

主題別選択Ⅰ・Ⅱ　前半と後半をあわせてそれぞれ1単位。

原則としてレポート（80点）、出席（20点）で評価。

ただし、レポートの代替として、授業の最終日に試験を実施することがある。

主題別人文社会科学セミナーと講義　あわせて2単位

原則として講義における試験と総括セミナーにおけるレポート（80点）、出席（20点）で評価。

主題別選択Ⅰ・Ⅱ

授業科目名	語り(ナラティヴ)の構造 (英訳) Narrative	授業責任者	土佐　朋子

○授業回数・試験回数
　授業　7　回　　試験　0　回

○科目を履修して得られる能力
（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ:教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
　人間は、自らを存在させるために「語り」を必要とする生き物である。
　本授業の目的は、人間の「語り」の構造について、基本的な考え方を学び、理解を深めることである。到達目標は、3年次のセミナーにおいて、自らの主題にもとづいて問題設定をし解決していくために必要な思考力が、「語り」という観点から養われることである。

○学習方法
講義形式による。

○教科書　（授業において学生の所持を前提とする書籍）
ロラン・バルト『物語の構造分析』(花輪光訳、みすず書房、1979)、
大森荘蔵『時間と自我』(青土社1992)など。
授業中に紹介します。

○参考書　（学習の参考になる書籍）
特に指定しない。授業で配布するプリントを使用する。

○参考URL　（学習の参考になるサイト）

○成績評価方法
レポートと平常点による。

○試験の受験資格
2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

○受講上の注意
下の「講義内容」は予定であるので、受講者の興味や関心、授業の雰囲気などによって、若干変更される可能性もある。

○問い合わせ先(担当教員)

(教員名)	(診療科・分野)	(Eメールアドレス)
土佐　朋子	教養部　文学	tosa.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
4月18日	木	2	土佐朋子	ガイダンス	共用セミナー1
4月25日	木	2	土佐朋子	「語り」に必要な要素「X」	共用セミナー1
5月2日	木	2	土佐朋子	「語り手」と「作者」の不思議な関係	共用セミナー1
5月9日	木	2	土佐朋子	「語り手」の「嘘」	共用セミナー1
5月16日	木	2	土佐朋子	「私」の「嘘」—『舞姫』の語り①—	共用セミナー1
5月23日	木	2	土佐朋子	「私」の「嘘」—『舞姫』の語り②—	共用セミナー1
5月30日	木	2	土佐朋子	「語り」を創り上げるもの	共用セミナー1
6月6日	木	2	土佐朋子	(予備日)	共用セミナー1

授業科目名	いのちと医療の歴史学 (英訳) A Review of Modern History of Medicine	授業責任者	田中 智彦

○授業回数・試験回数
授業 7 回　試験 0 回

○科目を履修して得られる能力
（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ:教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
私たちの「ものの見方」は、私たちが思っている以上に、私たちの言語・文化・歴史に影響され、制約されています。「いのち」や「医学・医療」についても例外ではありません。それどころか、この二つのうちにこそ私たち現代人の「ものの見方」が典型的に映し出されている、と言っても過言ではないほどです。しかし他方で、そうした「ものの見方」はふだん「当たり前」のこととして通用しているので、そこからは何がどのように見えているのか、そしてまた見えていないのかは、なかなか問われることがありません。
あらためてそのような問いを立て、それを歴史の観点から考察してゆくのがこの授業です。他の人びとは別にしても、「医学・医療」を志し、「いのち」に関わることを一生の仕事にしようとするのなら、せめて一度なりともそのような問いに取り組んでみる必要があるでしょう。この授業ではそうした機会を提供するべく、下記の講義内容に示した論点について検討してゆきます。

○学習方法
講義形式による。

○教科書 （授業において学生の所持を前提とする書籍）
教科書はありません。

○参考書 （学習の参考になる書籍）
・小俣和一郎『精神医学とナチズム』講談社
・小松美彦・市野川容孝・田中智彦編『いのちの選択』岩波書店
・香川知晶編『メタバイオエシックス』NTT出版
・南日本放送ハンセン病取材班『ハンセン病問題は終わっていない』岩波書店
・M. フーコー『性の歴史Ⅰ』新潮社

○参考URL （学習の参考になるサイト）

○成績評価方法
レポートと平常点による。

○試験の受験資格
5/7以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

○受講上の注意

○問い合わせ先（担当教員）

（教員名）	（診療科・分野）	（Eメールアドレス）
田中　智彦	教養部　哲学	tanaka.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
4月18日	木	2	田中智彦	医学・国家・市場①	共用セミナー2
4月25日	木	2	田中智彦	生権力と生政治	共用セミナー2
5月2日	木	2	田中智彦	「生きるに値しない生命の抹殺」と医療者	共用セミナー2
5月9日	木	2	田中智彦	日本の医学・医療史	共用セミナー2
5月16日	木	2	田中智彦	脳死・与死・尊厳死	共用セミナー2
5月23日	木	2	田中智彦	医学・国家・市場②	共用セミナー2
5月30日	木	2	田中智彦	まとめ	共用セミナー2
6月6日	木	2	田中智彦	(予備日)	共用セミナー2

授業科目名	文化・言語・笑い (英訳) culture, language, laugh	授業責任者	板橋 作美

○授業回数・試験回数
授業 7 回 試験 0 回

○科目を履修して得られる能力
自己の相対化
(教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ:教養部の理念を参照のこと。)

○目的・到達目標
「人間」とは、動物としてのホモ・サピエンスに、文化がくわわった存在です。その文化を考えることによって、人間というものの理解を深めるのがこの授業の目的です。前半は、笑い、言葉遊びに焦点を当てます。

○学習方法
講義形式による。

○教科書 (授業において学生の所持を前提とする書籍)
なし

○参考書 (学習の参考になる書籍)
授業中に紹介する。

○参考URL (学習の参考になるサイト)
なし

○成績評価方法
試験と平常点による。

○試験の受験資格
2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

○受講上の注意

○問い合わせ先(担当教員)

(教員名)	(診療科・分野)	(Eメールアドレス)
板橋 作美	教養部 社会学	itabashi.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
4月18日	木	2	板橋作美	文化とは	大学院講義室3
4月25日	木	2	板橋作美	言語とは	大学院講義室3
5月2日	木	2	板橋作美	比喩	大学院講義室3
5月9日	木	2	板橋作美	落語	大学院講義室3
5月16日	木	2	板橋作美	駄洒落	大学院講義室3
5月23日	木	2	板橋作美	言葉遊び	大学院講義室3
5月30日	木	2	板橋作美	まとめと試験	大学院講義室3
6月6日	木	2	板橋作美	(予備日)	大学院講義室3

授業科目名	スポーツと健康 (英訳) Sports and Health	授業責任者	林　久仁則

○授業回数・試験回数
　授業　7　回　　試験　0　回

○科目を履修して得られる能力
（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ：教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
　社会の中で影響力を持っているスポーツ。スポーツが存在する意義や価値を今後の社会という将来に向けて考えていくと同時に、過去の成り立ち・発生に関して歴史的な教養も身につけていきます。また、スポーツには身体運動が必ず付随します。我々の日常に欠かすことの出来ない運動という側面から、健康であることはどういうことか。運動が健康に与える影響や人体の機能の極限の世界を学んでいきます。最終的に興味のあるトピックに関して自分たちでまとめたものをプレゼンテーション形式で発表し、相互に評価し合い意見を有することを到達目標としています。

○学習方法
　講義形式による。（参加人数によっては、最終的なプレゼンテーションの実施を個人で行うのか、グループで行うのか等、柔軟に対応する。）

○教科書　（授業において学生の所持を前提とする書籍）

○参考書　（学習の参考になる書籍）
・「Which Comes First, Cardio or Weights?」 Alex Hutchinson著　2011年 William Morrow Paperbacks
・「トップアスリートの動きは何が違うのか」 山田憲政著 2011年 化学同人
・「脳の中の身体地図」 サンドラブレイクスリー著 2009年 インターシフト
・「脳活体育」 2011年 スキージャーナル株式会社
・「からだの自由と不自由」 長崎浩著1997年 中公新書

○参考URL　（学習の参考になるサイト）

○成績評価方法
レポートと平常点による。

○試験の受験資格
2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

○受講上の注意

○問い合わせ先（担当教員）

（教員名）	（診療科・分野）	（Eメールアドレス）
林　久仁則	教養部　保健体育	khayashi.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
4月18日	木	2	林久仁則	ガイダンス，プレゼン発表の導入，スポーツの歴史	共用セミナー4
4月25日	木	2	林久仁則	オリンピックや政治に見るスポーツの影響力	共用セミナー4
5月2日	木	2	林久仁則	効果の出る運動トレーニングとは？(1)	共用セミナー4
5月9日	木	2	林久仁則	効果の出る運動トレーニングとは？(2)	共用セミナー4
5月16日	木	2	林久仁則	トップアスリートの動きは何が違うのか	共用セミナー4
5月23日	木	2	林久仁則	スポーツに課せられた社会の位置づけと未来	共用セミナー4
5月30日	木	2	林久仁則	プレゼンテーション，相互評価	共用セミナー4
6月6日	木	2	林久仁則	(予備日)	共用セミナー4

授業科目名	バルト『エッフェル塔』を読む （英訳） Reading Roland Barthes, *La Tour Eiffe*l	授業責任者	中島 ひかる

○授業回数・試験回数
授業 7 回　試験 0 回

○科目を履修して得られる能力
（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ：教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
フランスの批評家、ロラン・バルトの『エッフェル塔』を講読します。日本でも、2012年にスカイツリーが完成し、これを機に、東京タワーも含めて、人々がこうした建築物に抱く思いが様々なメディアで特集されました。こうした建築物は時代を象徴し、人々の思いが集約される場となっています。エッフェル塔は今では代表的なパリの観光名所ですが、19世紀に建築された当時は醜い鉄の塔としてさんざんな悪評を蒙りました。バルトはこのエッフェル塔という「記号」が持つ意味を、パリの都市構造とも関連づけながら重層的に分析していきます。授業では、バルト独自の表現やものの見方を味わい、具体例を通して、バルトの分析手法や考え方の特徴を理解することを目的とします

○学習方法
セミナー形式による。（最初に概要を説明した後、担当者を決めて、1回に文庫本にして約20ページを読んでいきます。毎回、担当者に内容を要約していただいた後、それについて皆で意見交換する予定です）

○教科書 （授業において学生の所持を前提とする書籍）
ロラン・バルト『エッフェル塔 』 ちくま学芸文庫

○参考書 （学習の参考になる書籍）
ロラン・バルト 『ロラン・バルト著作集』 全10巻 みすず書房

○参考URL （学習の参考になるサイト）

○成績評価方法
平常点60%、レポート40%（受講者が少なく、各回の担当箇所の要約や議論が積極的に行われた場合は、平常点のみで評価することもあります）

○試験の受験資格
2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

○受講上の注意
教科書を必ず持参すること。

○問い合わせ先（担当教員）

（教員名）	（診療科・分野）	（Eメールアドレス）
中島 ひかる	教養部 仏語	nakashima.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
4月18日	木	2	中島ひかる	序論（概要の説明）	共用セミナー5
4月25日	木	2	中島ひかる	テクスト輪読 （視線）	共用セミナー5
5月2日	木	2	中島ひかる	テクスト輪読（小世界）	共用セミナー5
5月9日	木	2	中島ひかる	テクスト輪読（鉄の意味）	共用セミナー5
5月16日	木	2	中島ひかる	テクスト輪読（社会的表徴）	共用セミナー5
5月23日	木	2	中島ひかる	テクスト輪読（象徴性）	共用セミナー5
5月30日	木	2	中島ひかる	まとめと意見交換	共用セミナー5
6月6日	木	2	中島ひかる	（予備日）	共用セミナー5

授業科目名	ドイツとヨーロッパの社会 (英訳) Society in Germany and EU	授業責任者	シンチンガー　エミ

○授業回数・試験回数
　授業　6　回　　試験　1　回

○科目を履修して得られる能力
（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ:教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
ドイツ語で書かれた教科書を読みながら、ドイツとヨーロッパの社会について学んでいきます。**原文を読む授業ですので、ドイツ語の4単位を持っていない方は受講できません！**ドイツ政府やEUのホームページも見ていきます。時間があればDVDも見ます。「ドイツ再統一」に至った経緯について学ぶことも目標です。

○学習方法
原書講読＋ゼミナー形式による。

○教科書　（授業において学生の所持を前提とする書籍）
「ドイツとドイツ語を話す国ぐに」朝日出版社

○参考書　（学習の参考になる書籍）
独和辞典は毎回持ってくること！電子辞書があれば一番良いが、今持っている辞書でかまわない。

○参考URL　（学習の参考になるサイト）

○成績評価方法
試験と平常点による。

○試験の受験資格
2/3以上出席したものに、受験資格を与える。

○受講上の注意
原文を読む授業なので、ドイツ語の単位を持っていないものは受講できない！
毎回予習をしてきてもらって原文を読んでいくので、予習をすることが受講の条件です。

○問い合わせ先(担当教員)

(教員名)	(診療科・分野)	(Eメールアドレス)
シンチンガー　エミ	教養部　ドイツ語	schinzinger.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
4月18日	木	2	シンチンガー	オリエンテーション後、第1課	演習室3-11・12
4月25日	木	2	シンチンガー	第2課	演習室3-11・12
5月2日	木	2	シンチンガー	第3課	演習室3-11・12
5月9日	木	2	シンチンガー	第4課を読みながら、DVD、インターネットも	演習室3-11・12
5月16日	木	2	シンチンガー	使用して「ドイツ再統一」に至った経緯について	演習室3-11・12
5月23日	木	2	シンチンガー	考えながら学んでいく。	演習室3-11・12
5月30日	木	2	シンチンガー	理解度を確かめるための筆記試験	演習室3-11・12
6月6日	木	2	シンチンガー	(予備日)	演習室3-11・12

授業科目名	現代の日中関係（社会と文化） (英訳) Japan-China Relations: society and culture	授業責任者	家永　真幸

○授業回数・試験回数
　授業　7　回　　試験　0　回

○科目を履修して得られる能力
（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ：教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
　2012年は日中国交正常化40周年を記念して各所で様々なイベントが行われ、学術界においてもこの40年間の日中関係を回顧し今後の展望を占うような議論が活発に行われました。そこでこの科目では、2012年に出版された『日中関係史1972-2012』全3巻を参考に、これまでの日中関係がどのような歩みを辿ってきたのか最新の研究に触れながら理解しつつ、参加者のみなさんが今後の日中関係について考えるきっかけにしてもらいたいと考えます。

○学習方法
　毎回論文1本を指定し、担当者に10分間でその内容を紹介してもらいます。その後、参加者全員と質疑応答をしながら、教員が解説を行います。受講者数によっては変更の可能性あり。下記の「時間割」に示した各回の内容も仮決定で、詳細は初回ガイダンス時に相談します。

○教科書　（授業において学生の所持を前提とする書籍）

○参考書　（学習の参考になる書籍）
園田茂人編『日中関係史1972-2012：社会・文化』東京大学出版会、2012年。

○参考URL　（学習の参考になるサイト）

○成績評価方法
レポートと平常点による。

○試験の受験資格
2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

○受講上の注意

○問い合わせ先（担当教員）

（教員名）	（診療科・分野）	（Eメールアドレス）
家永　真幸	教養部　中国語	ienaga.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
4月18日	木	2	家永真幸	ガイダンス、報告担当者決め	共用セミナー7
4月25日	木	2	家永真幸	日中歴史認識問題	共用セミナー7
5月2日	木	2	家永真幸	大衆文化	共用セミナー7
5月9日	木	2	家永真幸	世代的要因	共用セミナー7
5月16日	木	2	家永真幸	留学生交流	共用セミナー7
5月23日	木	2	家永真幸	スポーツ	共用セミナー7
5月30日	木	2	家永真幸	華僑	共用セミナー7
6月6日	木	2	家永真幸	（予備日）	共用セミナー7

授業科目名	社会の中の数学 (英訳) Mathematics in society	授業責任者	清田　正夫

○授業回数・試験回数
　授業　7　回　　試験　0　回

○科目を履修して得られる能力
（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ：教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
数学と日々の生活は無縁のものと考える人は多いが、身の回りにある道具や装置に数学の理論が応用されている例は無数にある。ここでは、CDの信頼性を保証する誤り訂正符号、機密事項の伝達に用いられる鍵公開暗号、CTスキャンの基本原理であるラドン変換を取り上げ、それらの数学的基礎を解説する。主として講義形式で行なうが、項目によっては学生に発表させることもある。

○学習方法
講義形式による。

○教科書 （授業において学生の所持を前提とする書籍）
指定しない。

○参考書 （学習の参考になる書籍）

○参考URL （学習の参考になるサイト）

○成績評価方法
レポートと平常点による。

○試験の受験資格
2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

○受講上の注意

○問い合わせ先（担当教員）

（教員名）	（診療科・分野）	（Eメールアドレス）
清田　正夫	教養部　数学	kiyota.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
4月18日	木	2	清田正夫	誤り訂正符号入門	大学院講義室4
4月25日	木	2	清田正夫	ハミング符号	大学院講義室4
5月2日	木	2	清田正夫	鍵公開暗号入門	大学院講義室4
5月9日	木	2	清田正夫	RSA暗号	大学院講義室4
5月16日	木	2	清田正夫	フーリエ級数入門	大学院講義室4
5月23日	木	2	清田正夫	フーリエ変換	大学院講義室4
5月30日	木	2	清田正夫	CTスキャンとラドン変換	大学院講義室4
6月6日	木	2	清田正夫	(予備日)	大学院講義室4

授業科目名	ゆらぎの科学 (英訳) Science of fluctuation	授業責任者	千葉 司

○授業回数・試験回数
授業 7 回 試験 0 回

○科目を履修して得られる能力
（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ:教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
1年生の時に学んだ力学や電磁気学が、医歯学の専門に直接に関わることは少ないかも知れない。ここでは、物理学と生物学の接点について、いくつかの例をゼミ形式で学ぶことにより、生命現象を物理学の側面から理解する方法を習得する。

○学習方法
ゼミ形式による。
毎回2人ずつ、教科書を10～15ページくらい分担を決めて発表をしてもらう。
関連する論文を読んでもらうこともある。

○教科書 （授業において学生の所持を前提とする書籍）
「よくわかる生物基礎物理学」最上善広 著（サイエンス社）

○参考書 （学習の参考になる書籍）
「ゾウの時間ネズミの時間」本川達雄 著（中公新書）

○参考URL （学習の参考になるサイト）

○成績評価方法
レポート(発表時のレジュメ)と平常点（発表と議論への参加）による。

○試験の受験資格
2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

○受講上の注意
受け身ではなく、自ら授業に積極的に参加する意欲を持つ学生の受講を望む。

○問い合わせ先（担当教員）

（教員名）	（診療科・分野）	（Eメールアドレス）
千葉 司	教養部 物理学	chiba.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
4月18日	木	2	千葉司	授業の進め方の説明と分担決め	演習室5－1．2
4月25日	木	2	千葉司	発表1 水中での物体の動き	演習室5－1．2
5月2日	木	2	千葉司	発表2 生物のボディープラン	演習室5－1．2
5月9日	木	2	千葉司	発表3 物質の移動	演習室5－1．2
5月16日	木	2	千葉司	発表4 電気現象と生体での電気活動	演習室5－1．2
5月23日	木	2	千葉司	発表5 光学の基礎と顕微鏡	演習室5－1．2
5月30日	木	2	千葉司	まとめ	演習室5－1．2
6月6日	木	2	千葉司	(予備日)	演習室5－1．2

授業科目名	物理数学演習 (英訳) Mathematics in Physics	授業責任者	越野　和樹

○授業回数・試験回数
　授業　7　回　　試験　0　回

○科目を履修して得られる能力
（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ：教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
私たちはみな、毎日の暮らしの中で物理法則に従って生きています。例えば、自動車の停止距離はスピードの2乗に比例しますが、このことは物理理論によって明快に説明することができます。物理法則は数学（特に微分方程式）を用いて記述されています。本講義では、微分方程式を中心とする物理数学を演習形式で学習します。

○学習方法
講義・演習の併用による。

○教科書　（授業において学生の所持を前提とする書籍）
指定しない。

○参考書　（学習の参考になる書籍）
「詳解物理応用数学演習」 後藤憲一ほか　共立出版

○参考URL　（学習の参考になるサイト）

○成績評価方法
レポートと平常点による。

○試験の受験資格
2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

○受講上の注意

○問い合わせ先（担当教員）

（教員名）	（診療科・分野）	（Eメールアドレス）
越野　和樹	教養部　物理学	ikuzak.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
4月18日	木	2	越野和樹	常微分方程式（1階常微分方程式）	共用セミナー9
4月25日	木	2	越野和樹	常微分方程式（1階常微分方程式）	共用セミナー9
5月2日	木	2	越野和樹	常微分方程式（高階常微分方程式）	共用セミナー9
5月9日	木	2	越野和樹	常微分方程式（高階常微分方程式）	共用セミナー9
5月16日	木	2	越野和樹	常微分方程式（連立微分方程式）	共用セミナー9
5月23日	木	2	越野和樹	常微分方程式（連立微分方程式）	共用セミナー9
5月30日	木	2	越野和樹	常微分方程式（連立微分方程式）	共用セミナー9
6月6日	木	2	越野和樹	（予備日）	共用セミナー9

授業科目名	社会の中の科学 (英訳) Science in Society	授業責任者	奈良　雅之

○授業回数・試験回数
　授業　7　回　　試験　0　回

○科目を履修して得られる能力
（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ:教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
社会の中で話題になっている科学物質、科学現象を取り上げます。科学的な側面から基礎事項を確認するとともに、社会問題としても考えていきます。今回は、「水と酸素と二酸化炭素」という誰でもよく知っている物質に焦点を当てます。二酸化炭素がどうして温室効果ガスと言われるか、真面目に考えたことはありますか。燃焼の熱化学方程式などの一般化学の知識はもちろんのこと、分子構造論や量子化学が理解できていないとその訳を説明することができません。医歯学の専門の授業では教えてもらわないが、教養として身につけておきたい自然界のしくみについて理解を深めます。

○学習方法
講義形式による。（履修者が10名以下の場合は、履修者の希望に応じてセミナー形式で行うこともできます。）

○教科書 （授業において学生の所持を前提とする書籍）
指定しない。

○参考書 （学習の参考になる書籍）
・「疑似科学入門」 池内　了著　岩波新書
・「メディアバイアス」 松永和紀著　光文社新書
・「日本人はなぜ環境問題にだまされるのか」 武田邦彦著　PHP新書
・「活性酸素」 日本化学会監修　丸善　　・「水とは何か」 上平　恒著　講談社
・「水は何にも知らないよ」 左巻　健男著　携書　　・「量子化学」 真船文隆　化学同人

○参考URL （学習の参考になるサイト）

○成績評価方法
レポートと平常点による。

○試験の受験資格
2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

○受講上の注意

○問い合わせ先（担当教員）

（教員名）	（診療科・分野）	（Eメールアドレス）
奈良　雅之	教養部　化学	nara.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
4月18日	木	2	奈良雅之	ガイダンス、ニセ科学（疑似科学）	演習室5－3．4
4月25日	木	2	奈良雅之	ニセ化学(疑似化学)（2）	演習室5－3．4
5月2日	木	2	奈良雅之	二酸化炭素：温室効果ガス	演習室5－3．4
5月9日	木	2	奈良雅之	活性酸素（1）	演習室5－3．4
5月16日	木	2	奈良雅之	活性酸素（2）	演習室5－3．4
5月23日	木	2	奈良雅之	水の機能（1）	演習室5－3．4
5月30日	木	2	奈良雅之	水の機能（2）	演習室5－3．4
6月6日	木	2	奈良雅之	(予備日)	演習室5－3．4

授業科目名	食品の科学 (英訳) Food Science	授業責任者	澤野　頼子

○授業回数・試験回数
　授業　7　回　　試験　0　回

○科目を履修して得られる能力
（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ：教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
食品は私たちの健康や生命を維持するために欠かすことのできない大切なものである。人間にとって食品とは、身体の形成やエネルギー供給源として働く「栄養素」を与えるだけのものではない。「おいしさ」や「安全性」を兼ね備え、健康の維持や疾病の予防に有効な「機能性（生体調節機能）」をもたらすものでもある。そして、「食生活」、「食文化」という言葉が表すように、食は人類の進化の歴史の中で、生活環境や文化と密接に関連し、変遷を遂げてきた。本授業では、食の歴史的背景、食品の物性や食品成分の化学的性質から「おいしさ」や「機能性」についての理解を深めることを目的とし、講義形式で解説する。

○学習方法
講義形式による。

○教科書 （授業において学生の所持を前提とする書籍）
指定しない。

○参考書 （学習の参考になる書籍）
「食品の科学」 上野川修一・田之倉優 編　東京化学同人
「改訂版 健康と食生活」 吉田勉 編著　学文社
「わかりやすい食品化学」 吉田勉 監修　三共出版
「新訂 食品の機能化学」 宮澤陽夫・五十嵐脩 著　アイ・ケイコーポレーション
「食品学 −食品成分と機能性−（第2版 補訂）」 久保田紀久枝・森光康次郎 編著　東京化学同人

○参考URL （学習の参考になるサイト）

○成績評価方法
レポートと平常点による。

○試験の受験資格
2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

○受講上の注意

○問い合わせ先（担当教員）

（教員名）	（診療科・分野）	（Eメールアドレス）
澤野　頼子	教養部　化学	sawano.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
4月18日	木	2	澤野頼子	序論　食の歴史的背景（1）	医学科講義室2
4月25日	木	2	澤野頼子	食の歴史的背景（2）	医学科講義室2
5月2日	木	2	澤野頼子	食品の「おいしさ」を決める要因	医学科講義室2
5月9日	木	2	澤野頼子	食品成分の化学的性質（1）	医学科講義室2
5月16日	木	2	澤野頼子	食品成分の化学的性質（2）	医学科講義室2
5月23日	木	2	澤野頼子	食品の機能性（1）	医学科講義室2
5月30日	木	2	澤野頼子	食品の機能性（2）	医学科講義室2
6月6日	木	2	澤野頼子	（予備日）	医学科講義室2

授業科目名	生物の中の糖 (英訳) sugar in an organism	授業責任者	勝又　敏行

○授業回数・試験回数
　授業　7　回　　試験　0　回

○科目を履修して得られる能力
（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ:教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
糖は生物の中で構造体、エネルギー源をはじめとして、タンパク質、核酸、脂質などと結合して重要な機能を担っている物質である。糖の化学的性質および生体内での機能を、疾病との関連等最新の知見を交えながら講義形式で紹介していく。

○学習方法
講義形式による。

○教科書　（授業において学生の所持を前提とする書籍）
指定しない。

○参考書　（学習の参考になる書籍）
糖鎖　永井克孝ほか　東京化学同人
糖鎖生物学　コールドスプリングハーバー　丸善

○参考URL　（学習の参考になるサイト）

○成績評価方法
レポートと平常点による。

○試験の受験資格
2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

○受講上の注意

○問い合わせ先（担当教員）

（教員名）	（診療科・分野）	（Eメールアドレス）
勝又　敏行	教養部　化学	katsumata.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
4月18日	木	2	勝又敏行	糖とは何か	共用セミナー10
4月25日	木	2	勝又敏行	糖の種類、および構造、性質	共用セミナー10
5月2日	木	2	勝又敏行	糖の分析法	共用セミナー10
5月9日	木	2	勝又敏行	植物における糖	共用セミナー10
5月16日	木	2	勝又敏行	人の中の糖1	共用セミナー10
5月23日	木	2	勝又敏行	人の中の糖2	共用セミナー10
5月30日	木	2	勝又敏行	糖と疾病	共用セミナー10
6月6日	木	2	勝又敏行	(予備日)	共用セミナー10

授業科目名	宇宙と生命 (英訳) Astrobiology	授業責任者	服部　淳彦

○授業回数・試験回数
　授業　7　回　　試験　0　回

○科目を履修して得られる能力
（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ：教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
古川さんや野口さんをはじめとする日本人が次々と宇宙に飛び立つ光景を見て、宇宙がますます身近な存在として感じられた学生さんも多いのではないだろうか。この授業では、宇宙環境、例えば「無（微小）重量状態」や「宇宙放射線」などが、さまざまな生物（ヒトも含めて）に与える影響について簡単に解説した後、セミナー形式で各自に発表してもらう。なお、発表内容に関しては、適宜アドバイスを行う。

○学習方法
セミナー形式による（各自に発表してもらう）。したがって、募集人数は15名をMAXとする。

○教科書　（授業において学生の所持を前提とする書籍）
指定しない。

○参考書　（学習の参考になる書籍）
参考書などは適宜指示する。

○参考URL　（学習の参考になるサイト）

○成績評価方法
平常点（参加度）と発表点による。病気以外では、全出席を前提とする。

○試験の受験資格

○受講上の注意

○問い合わせ先（担当教員）

（教員名）	（診療科・分野）	（Eメールアドレス）
服部　淳彦	教養部　生物学	ahattori.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
4月18日	木	2	服部淳彦	宇宙環境と生物（概論）	共用セミナー11
4月25日	木	2	服部淳彦	無（微小）重力と生物（1）	共用セミナー11
5月2日	木	2	服部淳彦	無（微小）重力と生物（2）	共用セミナー11
5月9日	木	2	服部淳彦	宇宙放射線と生物（1）	共用セミナー11
5月16日	木	2	服部淳彦	宇宙放射線と生物（2）	共用セミナー11
5月23日	木	2	服部淳彦	宇宙医学（1）	共用セミナー11
5月30日	木	2	服部淳彦	宇宙医学（2）	共用セミナー11
6月6日	木	2	服部淳彦	（予備日）	共用セミナー11

授業科目名	医療の社会学 (英訳) Society and Medicine	授業責任者	藤井　達夫

○授業回数・試験回数
　授業　7　回　　試験　0　回

○科目を履修して得られる能力
（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ：教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
この授業では、医療テクノロジーの発展の中で、医療が理想とした社会像や医療が実際に可能にした社会の仕組みを取り上げ、批判的に検討します。その上で、医療との関係において、現在の社会がどこに向かおうとしているのかを考えます。具体的には、18世紀から19世紀にかけての近代社会の形成と医療の発展との深い関係や、医療の理想が20世紀の福祉国家とそれを支える社会保障制度の成立に与えた影響、そして、現代の医療が目指す社会像などを論じます。社会のあり方やその仕組みに位置付けて医療を考える視座を獲得すること、これがこの授業の目的です。

○学習方法
講義形式で行います。ただし、履修者が少ない場合は、セミナー形式で行う場合もあります。

○教科書　（授業において学生の所持を前提とする書籍）
特になし。

○参考書　（学習の参考になる書籍）
授業内で随時、紹介しますが、以下のテキストを読んでおくことが望ましい。
ハクスレー『素晴らしい新世界』(講談社文庫、1974年)
カズオ・イシグロ『わたしを離さないで』(ハヤカワepi文庫、2008年)

○参考URL　（学習の参考になるサイト）
特になし。

○成績評価方法
レポートと平常点による。

○試験の受験資格
2/3以上の出席をレポート提出の資格とします。

○受講上の注意
講義内容は、多少変更される場合があります。

○問い合わせ先（担当教員）

（教員名）	（診療科・分野）	（Eメールアドレス）
藤井　達夫	教養部　哲学	

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
4月18日	木	2	藤井達夫	はじめに―社会の中の医療、医療が描く社	共用セミナー12
4月25日	木	2	藤井達夫	近代国家の形成と健康の定義	共用セミナー12
5月2日	木	2	藤井達夫	優良健康者からなる社会	共用セミナー12
5月9日	木	2	藤井達夫	ホメオスタシスと福祉国家	共用セミナー12
5月16日	木	2	藤井達夫	病院化社会	共用セミナー12
5月23日	木	2	藤井達夫	個人化された社会における遺伝子と脳	共用セミナー12
5月30日	木	2	藤井達夫	まとめ―自由な社会とその医療が行き着く先	共用セミナー12
6月6日	木	2	藤井達夫	(予備日)	共用セミナー12

授業科目名	ヒトの脳と言語 (英訳) Human Brain and Language	授業責任者	産賀　崇由

○授業回数・試験回数
　授業 7 回　 試験 0 回

○科目を履修して得られる能力
（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ:教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
ヒトが他の動物と異なる大きな特徴は言語によりコミュニケーションを行うことである。この授業では、言語を操ることを可能にするヒトの脳の構造を概観し、ヒトの脳が如何にして環境の情報を得、身体の運動を制御するのかを知り、言語や感情によるコミュニケーションを行うことが何故可能なのかについて理解することを目的とする。また、基本的な知識を活用して論理的に考え、その考えを説明する技術を習得することを目標とする。講義形式で行う他、学生にも発表する機会を設ける。

○学習方法
講義形式による。

○教科書 （授業において学生の所持を前提とする書籍）
指定しない。

○参考書 （学習の参考になる書籍）
「脳の人間科学」 山内兄人 著 コロナ社

○参考URL （学習の参考になるサイト）

○成績評価方法
レポートと平常点による。

○試験の受験資格
2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

○受講上の注意

○問い合わせ先(担当教員)

(教員名)	(診療科・分野)	(Eメールアドレス)
産賀　崇由	教養部　生物学	ubuklas@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
4月18日	木	2	産賀崇由	ヒトの脳の構造(1)	医学科講義室1
4月25日	木	2	産賀崇由	ヒトの脳の構造(2)	医学科講義室1
5月2日	木	2	産賀崇由	感覚	医学科講義室1
5月9日	木	2	産賀崇由	運動	医学科講義室1
5月16日	木	2	産賀崇由	言語	医学科講義室1
5月23日	木	2	産賀崇由	感情	医学科講義室1
5月30日	木	2	産賀崇由	学生による発表	医学科講義室1
6月6日	木	2	産賀崇由	予備日	医学科講義室1

授業科目名	語り(ナラティヴ)と時間 (英訳) The theory of Time in Narrative	授業責任者	土佐　朋子

○授業回数・試験回数
　授業　7　回　　試験　0　回

○科目を履修して得られる能力
（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ:教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
　文学は時間芸術であるといわれる。
　本授業の目的は、作品に展開される「語り」が「時間」をどのように編集しているのかを考察し、「時間」が人間の表現意図にもとづいて創造されるものであることを理解することである。到達目標は、3年次セミナーにおいて、自らの主題にもとづいて問題設定をし解決していくために必要な思考力が、「語り」と「時間」という観点から養われることである。

○学習方法
講義形式による。

○教科書　（授業において学生の所持を前提とする書籍）
特に指定しない。教場で配布するプリントを使用する。

○参考書　（学習の参考になる書籍）
ロラン・バルト『物語の構造分析』(花輪光訳、みすず書房、1979)
大森荘蔵『時間と自我』(青土社、1992)など。
授業中に紹介します。

○参考URL　（学習の参考になるサイト）

○成績評価方法
レポートと平常点による。

○試験の受験資格
2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

○受講上の注意
下の「講義内容」は予定であるので、受講者の興味や関心、授業の雰囲気などによって、若干変更される可能性もある。

○問い合わせ先(担当教員)

(教員名)	(診療科・分野)	(Eメールアドレス)
土佐　朋子	教養部　文学	tosa.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
6月13日	木	2	土佐朋子	ガイダンス	共用セミナー1
6月20日	木	2	土佐朋子	「現在」から「過去」へ	共用セミナー1
6月27日	木	2	土佐朋子	「現在」から「過去」、そして「現在」へ	共用セミナー1
7月4日	木	2	土佐朋子	「過去」と「語り」	共用セミナー1
7月11日	木	2	土佐朋子	二重に流れる「語り」の「時間」	共用セミナー1
7月18日	木	2	土佐朋子	「現在」に復讐する「過去」	共用セミナー1
7月25日	木	2	土佐朋子	「時間」が創る「物語」	共用セミナー1

授業科目名	いのちと医療の倫理学 (英訳) A Critical Thinking on Bioethics	授業責任者	田中　智彦

○授業回数・試験回数
　授業　7　回　　試験　0　回

○科目を履修して得られる能力
（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ：教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
　倫理と法は別のものです。しかしながら今日、「生命倫理」として語られることがらの多くにあっては、この二つがしばしば混同されがちです。日本のある著名な哲学者をして、一般に「生命倫理」と呼ばれているものは「本来なら生命倫理ではなく、生命法とでも呼ぶべきもの」である、と言わしめるゆえんです。
　では、そうした倫理と法の混同はなぜ生じるのでしょうか。どのような帰結をもたらすのでしょうか。また、名ばかりではない「生命倫理」、つまり「生命法」ではない「生命倫理」があるとしたら、そこでは「いのち」や「医学・医療」をめぐって何が語られ、そして私たちには何が求められることになるのでしょうか。
　この授業では下記の講義内容に示した論点を通して、それら一連の問いを考察してゆきます。それはまた、「生命倫理」の現在を批判的に読み解き、未来を模索する試みともなるでしょう。

○学習方法
講義形式による。

○教科書　（授業において学生の所持を前提とする書籍）
教科書はありません。

○参考書　（学習の参考になる書籍）
・内田樹『死と身体』医学書院
・香川知晶『命は誰のものか』（ディスカヴァー・トゥエンティワン）
・小松美彦・市野川容孝・田中智彦編『いのちの選択』岩波書店
・小松美彦・香川知晶編『メタバイオエシックス』NTT出版
・鷲田清一『教養としての「死」を考える』洋泉社
・A. コント=スポンヴィル『資本主義に徳はあるか』紀伊國屋書店

○参考URL　（学習の参考になるサイト）

○成績評価方法
レポートと平常点による。

○試験の受験資格
5/7以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

○受講上の注意

○問い合わせ先（担当教員）
（教員名）　（診療科・分野）　（Eメールアドレス）
田中　智彦　教養部　哲学　tanaka.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
6月13日	木	2	田中智彦	治療と実験	医学科講義室2
6月20日	木	2	田中智彦	生命倫理と人体実験	医学科講義室2
6月27日	木	2	田中智彦	倫理と法	医学科講義室2
7月4日	木	2	田中智彦	人格と尊厳	医学科講義室2
7月11日	木	2	田中智彦	リベラリズム・優生思想・人体の資源化	医学科講義室2
7月18日	木	2	田中智彦	他者と死者	医学科講義室2
7月25日	木	2	田中智彦	まとめ	医学科講義室2

授業科目名	文化・言語・狂気 (英訳)culture, language, insanity	授業責任者	板橋　作美

○授業回数・試験回数
　授業　7　回　　試験　0　回

○科目を履修して得られる能力
　自己の相対化
　（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ：教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
　「人間」とは、動物としてのホモ・サピエンスに、文化がくわわった存在です。その文化を考えることによって、人間というものの理解を深めるのがこの授業の目的です。後半は、狂気に焦点を当てて考えます。

○学習方法
　講義形式による。

○教科書　（授業において学生の所持を前提とする書籍）
　なし

○参考書　（学習の参考になる書籍）
　授業中に紹介する。

○参考URL　（学習の参考になるサイト）
　なし

○成績評価方法
　試験と平常点による。

○試験の受験資格
　2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

○受講上の注意

○問い合わせ先（担当教員）

（教員名）	（診療科・分野）	（Eメールアドレス）
板橋　作美	教養部　社会学	itabashi.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
6月13日	木	2	板橋作美	文化とは	医学科講義室1
6月20日	木	2	板橋作美	言語	医学科講義室1
6月27日	木	2	板橋作美	メタ言語と論理階型	医学科講義室1
7月4日	木	2	板橋作美	ベイトソンなど	医学科講義室1
7月11日	木	2	板橋作美	アリエティなど	医学科講義室1
7月18日	木	2	板橋作美	宮本忠雄、木村敏など	医学科講義室1
7月25日	木	2	板橋作美	まとめと試験	医学科講義室1

授業科目名	スポーツと心 (英訳) Sports and Mind	授業責任者	林　久仁則

○授業回数・試験回数
　授業　7　回　　試験　0　回

○科目を履修して得られる能力
（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ：教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
　我々にとって身近であるスポーツの一面には、人間味のあるドラマや人の胸を打つような真っすぐな想いというものが存在します。それらを成すのは個人に宿された価値観、考え方、哲学であり、ひろく心と捉えることができます。このプログラムでは、日本古来から続く、古典芸能である能や世阿弥から、武道、そして個人種目から集団種目のスポーツいたるまで、そこに根付いている心のありように関して概説をします。また，トップアスリートの究極なまでの精神力を実例を通して知る機会をもつことにより、目標を達成する際の精神力という観点から心を捉えていきます。最終的に興味のあるトピックに関して自分たちでまとめたものをプレゼンテーション形式で発表し、相互に評価し合い意見を有することを到達目標としています。

○学習方法
講義形式による。（参加人数によっては、最終的なプレゼンテーションの実施を個人で行うのか、グループで行うのか等、柔軟に対応する。）

○教科書　（授業において学生の所持を前提とする書籍）

○参考書　（学習の参考になる書籍）
・「動きが心をつくる」春木 豊著 2011年　講談社現代新書
・「スーパーボディを読む」伊藤 昇著 2001年　マガジンハウス
・「からだのメソッド一立振舞いの技術」矢田部英正著 2009年　バジリコ
・「Flow 韓氏意拳の哲学」尹雄大著 2006年　冬弓舎
・「心で勝つ集中の科学 新インナーゲーム」WTガルウェイ著 2007年　日刊スポーツ出版社
・「プロ論。」B-ing編集部 2005年　徳間書店

○参考URL　（学習の参考になるサイト）

○成績評価方法
レポートと平常点による。

○試験の受験資格
2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

○受講上の注意

○問い合わせ先（担当教員）

（教員名）	（診療科・分野）	（Eメールアドレス）
林　久仁則	教養部　保健体育	kuninory@gmail.com

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
6月13日	木	2	林久仁則	ガイダンス，プレゼン発表の導入説明，こころとは	共用セミナー4
6月20日	木	2	林久仁則	能・世阿弥に見るからだとこころの関係	共用セミナー4
6月27日	木	2	林久仁則	武道に見るからだとこころの関係	共用セミナー4
7月4日	木	2	林久仁則	個人種目と集団種目におけるこころのあり方	共用セミナー4
7月11日	木	2	林久仁則	トップアスリートのメンタルに学ぶ	共用セミナー4
7月18日	木	2	林久仁則	どういうこころがベストパフォーマンスを生む	共用セミナー4
7月25日	木	2	林久仁則	プレゼンテーション，相互評価	共用セミナー4

授業科目名	バルト『表徴の帝国』を読む (英訳) Reading Roland Barthes, *L'Empire des signes*	授業責任者	中島 ひかる

○授業回数・試験回数
授業 7 回　試験 0 回

○科目を履修して得られる能力
（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ:教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
フランスの批評家ロラン・バルトによる「日本論」を講読します。1970年に書かれたこの本は、現代の日本を扱っているわけではありませんが、食文化（天ぷら、すき焼き、お箸等）から、庭、相撲、俳句、歌舞伎の女形といった日本を代表する文化にいたるまで、あるいは住所表示や皇居といった東京という都市の構造について、日本のさまざまな事象に対するわれわれの見方を、外部の視点から解体していきます。この書は、一応、外国人の目から見た日本論になっていますが、授業では、その考察の客観性や是非を問うのではなく、バルト独自の表現やものの見方を味わい、具体例を通して、バルトの分析手法や考え方の特徴を理解することを目的とします。

○学習方法
セミナー形式による。（最初に概要を説明した後、担当者を決めて、1回に2～3のテーマを読んでいきます。毎回、担当者に内容を要約していただいた後、それについて皆で意見交換する予定です）

○教科書 （授業において学生の所持を前提とする書籍）
ロラン・バルト『表徴の帝国 』ちくま学芸文庫

○参考書 （学習の参考になる書籍）
ロラン・バルト『ロラン・バルト著作集』 全10巻 みすず書房

○参考URL （学習の参考になるサイト）

○成績評価方法
平常点60%、レポート40%。自分で選んだ日本の事物や現象について、バルトも参考にして分析したレポートを提出していただきます（受講者が少なく、各回の担当箇所の要約や議論が積極的に行われた場合は、平常点のみで評価することもあります）。

○試験の受験資格
2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

○受講上の注意
教科書を必ず持参すること。

○問い合わせ先（担当教員）

（教員名）	（診療科・分野）	（Eメールアドレス）
中島 ひかる	教養部 仏語	nakashima.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
6月13日	木	2	中島ひかる	序論（概要の説明）	共用セミナー5
6月20日	木	2	中島ひかる	テクスト輪読（例:すきま・天ぷら）	共用セミナー5
6月27日	木	2	中島ひかる	テクスト輪読（例:住居表示・皇居）	共用セミナー5
7月4日	木	2	中島ひかる	テクスト輪読（例:包み・文房具）	共用セミナー5
7月11日	木	2	中島ひかる	テクスト輪読（例:文楽・歌舞伎）	共用セミナー5
7月18日	木	2	中島ひかる	テクスト輪読（例:俳句）	共用セミナー5
7月25日	木	2	中島ひかる	まとめと意見交換	共用セミナー5

授業科目名	ドイツとヨーロッパの現在 (英訳) Germany and EU now	授業責任者	シンチンガー　エミ

○授業回数・試験回数
　授業　6　回　　試験　1　回

○科目を履修して得られる能力
（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ:教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
ベルリンという特別な町について学ぶことによって、ドイツとヨーロッパの現在について考えます。具体的には、1985年に初演されてから現在までベルリンで再演され続けている"Linie 1" という、ベルリンの地下鉄を題材にした音楽劇の中から、抜粋した箇所を読んでいきます。**原文を読む授業ですので、ドイツ語の4単位を持っていない方は受講できません！**

○学習方法
原書講読形式による。

○教科書　（授業において学生の所持を前提とする書籍）
初回授業でプリントを配布します。

○参考書　（学習の参考になる書籍）
独和辞典は毎回持ってきてください！電子辞書が望ましいですが、今持っている辞書でもかまいません。

○参考URL　（学習の参考になるサイト）

○成績評価方法
試験と平常点による。

○試験の受験資格
2/3以上出席したものに、受験資格を与える。

○受講上の注意
原文を読む授業なので、ドイツ語の単位を持っていないものは受講できない！毎回予習をしてきてもらってその箇所を授業で読んでいくので、予習をすることが受講の条件です。1年で習ったドイツ語より格段に難しいので、覚悟が必要です。

○問い合わせ先(担当教員)

(教員名)	(診療科・分野)	(Eメールアドレス)
シンチンガー　エミ	教養部　ドイツ語	schinzinger.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
6月13日	木	2	シンチンガー	ベルリンについてのオリエンテーション;教材配布	演習室3-11・12
6月20日	木	2	シンチンガー	"Linie 1" より、抜粋を読んでいきます。	演習室3-11・12
6月27日	木	2	シンチンガー	同上	演習室3-11・12
7月4日	木	2	シンチンガー	同上	演習室3-11・12
7月11日	木	2	シンチンガー	同上	演習室3-11・12
7月18日	木	2	シンチンガー	同上	演習室3-11・12
7月25日	木	2	シンチンガー	到達したところまでの内容について筆記試験	演習室3-11・12

授業科目名	現代の日中関係（政治と経済） (英訳) Japan-China Relations: politics and economics	授業責任者	家永 真幸

○授業回数・試験回数
授業 7 回　試験 0 回

○科目を履修して得られる能力
（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ：教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
前半の「社会・文化」に続き、後半は「政治」や「経済」の面からこの40年間の日中関係を読み解きます。前期を履修していなくても受講して構いません。

○学習方法
毎回論文1本を指定し、担当者に10分間でその内容を紹介してもらいます。その後、参加者全員と質疑応答をしながら、教員が解説を行います。受講者数によっては変更の可能性あり。下記の「時間割」に示した各回の内容も仮決定で、詳細は初回ガイダンス時に相談します。

○教科書 （授業において学生の所持を前提とする書籍）

○参考書 （学習の参考になる書籍）
高原明生編『日中関係史1972-2012：政治』東京大学出版会、2012年
服部健治編『日中関係史1972-2012：経済』東京大学出版会、2012年

○参考URL （学習の参考になるサイト）

○成績評価方法
レポートと平常点による。

○試験の受験資格
2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

○受講上の注意

○問い合わせ先（担当教員）

（教員名）	（診療科・分野）	（Eメールアドレス）
家永　真幸	教養部　中国語	ienaga.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
6月13日	木	2	家永真幸	ガイダンス、報告担当者決め	共用セミナー7
6月20日	木	2	家永真幸	対中円借款	共用セミナー7
6月27日	木	2	家永真幸	東アジア地域協力	共用セミナー7
7月4日	木	2	家永真幸	東シナ海	共用セミナー7
7月11日	木	2	家永真幸	食の安全	共用セミナー7
7月18日	木	2	家永真幸	感染症	共用セミナー7
7月25日	木	2	家永真幸	観光	共用セミナー7

授業科目名	数理論理と形式言語 (英訳) Mathematical logic and Formal Language	授業責任者	清田　正夫

○授業回数・試験回数
　授業　7　回　　試験　0　回

○科目を履修して得られる能力
（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ：教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
数理論理学とは記号を用いて論理を数学的に考察する学問分野である。命題論理、述語論理、直観主義論理、様相論理などの多様な論理が存在する。ここでは、主として第1階述語論理をタブロー法により解説する。さらに、自然言語の形式的取り扱いとしてチョムスキーの生成文法を学ぶ。授業は講義形式で行なうが、テーマによってはセミナー形式をとることもある。

○学習方法
講義形式による。

○教科書 （授業において学生の所持を前提とする書籍）
指定しない。

○参考書 （学習の参考になる書籍）

○参考URL （学習の参考になるサイト）

○成績評価方法
レポートと平常点による。

○試験の受験資格
2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

○受講上の注意

○問い合わせ先（担当教員）

（教員名）	（診療科・分野）	（Eメールアドレス）
清田　正夫	教養部　数学	kiyota.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
6月13日	木	2	清田正夫	命題論理の意味論	大学院講義室4
6月20日	木	2	清田正夫	命題論理の構文論	大学院講義室4
6月27日	木	2	清田正夫	タブロー法による第1階述語論理(1)	大学院講義室4
7月4日	木	2	清田正夫	タブロー法による第1階述語論理(2)	大学院講義室4
7月11日	木	2	清田正夫	タブロー法による第1階述語論理(3)	大学院講義室4
7月18日	木	2	清田正夫	チョムスキーの生成文法(1)	大学院講義室4
7月25日	木	2	清田正夫	チョムスキーの生成文法(2)	大学院講義室4

授業科目名	物理で視た人体と医療機器 (英訳) Physics for Medical Sciences	授業責任者	千葉　司

○授業回数・試験回数
　授業　7　回　　試験　0　回

○科目を履修して得られる能力
（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ:教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
医学や歯学に物理は関係ないと思っている学生が多いかも知れない。
しかし、人体の働きは物理と密接に関わっているし、多くの医療機器は物理の原理にしたがって動作している。
これらのことを通して、物理が生物や医療の世界と深いかかわりがあることを理解する。

○学習方法
各人が教科書の一節を担当し、レジメあるいはパワーポイントを用いて内容を説明し、議論するゼミ形式とする。

○教科書　（授業において学生の所持を前提とする書籍）
佐藤幸一・藤城敏幸「医療系のための物理」(東京教学社　2007年)

○参考書　（学習の参考になる書籍）
教科書p.129-130に参考図書がまとめられている。

○参考URL　（学習の参考になるサイト）

○成績評価方法
レポート(発表時のレジュメ)と平常点（発表と議論への参加）による。

○試験の受験資格
2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

○受講上の注意
受け身ではなく、自ら授業に積極的に参加する意欲を持つ学生の受講を望む。

○問い合わせ先（担当教員）

（教員名）	（診療科・分野）	（Eメールアドレス）
千葉　司	教養部　物理学	chiba.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
6月13日	木	2	千葉司	授業の進め方と分担決め	演習室5－1．2
6月20日	木	2	千葉司	発表1　力学と人体	演習室5－1．2
6月27日	木	2	千葉司	発表2　流体と人体	演習室5－1．2
7月4日	木	2	千葉司	発表3　熱と体温	演習室5－1．2
7月11日	木	2	千葉司	発表4　音と光と人体	演習室5－1．2
7月18日	木	2	千葉司	発表5　電気と磁気の世界	演習室5－1．2
7月25日	木	2	千葉司	発表6　原子と放射線	演習室5－1．2

授業科目名	微分方程式演習 (英訳) Differential equations	授業責任者	越野　和樹

○授業回数・試験回数
　授業　7　回　　試験　0　回

○科目を履修して得られる能力
（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ:教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
私たちはみな、毎日の暮らしの中で物理法則に従って生きています。例えば、自動車の停止距離はスピードの2乗に比例しますが、このことは物理理論によって明快に説明することができます。物理法則は数学（特に微分方程式）を用いて記述されています。本講義では、微分方程式を中心とする物理数学を演習形式で学習します。

○学習方法
講義・演習の併用による。

○教科書　（授業において学生の所持を前提とする書籍）
指定しない。

○参考書　（学習の参考になる書籍）
「詳解物理応用数学演習」 後藤憲一ほか　共立出版

○参考URL　（学習の参考になるサイト）

○成績評価方法
レポートと平常点による。

○試験の受験資格
2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

○受講上の注意

○問い合わせ先（担当教員）

（教員名）	（診療科・分野）	（Eメールアドレス）
越野　和樹	教養部　物理学	ikuzak.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
6月13日	木	2	越野和樹	常微分方程式（1階常微分方程式）	大学院講義室3
6月20日	木	2	越野和樹	常微分方程式（1階常微分方程式）	大学院講義室3
6月27日	木	2	越野和樹	常微分方程式（高階常微分方程式）	大学院講義室3
7月4日	木	2	越野和樹	常微分方程式（高階常微分方程式）	大学院講義室3
7月11日	木	2	越野和樹	常微分方程式（連立微分方程式）	大学院講義室3
7月18日	木	2	越野和樹	常微分方程式（連立微分方程式）	大学院講義室3
7月25日	木	2	越野和樹	常微分方程式（連立微分方程式）	大学院講義室3

授業科目名	タンパク質科学の光と影 (英訳) Light and shadow of protein science	授業責任者	奈良　雅之

○授業回数・試験回数
　授業　7　回　　試験　0　回

○科目を履修して得られる能力
（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ：教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
我々の生存を支えている生命現象はきわめて複雑で、それにはタンパク質、糖質、脂質、核酸などの多種類の物質が関わっています。それらの物質の中で生命現象の直接的な担い手であるタンパク質に注目が集まっています。21世紀はタンパク質の時代ともてはやされて、この10年間でも大型のプロジェクトが活発に推進されました。この授業ではタンパク質研究の現状に焦点を当てて、その「光と影」について理解を深めます。

○学習方法
講義形式による。（履修者が10名以下の場合は、履修者の希望に応じてセミナー形式で行うこともできます。）

○教科書（授業において学生の所持を前提とする書籍）
指定しない。

○参考書（学習の参考になる書籍）
「入門　構造生物学」　加藤龍一　編集 共立出版
「タンパク質の生命科学」　池内俊彦著　中公新書
「蛋白質機能の分子論」　濱口浩三著　学会出版センター
「タンパク質のかたちと物性」　中村春木・有坂文雄編　共立出版
「タンパク質の構造と機能」　G.A. Petsuko and D. Ringe, 横山茂之監訳、ﾒﾃﾞｨｶﾙ･ｻｲｴﾝｽ･ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ

○参考URL（学習の参考になるサイト）

○成績評価方法
レポートと平常点による。

○試験の受験資格
2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

○受講上の注意

○問い合わせ先（担当教員）

（教員名）	（診療科・分野）	（Eメールアドレス）
奈良　雅之	教養部　化学	nara.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
6月13日	木	2	奈良雅之	序論	演習室5－3．4
6月20日	木	2	奈良雅之	X線回折によるタンパク質の立体構造解析	演習室5－3．4
6月27日	木	2	奈良雅之	核磁気共鳴によるタンパク質の立体構造解析	演習室5－3．4
7月4日	木	2	奈良雅之	構造生物学の歴史、最近の動向（1）	演習室5－3．4
7月11日	木	2	奈良雅之	構造生物学の歴史、最近の動向（2）	演習室5－3．4
7月18日	木	2	奈良雅之	構造・機能解析における分光学の役割（1）	演習室5－3．4
7月25日	木	2	奈良雅之	構造・機能解析における分光学の役割（2）	演習室5－3．4

授業科目名	植物の科学 (英訳) Plant Science	授業責任者	澤野　頼子

○授業回数・試験回数
　授業　7　回　　試験　0　回

○科目を履修して得られる能力
（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ：教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
植物は地球上のあらゆる生物の生存を支えている。動物の食物として役立つだけでなく、光合成によって大気圏の二酸化炭素を吸収して酸素を供給し、大気環境を保持する役割をもつ。また、人間は、太古に繁殖していた植物の遺体を化石燃料として、医療現場では植物中の有効成分から誘導された医薬品を利用している。本授業では、植物の構造・発生・成長・代謝などに関する基礎的な知識を講義を通して学び、人類と植物との関わりについて考える。

○学習方法
講義形式による。

○教科書 （授業において学生の所持を前提とする書籍）
指定しない。

○参考書 （学習の参考になる書籍）
「植物の生命科学入門」 神阪盛一郎・ ら 著　培風館
「植物生理学」 三村徹朗・鶴見誠二　編著　化学同人
「ベーシックマスター　植物生理学」 塩井祐三・井上弘・近藤矩朗　共編　オーム社

○参考URL （学習の参考になるサイト）

○成績評価方法
レポートと平常点による。

○試験の受験資格
2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

○受講上の注意

○問い合わせ先（担当教員）

（教員名）	（診療科・分野）	（Eメールアドレス）
澤野　頼子	教養部　化学	sawano.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
6月13日	木	2	澤野頼子	序論　植物と人間	共用セミナー2
6月20日	木	2	澤野頼子	植物・細胞の構造と機能	共用セミナー2
6月27日	木	2	澤野頼子	植物の発生・成長	共用セミナー2
7月4日	木	2	澤野頼子	光合成	共用セミナー2
7月11日	木	2	澤野頼子	物質代謝（1）	共用セミナー2
7月18日	木	2	澤野頼子	物質代謝（2）	共用セミナー2
7月25日	木	2	澤野頼子	植物ホルモンの働き	共用セミナー2

授業科目名	危険物の科学 （英訳） science of a dangerous object	授業責任者	勝又 敏行

○授業回数・試験回数
授業 7 回　試験 0 回

○科目を履修して得られる能力
（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ:教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
化学物質を扱うために、安全や環境保護など様々な理由から法による規制が行われている。その中で火災予防を目的として危険物が消防法により規定され、その取り扱いの監督者には資格が必要となる。危険物の化学的性質やその火災事例、消火法などを講義形式で紹介していく。

○学習方法
講義形式による。

○教科書 （授業において学生の所持を前提とする書籍）
指定しない。

○参考書 （学習の参考になる書籍）
危険物取扱者試験の参考書
基礎火災現象原論 James G. Quintiere

○参考URL （学習の参考になるサイト）

○成績評価方法
レポートと平常点による。

○試験の受験資格
2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

○受講上の注意

○問い合わせ先（担当教員）

（教員名）	（診療科・分野）	（Eメールアドレス）
勝又 敏行	教養部 化学	katsumata.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
6月13日	木	2	勝又敏行	危険物とは何か	共用セミナー10
6月20日	木	2	勝又敏行	関係法令	共用セミナー10
6月27日	木	2	勝又敏行	第1類～第3類の性質	共用セミナー10
7月4日	木	2	勝又敏行	第4類の性質	共用セミナー10
7月11日	木	2	勝又敏行	第5類、第6類の性質	共用セミナー10
7月18日	木	2	勝又敏行	消火法について	共用セミナー10
7月25日	木	2	勝又敏行	火事の事例	共用セミナー10

授業科目名	老化と寿命 (英訳) Aging and life-span	授業責任者	服部　淳彦

○授業回数・試験回数
　授業　7　回　　試験　0　回

○科目を履修して得られる能力
（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ：教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
「生あるものは必ず死を迎える」というが、果たして本当であろうか。生物学的に言えば、NOである。細菌などの原核生物は無限に分裂を繰り返し、生き延びることができるのである。一方、我々ヒトを含めた有性生殖を行う動物は、どんなに環境を整えても必ず死が訪れる。この授業では、「老化」に焦点を当て、老化の原因と老化と関連した病気についてはじめに解説した後、セミナー形式で各自に発表してもらう。なお、発表内容に関しては、適宜アドバイスを行う。

○学習方法
セミナー形式による（各自に発表してもらう）。したがって、募集人数は15名をMAXとする。

○教科書　（授業において学生の所持を前提とする書籍）
指定しない。

○参考書　（学習の参考になる書籍）
参考書などは適宜指示する。

○参考URL　（学習の参考になるサイト）

○成績評価方法
平常点（参加度）と発表点による。病気以外では、全出席を前提とする。

○試験の受験資格

○受講上の注意

○問い合わせ先（担当教員）

（教員名）	（診療科・分野）	（Eメールアドレス）
服部　淳彦	教養部　生物学	ahattori.las@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
6月13日	木	2	服部淳彦	老化現象と老化の原因（概要）	共用セミナー11
6月20日	木	2	服部淳彦	骨の老化	共用セミナー11
6月27日	木	2	服部淳彦	皮膚の老化	共用セミナー11
7月4日	木	2	服部淳彦	脳の老化	共用セミナー11
7月11日	木	2	服部淳彦	血管の老化	共用セミナー11
7月18日	木	2	服部淳彦	老化と遺伝子	共用セミナー11
7月25日	木	2	服部淳彦	抗加齢医学	共用セミナー11

授業科目名	民主主義を再考する (英訳) Rethinking of Democracy	授業責任者	藤井　達夫

○授業回数・試験回数
　授業　7　回　　試験　0　回

○科目を履修して得られる能力
（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ：教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
この授業では、近代以降の民主主義の歴史をたどりながら、現在の民主主義の閉塞状況を批判的に検討します。この検討を手掛かりにして、これからの社会をどのように作り上げていくのか履修者の皆さんと一緒に考えます。誰もが民主主義は私たちの社会のあり方――医療制度を含め――を決定する重要な政治の原理であり、手続きであると認めます。しかしながら、民主主義の内実をしっかり理解している人はどれほどいるのでしょうか。民主主義についての議論をとおして、社会の一員としての自覚と知識を培うことがこの授業の目的になります。

○学習方法
講義形式で行います。ただし、履修者が少ない場合は、セミナー形式で行う場合もあります。

○教科書　（授業において学生の所持を前提とする書籍）
特になし

○参考書　（学習の参考になる書籍）
授業内で随時、紹介しますが、以下のテキストを読んでおくことが望ましい。
小熊英二『社会を変えるには』(講談社現代新書、2012年)

○参考URL　（学習の参考になるサイト）
特になし

○成績評価方法
レポートと平常点による。

○試験の受験資格
2/3以上の出席をレポート提出の資格とします。

○受講上の注意
講義内容は、多少変更される場合があります。

○問い合わせ先（担当教員）

（教員名）	（診療科・分野）	（Eメールアドレス）
藤井　達夫	教養部　哲学	

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
6月13日	木	2	藤井達夫	近代民主主義の誕生とその特徴	共用セミナー12
6月20日	木	2	藤井達夫	民主主義はなぜうまくいかないのか	共用セミナー12
6月27日	木	2	藤井達夫	民主主義の危険	共用セミナー12
7月4日	木	2	藤井達夫	福祉国家と20世紀の民主主義	共用セミナー12
7月11日	木	2	藤井達夫	マクロな民主主義とミクロな民主主義	共用セミナー12
7月18日	木	2	藤井達夫	民主主義の危機をどう乗り越えるか	共用セミナー12
7月25日	木	2	藤井達夫	日本の民主主義とその未来	共用セミナー12

授業科目名	生物リズム (英訳) Biological Rhythm	授業責任者	産賀　崇由

○授業回数・試験回数
　授業 7 回　 試験 0 回

○科目を履修して得られる能力
（教養教育で学生に獲得させる力については、教養部ホームページ:教養部の理念を参照のこと。）

○目的・到達目標
多くの生物の行動や生理機能には1日を周期とするリズムがある。また、動物の性周期や季節繁殖においては数日、1月、1年を周期とするリズムもみられる。これらの生物リズムは環境の同調因子を取り除いても持続することから生物に内在する機能であると考えられる。この授業では、生物が周期的な環境に同調するメカニズムを脳とホルモンの働きから理解することを目的とする。また、基本的な知識を活用して論理的に考え、その考えを説明する技術を習得することを目標とする。講義形式で行う他、学生にも発表する機会を設ける。

○学習方法
講義形式による。

○教科書 （授業において学生の所持を前提とする書籍）
指定しない。

○参考書 （学習の参考になる書籍）
「脳と遺伝子の生物時計」 井上愼一 著 共立出版
「脳とホルモンの行動学」 近藤保彦 他 編 西村書店

○参考URL （学習の参考になるサイト）

○成績評価方法
レポートと平常点による。

○試験の受験資格
2/3以上出席したものに、レポート提出の資格を与える。

○受講上の注意

○問い合わせ先(担当教員)

(教員名)	(診療科・分野)	(Eメールアドレス)
産賀　崇由	教養部　生物学	ubuklas@tmd.ac.jp

○時間割

日付	曜日	時限	担当教員	講義内容	講義室
6月13日	木	2	産賀崇由	概論－生物の行動や生理機能の周期性	共用セミナー9
6月20日	木	2	産賀崇由	概日時計と時計遺伝子	共用セミナー9
6月27日	木	2	産賀崇由	ホルモン分泌の周期性	共用セミナー9
7月4日	木	2	産賀崇由	覚醒と睡眠	共用セミナー9
7月11日	木	2	産賀崇由	動物の性周期	共用セミナー9
7月18日	木	2	産賀崇由	動物の季節繁殖	共用セミナー9
7月25日	木	2	産賀崇由	学生による発表	共用セミナー9

主題別人文社会科学セミナー・講義

●医学科・歯学科（3年生）：主題別人文社会科学セミナー・講義スケジュール

			3時限（11:10～12:00）														
			文化			生命			言語			制度			時間		
月日	曜日		A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
4月18日	木	1	オリエンテーション（医学科講義室2）			オリエンテーション（修士課程講義室）			オリエンテーション（第4ｾﾞﾐﾅｰﾙ室）			オリエンテーション（大学院講義室3）			オリエンテーション（大学院講義室4）		
4月25日	木	2	セミナー（共用セミナー⑪）	医療と法（大学院講義室③）	医療と社会（大学院講義室④）	セミナー（共用セミナー⑨）	医療と法（大学院講義室③）	医療と社会（大学院講義室④）	セミナー（共用セミナー⑦）	医療と法（大学院講義室③）	医療と社会（大学院講義室④）	セミナー（共用セミナー⑩）	医療と法（大学院講義室③）	医療と社会（大学院講義室④）	セミナー（共用セミナー⑫）	医療と法（大学院講義室③）	医療と社会（大学院講義室④）
5月2日	木	3															
5月9日	木	4															
5月16日	木	5															
5月23日	木	6															
5月30日	木	7															
6月6日	木	8															
6月13日	木	1	医療と社会（大学院講義室④）	セミナー（共用セミナー⑪）	医療と法（大学院講義室③）	医療と社会（大学院講義室④）	セミナー（共用セミナー⑨）	医療と法（大学院講義室③）	医療と社会（大学院講義室④）	セミナー（共用セミナー⑦）	医療と法（大学院講義室③）	医療と社会（大学院講義室④）	セミナー（共用セミナー⑩）	医療と法（大学院講義室③）	医療と社会（大学院講義室④）	セミナー（共用セミナー⑫）	医療と法（大学院講義室③）
6月20日	木	2															
6月27日	木	3															
7月4日	木	4															
7月11日	木	5															
7月18日	木	6															
7月25日	木	7															
9月19日	木																
10月3日	木	1	医療と法（大学院講義室③）	医療と社会（大学院講義室④）	セミナー（共用セミナー⑪）	医療と法（大学院講義室③）	医療と社会（大学院講義室④）	セミナー（共用セミナー⑨）	医療と法（大学院講義室③）	医療と社会（大学院講義室④）	セミナー（共用セミナー⑦）	医療と法（大学院講義室③）	医療と社会（大学院講義室④）	セミナー（共用セミナー⑩）	医療と法（大学院講義室③）	医療と社会（大学院講義室④）	セミナー（共用セミナー⑫）
10月10日	木	2															
10月24日	木	3															
10月31日	木	4															
11月7日	木	5															
11月14日	木	6															
11月21日	木	7															
11月28日	木	1	総括セミナー（医学科講義室2）			総括セミナー（修士課程講義室）			総括セミナー（第4ｾﾞﾐﾅｰﾙ室）			総括セミナー（大学院講義室3）			総括セミナー（大学院講義室4）		
12月5日	木	2	合同総括セミナー（医学科講義室2）			総括セミナー（修士課程講義室）			総括セミナー（第4ｾﾞﾐﾅｰﾙ室）			総括セミナー（大学院講義室3）			総括セミナー（大学院講義室4）		
12月12日	木	3	総括セミナー（医学科講義室2）			合同総括セミナー（修士課程講義室）			総括セミナー（第4ｾﾞﾐﾅｰﾙ室）			総括セミナー（大学院講義室3）			総括セミナー（大学院講義室4）		
12月19日	木	4	総括セミナー（医学科講義室2）			総括セミナー（修士課程講義室）			合同総括セミナー（第4ｾﾞﾐﾅｰﾙ室）			総括セミナー（大学院講義室3）			総括セミナー（大学院講義室4）		
1月16日	木	5	総括セミナー（医学科講義室2）			総括セミナー（修士課程講義室）			総括セミナー（第4ｾﾞﾐﾅｰﾙ室）			合同総括セミナー（大学院講義室3）			総括セミナー（大学院講義室4）		
1月23日	木	6	総括セミナー（医学科講義室2）			総括セミナー（修士課程講義室）			総括セミナー（第4ｾﾞﾐﾅｰﾙ室）			総括セミナー（大学院講義室3）			合同総括セミナー（大学院講義室4）		
1月30日	木	7	総括セミナー（医学科講義室2）			総括セミナー（修士課程講義室）			総括セミナー（第4ｾﾞﾐﾅｰﾙ室）			総括セミナー（大学院講義室3）			総括セミナー（大学院講義室4）		
2月6日	木	8	総括セミナー（医学科講義室2）			総括セミナー（修士課程講義室）			総括セミナー（第4ｾﾞﾐﾅｰﾙ室）			総括セミナー（大学院講義室3）			総括セミナー（大学院講義室4）		
2月13日	木																
3月6日	木																

科　目　名 （英　訳）	主題別人文社会科学講義 医療と社会 (Medical treatment and Society)	開講学期 曜日・時限	通年 木曜日3時限 （11時10分～12時）
対象学年	3 年生	教　室	4/25～11/21： 大学院講義室 4（M&D タワー9F）
受講資格			
担当教員	皆吉 淳平		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

医療は人間社会にとって欠くことのできない要素である。それは同時に、人間社会と完全に切り離された医療を考えることはできないということも意味している。医療者の眼前に現れる患者や、医薬品あるいは医療機器、さらにルールや制度、思想を通して、医療は社会と深くかかわりあっている。

そこで「医療と社会」の講義では、医療と社会とのかかわりあいを考えるために、とくに「社会」の側面からアプローチする。ここでの「社会」とは、医療者のコミュニティという意味での社会ではなく、医療を包摂する現代社会という意味での社会である。

●授業の目的　(Primary goal)

医療とのかかわりあいを通して、「社会」についての理解を深める。

●到達目標　(Objectives)

授業計画に対応して、以下の目標の達成を目指します。

① 現代社会において、医学・医療がどのように社会と関係しているのかについて理解を深める
② 医療・医学の「論理」とは異なる、社会の「論理」について理解を深める
③ これまでに学んだことや拡充した視野と、総括セミナーでの思考の深化を、架橋する

●授業計画　(Schedule)

第１回　イントロダクション――「医療」と「社会」はどのように関係しているのか
第２回　グローバル化する社会と医療（１）「観光」と医療
第３回　グローバル化する社会と医療（２）「デバイス・ラグ」と医療
第４回　合意形成と医療（１）医療における合意
第５回　合意形成と医療（２）社会的合意と医療
第６回　変貌する社会の医療
第７回　全体のまとめと確認（筆記試験）

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有・無）

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書：特に指定しない。

参考書：

西原和久・油井清光編『現代人の社会学・入門――グローバル化時代の生活世界』有斐閣、2010年
藤村正之編『いのちとライフコースの社会学』弘文堂、2011年
金子雅彦『医療制度の社会学――日本とイギリスにおける医療提供システム』書肆クラルテ、2012年
市野川容孝『ヒューマニティーズ　社会学』岩波書店、2012年
佐藤俊樹『社会学の方法』ミネルヴァ書房、2011年
猪原健弘編『合意形成学』勁草書房、2011年
佐藤純一・土屋貴志・黒田浩一郎編『先端医療の社会学』世界思想社、2010年
中川輝彦・黒田浩一郎編『よくわかる医療社会学』ミネルヴァ書房、2010年
真野俊樹『グローバル化する医療――メディカルツーリズムとは何か』岩波書店、2009年
加藤尚武『合意形成の倫理学』丸善、2009年
額賀淑郎『生命倫理委員会の合意形成』勁草書房、2009年

科　目　名 （英　訳）	主題別人文社会科学講義 医療と法 (Medical treatment and Law)	開講学期 曜日・時限	通年 木曜日3時限 （11時～11時50分）
対象学年	3 年生	教　室	4/25～11/21： 大学院講義室 3（M&D タワー11F）
受講資格			
担当教員	飛田　綾子		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

医療保険を中心に、現在の日本の社会保障制度全般を検討する。教員が作成したレジュメをもとに講義形式で行うが、適宜、受講者に意見を求めることもある。

●授業の目的　(Primary goal)

日本国憲法の原理である個人の尊重原理を前提とした望ましい社会保障制度、ひいては医療の在り方とは何かを考察する。アメリカなど外国との比較的観点を取りいれつつ、将来の日本の社会保障制度について医療ツーリズムなど近年話題になっているトピックも取り上げながら、多角的に検討する。

●到達目標　(Objectives)

(1) なぜ社会保障制度があるのか、という問題を日本国憲法と関連させながら考察しつつ、制度全般に関する基本的知識を得る。また現在いかなる問題を抱えているかを把握する。
(2) (1)の知識を踏まえた上で、望ましい医療の在り方について、考察できるようになる。

●授業計画　(Schedule)

第１回　日本国憲法と社会保障制度　社会保障法総論
第２回　社会保険①（医療保険）
第３回　社会保険②（年金保険、介護保険）
第４回　社会保険③（失業保険、労災保険）
第５回　社会手当（児童扶養手当、特別児童扶養手当、児童手当）
第６回　社会福祉サービス、公的扶助（生活保護）
第７回　まとめ

後期・後半は、レポート執筆に向けたセミナー指導を行う。

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（筆記試験，レポート，その他）　再評価（有・無）

期末筆記試験（授業で説明した題材に関する基本的知識の確認と自分の意見)100%。
授業中の発言は積極的に評価する。

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書：特に指定しない。教員が毎回、レジュメを作成する。

参考書：西村健一郎『社会保障法入門（補訂版)』（有斐閣、2010 年）1,995 円。
西村健一郎・岩村正彦編『社会保障判例百選（第４版)』（有斐閣、2008 年）2,730 円。
駒村康平・菊池馨実編『希望の社会保障改革』（旬報社、2009 年） 1,680 円。
菊池馨実『年金保険の基本構造―アメリカ社会保障制度の展開と自由の理念』
（北海道大学図書刊行会、1998年）8,925円。
杉田米行編著『日米の社会保障とその背景』（大学教育出版、2010年）3,150円。
尾形健『福祉国家と憲法構造』（有斐閣、2011年）7,350円。

科　目　名 （英　訳）	主題別人文社会科学セミナー 文化と人間 (Perspectives on Culture)	開講学期 曜日・時限	通年 木曜日3時限 （11時10分～12時）
対象学年	3 年生	教　室	4/18：医学科講義室２（3 号館 3 階） 4/25～11/21：共用セミナー11（MD6 階） 11/28～2/6：医学科講義室２
受講資格	主題「文化と人間」コースであること		
担当教員	板橋　作美		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

人間は文化をもってはじめて人間です。文化は、たとえるならパソコンのＯＳのようなもので、人間は自然、世界を文化という装置、フィルターを通してとらえていると考えられます。

そういう次元での文化のはたらきは、人間のさまざまな行い、営みの基盤にあると考えられます。とくに、人間の思考様式、そして動物にはなく人間だけにあると考えられている、例えば笑い、創造、芸術、迷信、狂気などは、文化というＯＳの上で走る、ワードやエクセルのようなアプリケーションにたとえることができます。

この授業は、受講者が、上に記した笑いや芸術や迷信や狂気などのうち、関心をもった問題を深く掘り下げて考えることを目指していますが、問題領域が広いので、すべてを授業で扱うことはできませんので、文化の仕組みと働きということにしぼって、話す予定です。

●授業の目的　(Primary goal)

文化的存在としての人間の理解。

●到達目標　(Objectives)

自らの考察をおこなうこと。

●授業計画　(Schedule)

概要に書いたことをお話ししますが、どういうテーマを選んでいる人が多いかによって、話すことの中心が変わります。最初の授業のときに、受講者の希望をきいて、決めたいと思います。

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験，レポート，その他　）

再評価　（有・無）

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

授業内容に直接ふれた、しかもまとまった書籍類はありません。受講者の関心によって、参考になるものを紹介します。

中川敏『異文化の語り方』世界思想社、三浦俊彦『ラッセルのパラドクス』岩波新書、Ｓ・アリエティ『創造力』新曜社、宮本忠雄『言語と妄想』、平凡社木村敏『異常の構造』講談社現代新書、木村敏『分裂病の現象学』弘文堂、中村雄二郎『場所』弘文堂、グレゴリー・ベイトソン『精神の生態学』新思索社、グレゴリー・ベイトソン『精神と自然』新思索社、鈴木棠三『ことば遊び』中公新書、鈴木棠三『なぞの研究』講談社学術文庫、井上ひさしの作品（表裏源内蛙合戦など）、桂枝雀『らくごＤＥ枝雀』ちくま文庫、佐藤信夫『レトリック感覚』講談社学術文庫、佐藤信夫『レトリック認識』講談社学術文庫、佐藤信夫『レトリックの記号論』講談社学術文庫、佐藤信夫『レトリックの意味論』講談社学術文庫、渡辺慧『知るということ』東京大学出版会、山梨正明『比喩と理解』東京大学出版会、山梨正明『認知言語学原論』くろしお出版、野内良三『レトリックと認識』ＮＨＫブックス、中村雄二郎『場所　トポス』弘文堂、中村雄二郎『述語的世界と論理』岩波書店、『中井久夫著作集　精神医学の経験　1 巻　分裂病』岩崎学術出版社、坂原茂『日常言語の論理』東京大学出版会、谷泰『笑いの本地、笑いの本願』以文社、前田利男編訳『言語の構造と病理』誠信書房、Ｇ・レイコフ、Ｍ・ジョンソン『レトリックと人生』渡辺昇一・楠瀬淳三・下谷和幸（訳）、大修館書店、大堀壽夫『認知言語学』東京大学出版会、坂原茂『日常言語の推論』東京大学出版会、渡辺慧『知るということ』東京大学出版会、中村明『笑いのセンス』岩波書店、中村明『笑いの日本語事典』筑摩書房、坂本賢三『「分ける」こと「わかる」こと』講談社学術文庫、有馬道子『記号の呪縛　テクストの介錯と分裂病』勁草書房。

科　目　名 （英　訳）	主題別人文社会科学セミナー 生命と人間 （Perspectives on Life）	開講学期 曜日・時限	通年 木曜日3時限 （11時10分～12時）
対象学年	3 年生	教　室	4/18：修士課程講義室（2 号館 3 階） 4/25～11/21：共用セミナー9（MD8 階） 11/28～2/6：修士課程講義室
受講資格	主題「生命と人間」コースであること		
担当教員	田中　智彦		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

「生命」という概念をもつ生物は、おそらく人間だけでしょう。そしてそれゆえに、人間だけが自分の生命に「終わり」のあることを意識し、自分に生命が「ある」ことの意味を問う。あるいはそうせざるをえない。またそれゆえに人間だけが、生命とは何かを探究し、ついには生命を操作しようとしさえする。もっともこうしたことは、何も現代に特有のことではなく、人間が「人間」として言語と文化を獲得し、社会を築くようになって以来、連綿と続けられてきたことでした。

このことは他方で、私たちが生命について何ごとかを認識し、考え、語るときにはそこに、私たちの言語・文化・社会が色濃く影を落としていることを示唆します。そしてそうであるとするならば、そのような「影」にどれほど自覚的でありうるかは、私たちが生命について、また人間の生と死について、どれほど深く認識し、考え、語りうるかを左右することになるでしょう。そこでこのセミナーでは、そうした「自覚」や「深さ」へと接近する手立てとして、下記「授業計画」にあげるような論点について考察していきます。

●授業の目的　(Primary goal)

今日、生命や人間に関して、またいずれにも深く関わる医学・医療に関して語られ、行われていることがらの多くには、それとは気づかれぬまま通用している特殊な、そして歴史的な前提があります。このセミナーでとりあげる論点には、そうした前提のいくつかに光を当てるものが選ばれています。そこから生命や人間を、医学・医療をあらためて「見る」とき、はたしてどのような視界が開けてくるか。どのような問いが生まれ、どのような思考が導かれるか。そのようにしていわば「見る」ことを学びつつ、そのもとで各人がこれまでに学んできたことを再編し、総合するのが、このセミナーの大きな目的です。

●到達目標　(Objectives)

セミナーでとりあげられる論点について理解するとともに、それらと各人がこれまでに学んできたこととを結びつけ、そうして「総括セミナー（レポート執筆）」のための適切な問題設定を見いだすのが到達目標です。

●授業計画　(Schedule)　※順番や内容に関しては若干の変更もありえます。

第１回　生命とは何か―― 生命観の過去と現在
第２回　生命と医学・医療――「医」の本質について
第３回　生命と社会①―― 近代という時代について
第４回　生命と社会②―― 生権力・生政治について
第５回　生命と倫理①―― 人間の尊厳について
第６回　生命と倫理②―― 「死」と「死者」について
第７回　総括セミナーに向けて――「問い」の立て方と「論理」の組み立て方

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, (レポート), その他　）

再評価（(有)・無）

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)　※教科書はありません。参考書を何冊か挙げておきます。

内田樹『死と身体』医学書院、同『街場の文体論』ミシマ社、小松美彦・市野川容孝・田中智彦編『いのちの選択』岩波書店、小松美彦・香川知晶編『メタバイオエシックス』NTT出版、福岡伸一『生物と無生物のあいだ』講談社、同『せいめいのはなし』新潮社、若林一美『死別の悲しみを超えて』岩波書店、M. ウェーバー『職業としての学問』『職業としての政治』岩波書店、N. エリアス『死にゆく者の孤独』法政大学出版局、M. フーコー『性の歴史Ⅰ』新潮社、R. ブラウン『体の贈り物』新潮社、香川知晶ほか『生命倫理の基本概念』丸善、土井健司『キリスト教は戦争好きか』朝日新聞出版、西村理佐『ほのさんのいのちを知って』エンターブレイン。

科　目　名 （英　訳）	主題別人文社会科学セミナー 言語と人間 (Perspectives on Language)	開講学期 曜日・時限	通年 木曜日3時限 （11時10分～12時）
対象学年	3 年生	教　室	4/18 : 第 4 ゼミナール室 (7 号館 6 階) 4/25～11/21 : 共用セミナー7 (MD14 階) 11/28～2/6 : 第 4 ゼミナール室
受講資格	主題「言語と人間」コースであること		
担当教員	土佐朋子		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

人間を他の生物から区別するものの一つに「言語」がある。本授業では、これまで構築されてきた言語や語りに関する理論のいくつかを学び、日常の言語活動や文学作品における表現を材料として、言語と人間に関する自分なりの見解を持ることを目指して考察を行う。

●授業の目的　(Primary goal)

①人間にとって「言語」「語り」とは何かという問題について、これまでどのような理論が構築されてきたのかを知ること。

②その上で、今年度取り組む自らの問題を設定し、考察を行うこと。

●到達目標　(Objectives)

「言語」および「語り」について、現段階での自分なりの結論を導き出し、さらに今後の課題を見出すこと。

●授業計画　(Schedule)

※予定なので、具体的な内容については変更の可能性もある。

第１回　「言語」とは何か①　ソシュールの理論にもとづく考察

第２回　「言語」とは何か②　時枝誠記の理論にもとづく考察

第３回　「言語」とは何か③　バンヴェニストの理論にもとづく考察

第４回　「語り」とは何か④　ロラン・バルトの理論にもとづく考察

第５回　「語り」とは何か⑤　ロラン・バルトの理論にもとづく考察

※１回目～５回目は、配布する資料を各時間およそ２名ずつ担当して、輪読していく。担当者による報告と問題提起、セミナー参加者による討論を行う。

第６回　人間にとって言語とは？語りとは？

※５回のセミナーを振り返って、改めて「言語」「語り」について討論をする。

第７回　総括セミナー・レポート執筆にむけての準備と確認

※年度末のレポートで取り組む自らの課題について、見通しを各自発表する。

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）　再評価（有・無）

セミナーへの参加（平常点）50%、レポート50%

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

教科書は指定しない。プリントを配布する。　参考書のいくつかを下にあげる。

ロラン・バルト『物語の構造分析』（みすず書房、1979）、同『言語のざわめき』（みすず書房、1987）、同『零度のエクリチュール』（ちくま学芸文庫、1999）、同『恋愛のディスクール・断章』（みすず書房、1980）Ｅ・バンヴェニスト『一般言語学の諸問題』（みすず書房、1983）、時枝誠記『国語学原論』（岩波文庫、2007）、ソシュール『一般言語学講義』（岩波書店、1972）、野家啓一『物語の哲学』（岩波現代文庫、2005）、吉本隆明『定本　言語にとって美とは何かⅠ・Ⅱ』（角川ソフィア文庫、2001）、シュタンツェル『物語の構造』（岩波書店、1989）、大森荘蔵『時間と自我』（青土社、1992）、同『時間と存在』（同、1994）、野口裕二編『ナラティヴ・アプローチ』（勁草書房、2009）、ブルーナー『ストーリーの心理学』（ミネルヴァ書房、2007）など。

※「言語」についての考察は、具体的な「材料」が必要となる。「材料」が揃って、初めて「理論」が有効に活用できる。自分の興味や関心、また最後のレポートで取り組もうとしている課題にもとづき、日常の言語活動を振り返ったり、積極的に読書に取り組むなどして、「材料」を集めておくこと。

科　目　名 （英　訳）	主題別人文社会科学セミナー 制度と人間 (Perspectives on Human Systems)	開講学期 曜日・時限	通年 木曜日3時限 （11時10分～12時）
対象学年	3 年生	教　室	4/18：大学院講義室 3（MD11 階） 4/25～11/21：共用セミナー10（MD8 階） 11/28～2/6：大学院講義室 3
受講資格	主題「制度と人間」コースであること		
担当教員	青山　豊		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

本セミナーでは、人間との関わりにおいて医療制度がいかなる理由付けにより構築されてきたのか、また今後構築されていくべきなのかにつき、参加者の積極的なコミットメントを前提にゼミ形式で議論を行う。理論的に言えば、国家が関与する公的制度として医療を構築する必然性はない。「小さな政府」を志向して個人の自由を最大限に尊重するリバタリアニズムからすると、むしろこれは当然の帰結となりうる。しかし、少なくとも現在の日本ではそうした選択がとられておらず、医療従事者に公的資格を設定し、医療提供施設についても法律で様々な規制を行うことで一定水準の医療を安定的に確保できるシステムを国が構築・運営している。また、貧富に関わりなく国民が医療を受診できる公的医療保険制度が整備され、国民皆保険制度として全国民の加入が義務付けられている。そして、このように医療制度を国家の管理下で運営する根拠としては、①福祉国家理念と、②医療の正義がまずは挙げられる。特に②については、経済的価値と生命的価値との衝突を考えさせる契機を与えてくれるだろう。生命的価値の優越性が社会的コンセンサスであるならば、社会における公共的存在であるところの国家がこうした医療正義を実現するべく医療の諸制度を整備・充実させることが大きな責務となってくる。これらの諸点を考慮に入れながら日本の具体的な医療制度をこちらから提示した上で、その根底にある発想を明らかにし、特にその憲法論的是非について参加者には積極的な議論を展開してもらいたいと考えている。

●授業の目的　(Primary goal)

日本社会の構造的変化（少子高齢化やグローバル化など）に応じて変化を迫られる医療制度の本質的理解。

●到達目標　(Objectives)

現代国家における自由国家理念と福祉国家理念との併存可能性を制度構造の観点から説明できるようになること。

●授業計画　(Schedule)

前期・前半後半および後期・前半　－　第1回　福祉国家と法
第2回　福祉国家の展開とその理論的基礎
第3回　憲法と福祉国家の形成
第4回　福祉国家における権利保障
第5回　福祉国家の制度構想
第6回　高齢者医療制度改革の基本概念
第7回　「公の支配」の意義と射程

後期・後半　－　レポート執筆に向けた総括セミナー

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験, レポート, その他　）

再評価（有, 無）

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

必要に応じて関連資料を配布する。参考図書は以下の通り。

池上直己『ベーシック医療問題（第4版）』（日本経済新聞出版社、2010年）
伊藤周平『後期高齢者医療制度』（平凡社、2008年）
宇沢弘文・鴨下重彦編『社会的共通資本としての医療』（東京大学出版会、2010年）
尾形健『福祉国家と憲法構造』（有斐閣、2011年）
児玉聡『功利主義入門 - はじめの倫理学』（ちくま書房、2012年）
島崎謙治『日本の医療 - 制度と政策』（東京大学出版会、2011年）
手嶋豊『医事法入門[第3版]』（有斐閣、2011年）
樋口範雄『医療と法を考える - 救急車と正義』（有斐閣、2007年）
堀勝洋『社会保障・社会福祉の原理・法・政策』（ミネルヴァ書房、2009年）

科　目　名 （英　訳）	主題別人文社会科学セミナー 時間と人間 (Perspectives on Time)	開講学期 曜日・時限	通年 木曜日3時限 （11時10分～12時）
対象学年	3 年生	教　室	4/18：大学院講義室 4（MD9 階） 4/25～11/21：共用セミナー12（MD6 階） 11/28～2/6：大学院講義室 4
受講資格	主題「時間と人間」コースであること		
担当教員	飯田　卓		

●授業の概要　(Outline of content and teaching method)

「時間と人間」を主題とする本セミナーでは時間の視点から人間を理解することを目指しますが、時間そのものを自明視したまま人間について中心的に考察してゆくわけではありません。ここでは時間を対象とする際の二つのアプローチ、すなわち時間それ自体について探求するアプローチと、時間の視点から人間について探求するアプローチとを区別したうえで、前者においてはとくに時間の量的位相（物理的・客観的時間）と質的位相（過去 - 現在 - 未来という様相あるいは人間的時間）との関係を問い、後者においては主に前者によって省察された時間的観点から特定の歴史的な文化的社会に位置づけられた人間のあり様を問うことになります。ただしこうした区別は方法論上のものであり、現実には両者は循環関係（相互基づけ関係）にあるという事情を理解することが重要です。

●授業の目的　(Primary goal)

本セミナーでは人間の意識や行為とは独立に時間なるものが存在すると想定したうえで、そうした時間が一方的に人間を規定するあり様を考察するわけではありません。時間の実在を素朴に認める立場には時間についての常識的な見方だけでなく、たとえばキリスト教における世界創造説や近代以降の自然科学的見方も（その大部分が）含まれますが、ここでの目的はむしろそうした見方を批判的に吟味し、時間というものが――さまざまな社会・文化・歴史的状況――に置かれた人間の行為を経由してはじめてその時間的意味を獲得し、同時にそうした人間の行為もまた時間を基礎にしてはじめて成立するという事情を認めたうえで、なおかつ人間の行為に照準することによって、時間と人間との関係を考察することにあります。時間は人間の行為とともに構成される、これが本セミナーを貫く命題です。

●到達目標　(Objectives)

まずは文献講読と討議を通じて、履修者各自が時間のリアリズム／ノミナリズム／ファンクショナリズムのいずれの見方によっているのか自覚できるようになること。またそうした見方を自明視することなく、（いかなる意味においてであれ）人間と関わらせながら時間について考察できるようになること。そのうえで、各々の関心にしたがって「時間と人間」に関する問いを正しく設定し、一定の結論を導くことができるようになること。

●授業計画　(Schedule)

授業は演習形式で進めてゆきますので、各回とも履修者各自による報告と討議が中心となります。前半では時間に関する文献をいくつか選び、それらを全員で講読してゆきます。具体的には履修者のあいだで分担を決め、担当者にはレジュメを作成していただいたうえで内容について報告を行っていただきます。そして報告された内容をもとに全員で討議を行うという仕方で進めてゆきます。後半では各自の関心に従った研究の成果を報告していただき、その報告をもとに全員で討議を行うという仕方で進めてゆきます。

●成績評価の方法　(Grading scheme)　評価　（　筆記試験，(レポート)，その他　）

再評価（(有)・無）

●教科書および参考書　(Textbooks and materials)

植村恒一郎『時間の本性』勁草書房，入不二基義『時間と絶対と相対と』勁草書房，渡辺慧『時』河出書房新社，内山節『時間についての十二章』岩波書店，野家啓一『物語の哲学』岩波現代文庫，真木悠介『時間の比較社会学』岩波現代文庫，中村秀吉『時間のパラドックス』中公新書，木村敏『時間と自己』中公新書，広井良典『死生観を問いなおす』ちくま新書，大森荘蔵『時は流れず』『時間と自我』『時間と存在』青土社，廣松渉『事的世界観への前哨』ちくま学芸文庫，H・ベルクソン『意識に直接与えられたものについての試論』ちくま学芸文庫，E・フッサール『内的時間意識の現象学』みすず書房，M・ハイデッガー『存在と時間　上・下巻』ちくま学芸文庫，入不二基義『時間は実在するか』講談社現代新書，中島道義『時間を哲学する』講談社現代新書，等

東京医科歯科大学全学共通科目履修規則

（平成１６年４月１日
規則第２１７号）

（趣旨）

第１条　東京医科歯科大学における全学に共通する教育科目（以下「全学共通科目」という。）の履修に関しては、東京医科歯科大学学則（平成１６年規程第４号。以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

（授業科目の編成）

第２条　全学共通科目における授業科目は、次の４系をもって編成する。

自由教育講義系
自由教育実習系
自由教育セミナー系
基礎教育系

（授業科目及び単位数）

第３条　前条の各系に属する授業科目及び修得すべき単位数等は、別表１に定めるとおりとする。

２　前項の授業科目及び修得すべき単位数等は、教養部教授会の議を経て定めるものとする。

（１単位当たりの授業時間）

第４条　学則第３６条に定める１単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

⑴　講義については、１５時間
⑵　演習については、３０時間
⑶　実験及び実習については、４５時間

（履修届）

第５条　学生は、別に定める授業科目の中から、履修しようとする授業科目を所定の期日までに届け出なければならない。

（定期試験）

第６条　履修した授業科目については、試験を行う。

２　前項の規定にかかわらず、実験、実習を伴う授業科目又は試験を行うことが困難な授業科目等で、平常の学修の成果を評価して成績を与えることが適切と認められる場合には、試験によらず、指定した課題についての報告等をもって試験に代えることができる。

３　第１項の試験については、別に定める。

４　試験に合格したときは、所定の単位を与える。

（学習の評価）

第７条　履修した授業科目の成績については、別表２により学習の評価を行う。

２　前項の規定にかかわらず、前条第２項に該当する授業科目のうち、第１項により難い場合の学習の評価は、別表３により行う。

３　第１項及び第２項の学習の評価に、平常の学修の成果を加味することができる。
４　教養部長は、学習の評価の結果を学生に通知する。

（再履修）
第８条　前条により、「不可」又は「不合格」の評価を得た授業科目については、所定の手続きにより再履修することができる。

（懲戒）
第９条　教養部長は、懲戒に相当すると思われる行為があったときは、学則第５８条に定める懲戒の手続きをとるものとする。なお、手続きについては別に定める。

（進級要件）
第１０条　別表１（１）に定める単位をすべて修得しなければ、第２学年に進級することができない。
２　別表１（２）に定める単位をすべて修得しなければ、第３学年に進級することができない。
３　別表１（３）に定める単位をすべて修得しなければ、第４学年に進級することができない。
４　全学共通科目の単位の認定については、教養部教授会の議を経て、教養部長がこれを行う。
５　教養部長は、前項の認定の結果について各学部長に通知する。
６　２年以内に、別表１（１）に定める単位をすべて修得することができない学生には、学則第３３条による退学を命ずる。ただし、当該期間には、休学の期間を算入しない。

（歯学部口腔保健学科編入学生の履修）
第１１条　学則第１８条及び第１８条の２に定める歯学部口腔保健学科編入学生の全学共通科目に係る履修については、別に定める。

（補則）
第１２条　この規則に定めるもののほか、全学共通科目の履修に関する必要な事項は、教養部教授会が別に定める。

附　則
１　この規則は、平成１６年４月１日から施行する。
２　国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学に平成１６年３月３１日に在学し、引き続き本学の在学者となったもの（以下「在学者」という。）及び平成１６年４月１日以後在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者の教育課程の履修については、この規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成１８年３月３１日規則第１０号）
１　この規則は、平成１８年４月１日から施行する。
２　平成１８年３月３１日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）および平成１８年４月１日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表１の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成２０年３月31 日規則第８号）
１　この規則は、平成２０年４月１日から施行する。
２　平成２０年３月３１日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成２０年４月１日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表（１）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成２１年３月１９日規則第１１号）

１　この規則は、平成２１年４月１日から施行する。

２　平成２１年３月３１日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成２１年４月１日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表（１）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成２２年３月３０日規則第４０号）

１　この規則は、平成２２年４月１日から施行する。

２　平成２２年３月３１日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成２２年４月１日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表１、別表２及び別表３の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成２３年３月４日規則第１４号）

１　この規則は、平成２３年４月１日から施行する。

２　平成２３年３月３１日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成２３年４月１日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、この規則にかかわらず、なお従前の例による。

（2）第 2 学年

授業科目			修得すべき単位数						備考
			医学部			歯学部			
			医学科	保健衛生学科		歯学科	口腔保健学科		
				看護学専攻	検査技術学専攻		口腔保健衛生学専攻	口腔保健工学専攻	
基礎教育系	教養教育	生命科学基礎	2			2			
		主題別選択Ⅰ	1			1			
	連携教育	教養英語				4			
		情報科学演習				1			
		サイエンスPBL				1			
		生命科学（人体の生物学）				2			
		生命科学（生物物理化学）				2			
		人文社会科学総合講義				2			
第2学年　小計			3			15			

（3）第 3 学年

授業科目			修得すべき単位数						備考
			医学部			歯学部			
			医学科	保健衛生学科		歯学科	口腔保健学科		
				看護学専攻	検査技術学専攻		口腔保健衛生学専攻	口腔保健工学専攻	
基礎教育系	教養教育	主題別選択Ⅱ	1			1			
		主題別人文社会科学セミナー	2			2			
第3学年　小計			3			3			
全学共通科目　合計			40	29	32	52	26	26	

別表2

摘　要	成績区分	評価区分	単位認定
第７条第１項に該当する授業科目	100～90 点	秀	合格
	89～80 点	優	
	79～70 点	良	
	69～60 点	可	
	59～0 点	不可	不合格

別表3

摘　要	成績区分	評価区分	単位認定
第７条第２項に該当する授業科目	―	合格	合格
	―	不合格	不合格

講義室一覧

（生命科学基礎）

	講義室	場所
1	医学科講義室1	3号館2階
2	大学院講義室4	M&Dタワー9階

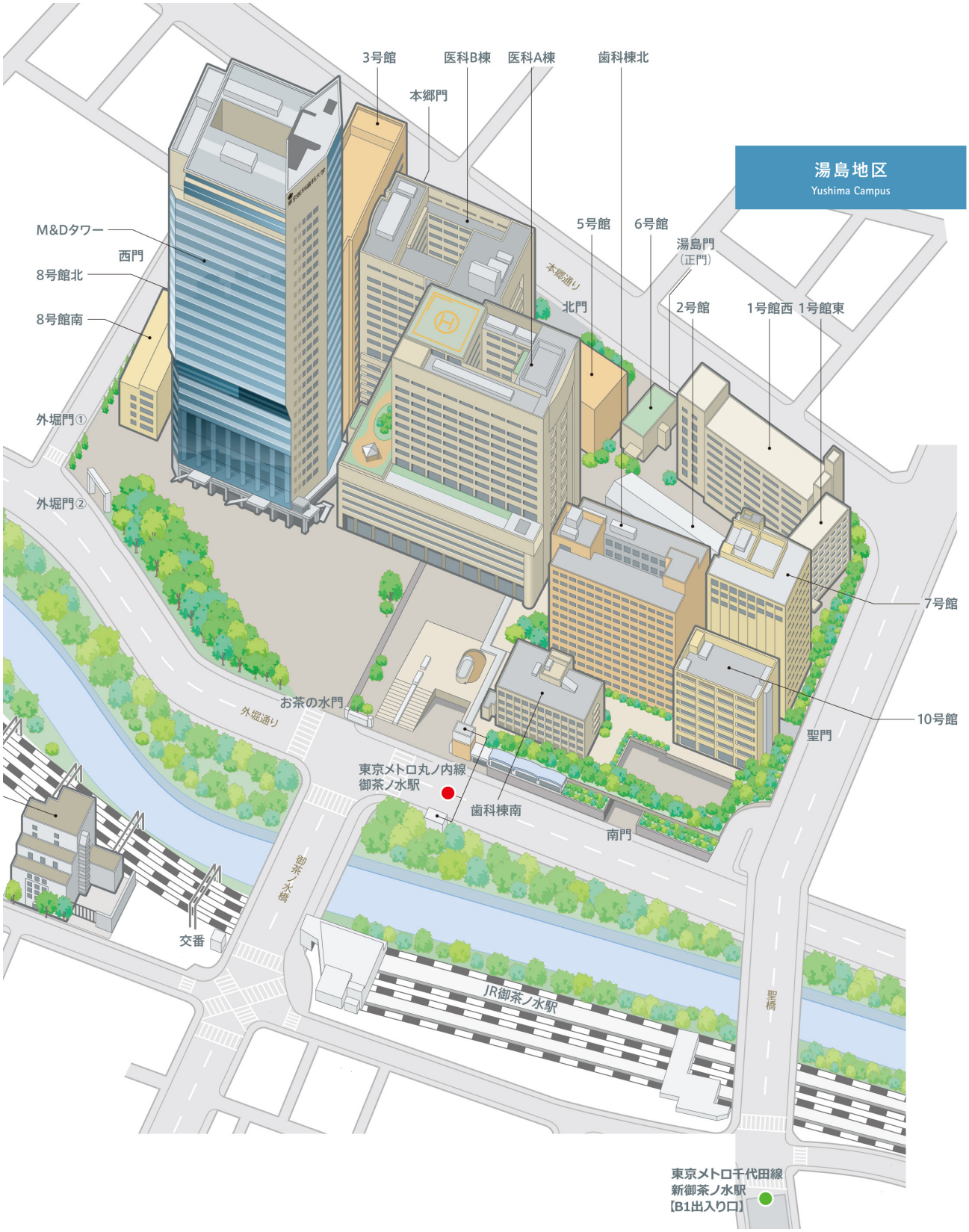
（主題別選択Ⅰ・Ⅱ）

	講義室	場所
1	医学科講義室1	3号館2階
2	医学科講義室2	3号館3階
3	共用セミナー1	M&Dタワー24階
4	共用セミナー2	M&Dタワー23階
5	共用セミナー4	M&Dタワー22階
6	共用セミナー5	M&Dタワー15階
7	共用セミナー6	M&Dタワー15階
8	共用セミナー7	M&Dタワー14階
9	共用セミナー9	M&Dタワー8階
10	共用セミナー10	M&Dタワー8階
11	共用セミナー11	M&Dタワー6階
12	共用セミナー12	M&Dタワー6階
13	大学院講義室3	M&Dタワー11階
14	大学院講義室4	M&Dタワー9階
15	演習室3-11.12	3号館3階
16	演習室5-1.2	3号館5階
17	演習室5-3,4	3号館5階

（主題別人文社会科学セミナー・講義）

	講義室	場所
1	医学科講義室2	3号館3階
2	大学院講義室3	M&Dタワー11階
3	大学院講義室4	M&Dタワー9階
4	修士課程講義室	2号館3階
5	第4ゼミナール室	7号館6階
6	共用セミナー7	M&Dタワー14階
7	共用セミナー9	M&Dタワー8階
8	共用セミナー10	M&Dタワー8階
9	共用セミナー11	M&Dタワー6階
10	共用セミナー12	M&Dタワー6階

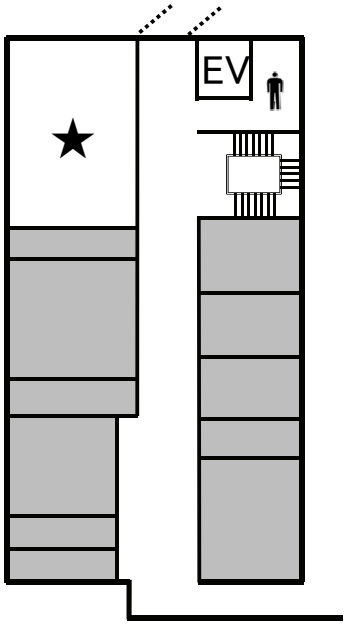
キャンパスマップ


湯島地区
Yushima Campus
3号館
医科B棟
医科A棟
歯科棟北
本郷門
M&Dタワー
西門
8号館北
8号館南
外堀門①
外堀門②
5号館
6号館
湯島門
(正門)
本郷通り
北門
2号館
1号館西
1号館東
7号館
10号館
聖門
お茶の水門
外堀通り
東京メトロ丸ノ内線
御茶ノ水駅
歯科棟南
南門
御茶ノ水橋
交番
JR御茶ノ水駅
聖橋
東京メトロ千代田線
新御茶ノ水駅
【B1出入り口】

使用予定教室配置図

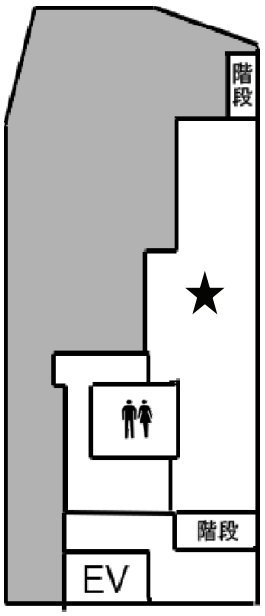
エレベーターは混み合いますので3フロア以内の移動は階段を使いましょう

2 号 館

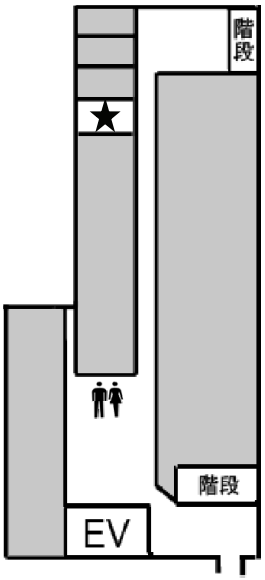


3階：修士課程講義室

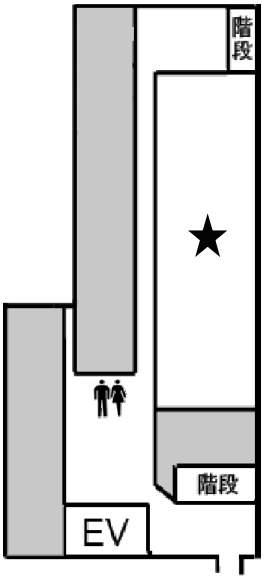
3 号 館



B1階：解剖実習室

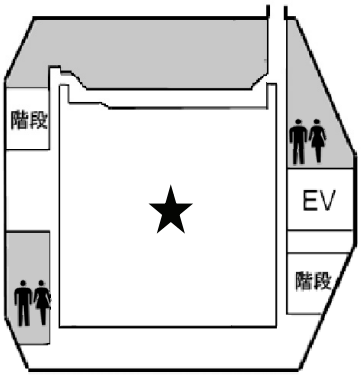


5階：演習室5-4

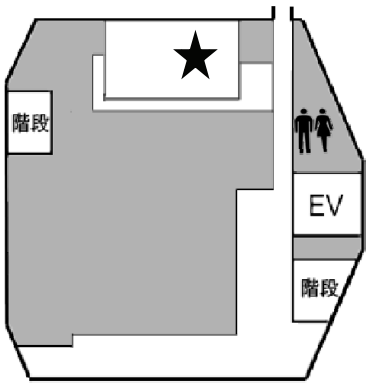


2階：医学科講義室

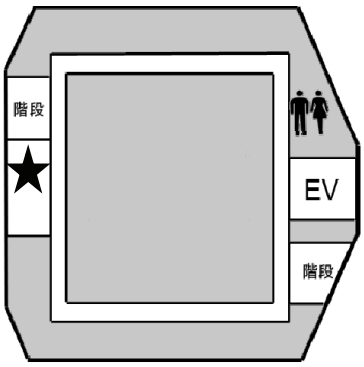
M&Dタワー



2階：鈴木章夫記念講堂



4階：図書館情報検索室



6階以上：以下参照

共用セミナー室 1	24階	共用セミナー室 8	10階
共用セミナー室 2･3	23階	共用セミナー室 11･12	6階
共用セミナー室 4	22階	大学院講義室 2	13階
共用セミナー室 5･6	15階	大学院講義室 3	11階
共用セミナー室 7	14階	大学院講義室 4	9階